

令和3年度

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練

実施結果報告書



緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
長野県実行委員会



緊急消防援助隊関東ブロックの1都9県と隣接ブロックの2県を表す流星が合流し、ひとつの大きな星となり力を発揮するイメージ

NAGANOの「N」に星の流れをデザイン、その背景には太陽と月をイメージした円の重なりを配しました。昼夜を問わず流星は合流し大きな星となり輝きを放つ様を表現

また、周りの12個の星は、関東ブロック1都9県と隣接ブロックの2県を表し、全体的な配色とデザインは、強い意志と信念をイメージして力強いものとなりました。

作成者 長野市消防局 花石正孝さん

はじめに

近年、国内で発生する気象災害は激甚化・頻発化しており、緊急消防援助隊は平成 25 年度以降毎年、全国各地で発生する災害現場に出動して被災者の救出・救助活動に当たっています。緊急消防援助隊が果たす役割への期待が高まる中、平成 23 年度以来 10 年ぶり 3 回目となる本県での関東ブロック合同訓練開催年度を迎えました。

新型コロナウイルス感染症という不安要素を抱えながらではありましたが、関東ブロックでは直近の 2 年間、合同訓練が実施されていないことから、緊急消防援助隊として活動する場を提供することも優先課題のひとつと捉え、10 年に 1 度の受援対応訓練が実施できる貴重な機会を最大限活用できるよう、本県らしい訓練企画の検討に努めました。

具体的な訓練計画には、前回合同訓練以降に本県で発生し、緊急消防援助隊の派遣を受けた御嶽山の噴火災害、令和元年東日本台風による浸水被害、土砂崩落等、大規模地震の発生と関連付けた種目のほか、全国的な課題となっている女性消防吏員の活躍推進のためのディスカッション、さらにメイン会場においては感染症対策やプライバシー確保にも配慮した宿営の実践を行うことなど、独自の企画も取り入れながら充実した訓練を目指しておりました。

しかし訓練直前、新型コロナウイルス感染症の拡大により関東ブロック 9 都県に緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が適用され、訓練の実施自体が危ぶまれる極めて厳しい状況となりましたが、最終的には感染拡大防止と訓練実施の両立を目指した Web 会議システムによる図上訓練を実施できたこと、さらに別日程で県内消防機関を対象にしたソロテントによる宿営モデルの提案等を実施できたことは、今後の訓練の在り方にも一石を投じる大きな成果になったと考えております。

例年の関東ブロック合同訓練とは趣の異なる内容ではありますが、本書は訓練の記録、参加者の御意見から抽出した課題や検証事項等を取りまとめたものです。結果については引き続き十分に検証し、本県の受援体制の強化に繋げていくとともに、本書が各都県のさらなる消防・防災体制の充実強化の一助となれば幸いです。

結びに、今回の訓練実施にあたり、御指導・御協力をいただきました消防機関、関係機関の皆様、また被災地想定 of 自治体や施設・資機材に関して御支援をいただいた事業者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

令和 4 年 3 月

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会
委員長 中村 宏平（長野県危機管理部長）

目 次

はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による合同訓練見直しの経過 . . . 1

第1章 訓練概要及び実施結果

第1 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練 2

1 訓練目的 2

2 訓練想定 2

3 訓練日時 2

4 訓練参加機関と視聴機関 2

5 訓練実施事項 3

6 検証重点事項 4

7 訓練進行結果 5

第2 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練の評価表集計結果 11

第3 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案 28

1 提案背景 28

2 概要 28

第4 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証
試験 32

1 目的 32

2 日時 32

3 場所 32

4 協力機関 32

5 参加者 32

6 展示・訓練内容 32

7 参加者からの評価結果 37

8 課題と対策 39

9 ソロテント宿営実証試験 40

第5 訓練会場・資機材等協力団体 48

第2章 全体検証会

第1 全体検証会 50

第2 総評（訓練検討員） 57

第3章	訓練縮小に伴い中止した訓練企画等	
第1	訓練概要	60
1	訓練目的	60
2	訓練想定	60
3	訓練日時	60
4	訓練等会場	60
5	参加機関	64
6	協力機関	64
7	訓練項目	65
8	実施要綱等（DVDに収録）	65
9	運営役員	67
第2	航空部隊訓練概要	70
1	訓練目的	70
2	訓練日時	70
3	訓練項目及び実施要領等	70
4	参加機関	71
5	ヘリベースとフォワードベース	71
6	航空機訓練会場	72
	訓練事務局員紹介	74
	参考資料	
	長野県実行委員会設置要綱	75
	長野県実行委員会作業部会設置要領	79
	長野県実行委員会事務局設置要領	83
	リーフレット（令和3年7月現在の計画）	86
	おわりに	89
	巻末（DVD2枚）	
	○1枚目	
	・Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練【フェーズ1及び2】（動画）	
	○2枚目	
	・Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練【フェーズ3（各ブレイクアウトルーム）及び検証会等】（動画）	
	・データ集	
	01-01 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練	
	01-02 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練の評価表集計結果	
	01-03 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材展示・訓練	
	01-04 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材展示・訓練結果	
	01-05 宿営実証試験	
	02 全体検証会	
	03 訓練縮小に伴い中止した訓練企画等	
	当初の訓練企画（フルスペック）	…「6月計画」
	宿営訓練中止決定後の訓練企画	…「7月計画」
	実動訓練中止決定後の訓練企画	…「9月計画」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による合同訓練見直しの経過

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練は、本県での開催が10年ぶりとなる貴重な受援訓練の機会であり、関東ブロック1都8県と隣接2県の応援部隊参加のもと、令和3年10月11日（月）・12日（火）の2日間、長野県上田市をメイン会場に6市1町の訓練会場で図上訓練、14項目の実動訓練及び女性消防吏員活躍推進ディスカッションを実施する計画を立案し、令和2年7月の第1回実行委員会において承認を受けました。その後、令和2年10月1日に事務局が発足し、訓練計画作成を本格的に始動させました。

新型コロナウイルス感染症が全国に広がっていたことから、事務局でも感染防止の徹底を図り、感染状況を注視しながら準備を進めましたが、令和3年度を迎えても感染は終息せず、7月上旬には宿営訓練の中止等を求めた総務省消防庁通知が発出されました。この通知を受け、7月15日に臨時の実行委員会を開催し、訓練日を10月11日（月）のみとし、6項目の実動訓練に縮小すること、また、訓練実施可否を決定する基準日を9月27日（月）とすることなどが承認されました。

しかし、その後も新型コロナウイルス感染症の新規感染者は増加の一途を辿り、指揮支援隊にPCR検査を実施した上で、図上訓練に限って行うことも検討しましたが、8月19日には長野県内の新規感染者数が過去最高の158名、8月20日には全国の新規感染者数が25,992名を記録したほか、8月27日には21都道府県に緊急事態宣言が発出され、災害レベルといわれる状況に陥りました。県内消防本部では、他部署間の職員の移動や集合の禁止等、前例の無い厳戒態勢がとられ、実動はもとより図上訓練すら実施が極めて困難な状況となりました。

事務局としては、10年ぶりの機会を何とか活かしたいと考え、人的移動をほとんど伴わない「Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練」を計画するとともに、感染防止やプライバシーに配慮したソロテントによる宿営活動時の長野県実行委員会モデルの展示と、応援時における特殊装備等の円滑な活用を目的とした独自企画を訓練直前となる9月3日の実行委員会において提案し、最終的な見直しが承認されました。

本報告書では、中止せず実施した内容を中心に掲載しましたが、中止した実動訓練関係の計画も記録として残すため、別添のDVDに関連資料を保存しました。計画見直しの経過も含めて、今後の参考としていただければ幸いです。

第 1 章



第1 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練

1 訓練目的

- (1) 急速に普及したWeb会議システム（Zoom）を活用することで、県庁と被災地消防本部、関係機関との情報共有を同時に行い、共通認識が可能なか検証する。また、リエゾンの削減に繋がる効果が見込めるか訓練を通じて検証する。
- (2) 指揮支援隊が陸路進出となった場合は、被災地消防本部への到着に時間を要することから、車両での移動中であっても指揮支援本部内と同等の任務ができるよう、災害状況をイメージし易い情報提供方法を検証する。
- (3) Web会議システムを活用した消防広域応援の早期調整、応援出動前の情報共有等、今後の可能性について検証する。

2 訓練想定

令和3年9月末から長野県東部を震源とする震度1から3程度の地震活動が続き、10月10日13時現在で震度1以上となる地震を52回観測した。長野県東信地方と群馬県を跨ぐ浅間山での噴煙量及び火山性ガス（二酸化硫黄）の放出量に目立った変化はなく、噴火警戒レベル1を維持していた。

令和3年10月11日未明から長野県東部を震源とする震度3程度の地震活動が続き、7時30分、上田市付近を震源とする極浅発地震が発生し、震度6弱を観測した。地震による家屋の倒壊や土砂崩落が各地で発生し、被害は東北信地域に及んだ。

8時15分には浅間山において中規模な噴火が発生し、下山中の登山者が負傷した。地震と噴火が連続して発生し、甚大な被害が広域に拡大し、負傷者が多数発生した。

なお、指揮支援隊は降雨によってヘリコプターで迅速に被災地に赴くことができず、陸路での進出となり長時間を要する。

長野県災害対策本部では消防庁と協議し、Web会議システムを立ち上げ、関係機関との連絡体制を確保した。

3 訓練日時

令和3年10月11日（月） 8時30分から13時00分まで

4 訓練参加機関と視聴機関

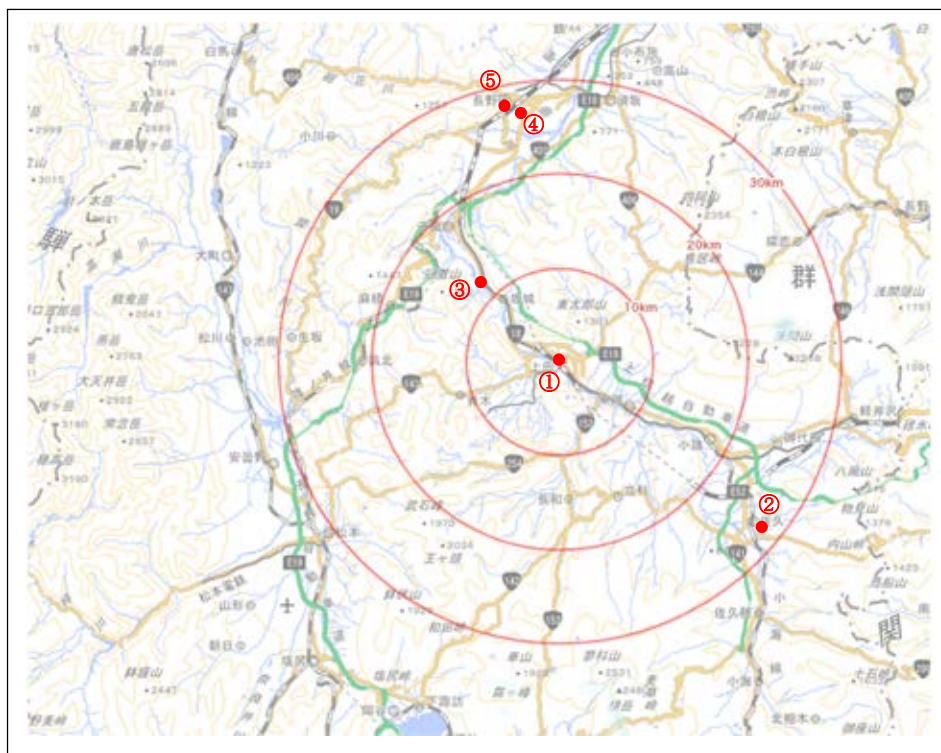
- (1) 訓練参加機関 10機関 61名

訓練参加機関	役割	訓練参加人数
総務省消防庁	総務省消防庁	2名
東京消防庁	統括指揮支援隊	4名
横浜市消防局	指揮支援隊（上田広域）	12名
さいたま市消防局	指揮支援隊（佐久広域）	7名
静岡市消防局	指揮支援隊（千曲坂城）	6名
長野市消防局	代表消防機関	6名
上田地域広域連合消防本部	被災地消防本部	3名
佐久広域連合消防本部	被災地消防本部	8名
千曲坂城消防本部	被災地消防本部	5名
長野県庁	県災害対策本部（調整本部）	8名

(2) 訓練視聴機関 28 機関

訓練視聴機関	機関数
総務省消防庁	1 機関
訓練検討員（千葉市消防局）	1 機関
県外都県関係部署	7 機関
県外消防本部	4 機関
県内消防本部	13 機関
長野県消防防災航空隊	1 機関
長野地方气象台	1 機関

(3) 長野県内実施機関位置図



5 訓練実施事項

(1) フェーズ0（訓練日までの事前準備）

- ア 事前に事務局より被災地消防本部に訓練シナリオを送付する。
- イ 被災地消防本部は訓練シナリオで示した想定を基に被害状況、部隊配置、意思決定事項等を準備し、被害状況を作成した訓練シナリオは事前に事務局に提出する。
- ウ 被災地消防本部の被害状況を入力した訓練シナリオをその他のプレイヤーに送付するので、訓練日までに部隊配置、意思決定事項等を検討する。

- (2) フェーズ1 (応援要請の検討～応援決定) ※訓練開始
- ア Zoom「メインルーム」を使用する。
 - イ 被災地消防本部は管内の被害状況、活動状況等をホワイトボード、地図等で取りまとめ、緊急消防援助隊の応援の要否を検討し、長野県災害対策本部に順次報告する。
 - ウ 代表消防機関は県消防相互応援隊の応援先市町村を報告する。
 - エ 長野県災害対策本部は被災地消防本部から被害状況等を収集し、消防庁に対して県内の被害状況の報告、緊急消防援助隊の応援要請を行う。
 - オ 応援要請を受けた消防庁は出動の求め又は指示を行い、その旨を長野県災害対策本部等に通知する。
- (3) フェーズ2 (緊援隊出動～応援先被災地の決定)
- ア Zoom「メインルーム」を使用する。
 - イ 応援都県からの出動隊数報告を受けた消防庁は、消防応援活動調整本部等に対して緊急消防援助隊が出動した旨を通知する。
 - ウ 統括指揮支援隊と消防応援活動調整本部は応援先市町村を検討する。
- (4) フェーズ3 (部隊配置場所の検討、受援体制報告)
- ア Zoom「メインルーム」及び各機関に割り振った「ブレイクアウトルーム」を使用する。
 - イ 各ブレイクアウトルームで被災地消防本部と指揮支援隊が協議し、被害状況の報告、緊急消防援助隊の配置場所及び受援体制を協議する。
必要に応じ調整本部及び統括指揮支援隊等も各ブレイクアウトルームに入り協議を行う。
 - ウ 協議終了後はメインルームに戻り、受援体制の決定事項を報告する。 ※訓練終了
- (5) 検証会
- 各機関で討議した後、被災地消防本部 (上田・佐久・千曲坂城)、代表消防機関、調整本部、指揮支援隊、統括指揮支援隊、訓練検討員、消防庁の順番で発表した。

6 検証重点事項

- (1) 指揮支援隊が状況を把握できる情報提供内容の確認
- (2) Web会議システムで確認が容易なホワイトボード記載内容と地図作成及び撮影手法の確認
- (3) 指揮支援隊として必要な情報が引き出せるか確認
- (4) 参加者全員が情報を把握できるか確認
- (5) Zoomの各種機能の有効性の確認

7 訓練進行結果

Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練 訓練進行結果

○実施日時 令和3年10月11日(月) 8:30~13:00

進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部		佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容
★フェーズ0 災害発生～緊急消防援助隊 応援要請までの各機関の災害対応 (訓練実施前に行った状況予測内容)									
7:30	7:30 ●長野県東信地方 千曲市坂城町 地震(本震)発生 (最大震度6弱) ※迅速出動 該当郡県 出動準備開始		7:30 ○消防庁 →迅速出動該当郡県 「応援都道府県判定表」送信 №a0-1-1	7:35 ○上田東北消防署 庁舎南面の壁に亀裂多数 南側駐車場陥没 断水・停電 ○本部庁舎と広域各署停電(各 庁舎自家発電対応中) 各車両異常なし	○被災地消防本部 ・本部、各署の人員、車両、庁 舎の被害確認 ・管内の被害状況収集(時間、 場所、規模、出動隊) ・職員招集(本部・各署) ・各インフラ(ライフライン、 交通、通信)の状況把握 ・関係機関(市町村、自衛隊、 警察、医療)と情報共有 ・情報伝達方法、連絡先を確認 ・災害即報 ・長野県消防相互応援要請 ・通信指令室の補助 ・管内病院受入確認	○119番通報多数入電 7:35 ①佐久市岩村田 建物火災 →指揮隊1、救急隊1、消火隊 4	○被災地消防本部 ・難防本部設置7:30 ・本部、各署の人員、車両、庁 舎の被害確認 ・管内の被害状況収集(時間、 場所、規模、出動隊) ・職員招集(本部・各署) ・各インフラ(ライフライン、 交通、通信)の状況把握 ・関係機関(市町村、自衛隊、 警察、医療)と情報共有 ・情報伝達方法、連絡先を確認 ・災害即報 ・長野県消防相互応援要請		
7:40			7:45 ①上田市国分 建物火災 →救急隊1、消火隊4						
7:50			○被災地消防本部 →消防庁、県庁 「火災・災害即報」送信 上田広域 8:00 佐久広域 7:50 火山噴火 8:35 千曲広域 7:50 №a0-2-1	7:50 ②東御市海野宿 建物火災 →救急隊1、消火隊4 7:52 ③上田市常入 土砂崩落 →未対応 7:55 ④上田市野竹 トンネル崩落 →未対応 8:00 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →未対応	8:00 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ 報告 ※火災・災害即報 第4号様式	7:50 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ報告(火 災) ※火災・災害即報 第4号様式			
8:00	8:00 ※迅速出動該当都道府県へ出 動可能隊数報告及び出動準備 依頼	○消防庁が迅速出動該当都道 府県へ「出動可能隊数報告及 び出動準備依頼」送付 ※本訓練省略	○消防庁→応援都県 「出動可能隊数報告及び出動 準備依頼」要請要綱別記様式 2-1 ※本訓練省略	8:00 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ 報告 ※火災・災害即報 第4号様式	8:00 ①佐久市岩村田 建物火災、住 宅密集地のため延焼拡大 →第2出動を検討				
8:10	8:15 ●浅間山噴火 中規模噴火 (噴火警戒レベル3)		8:15 ③上田市常入 土砂崩落 →偵察隊1 8:17 ④上田市野竹 トンネル崩落 →偵察隊1 8:19 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →救助隊1	8:15 ○県消防相互応援隊の要請検討 ・消防本部対策会議で県相互の 要請検討→決定(全県応援) ・県、代表消防本部への情報提 供	8:15 ●浅間山噴火 中規模噴火 (噴火警戒レベル3)	8:15 ○県消防相互応援隊の要請検討			
8:20			○被災地消防本部 →代表消防機関 「県消防相互応援隊の応援要 請書」様式第1号 送信 上田広域 8:30 佐久広域 8:50 千曲広域 8:25 №a0-3-1			8:20 ②浅間山 噴火災害 →指揮隊1、救助隊1、救急隊 1、消火隊1			
8:30				8:30 ○県消防相互応援要請 「県消防相互応援隊の応援要請 書」様式第1号 送信 8:30 ○難防本部設置 ○参集状況 職員数208名→8割 167名参集済 ○信州上田MFC災害拠点病院 調整員 高藤氏 ○DMAT拠点 信州上田MFCに決定 トリアージ区分「黄」以上の 一次搬送先を信州上田MCとす る。 8:40 ○上田市災害対策本部設置済 派遣職員：宮下副署長 ライフライン状況 ○水道管・消火栓→不明 ○管内停電→国分地区 ○携帯電話→使用可能	8:30 ③高峰山及びアサマ2000パー ク 噴火災害 →指揮隊1、救急隊1、消火隊 1	8:35 ○火災・災害即報 作成・県及び消防庁へ報告(火 山噴火) ※火災・災害即報 第4号様式			
8:40									
8:50							8:50 ○県消防相互応援要請 ※「県消防相互応援隊の応援要 請書」様式第1号 送信 ○難防本部から指揮本部に移 行。		

- 前提条件
- ・緊急消防援助隊の進出に係る交通インフラの被害なし
 - ・一部地域で停電発生
 - ・その他ライフライン不明
 - ・降雨によりヘリ離陸不能(航空指揮本部は訓練不参加)
 - ・通信インフラの被害なし

【凡例】 (赤字)・・・重要事項(災害・意思決定) (青字)・・・要綱等に記載事項(黒字)・・・活動・その他事項 (緑字)・・・様式等 (紫字)・・・Web会議システム機能

千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部 消防応援活動調整本部	長野県 代表消防機関	消防庁災害対策本部	緊急消防援助隊		
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊	長野県/調整本部	東京消防庁/統括指揮支援隊	長野市消防局	総務省消防庁	応援都道府県/各部隊
状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容
★フェーズ0 災害発生～緊急消防援助隊 応援要請までの各機関の災害対応 (訓練実施前に行った状況予測内容)							
○119番通報なし	<ul style="list-style-type: none"> ○被災地消防本部 <ul style="list-style-type: none"> ・本部、各署の人員、車両、庁舎の被害確認 ・管内の被害状況収集(時間、場所、規模、出動隊) ・職員招集(本部・各署) ・各インフラ(ライフライン、交通、通信)の状況把握 ・関係機関(市町村、自衛隊、警察、医療)と情報共有 ・情報伝達方法、連絡先を確認 ・災害即報 ・長野県消防相互応援要請 		<ul style="list-style-type: none"> ○被災都道府県(市町村) <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部設置 ・被災地消防本部、市町村と被災状況の情報共有 ・代表消防機関・消防庁と情報共有 ・長野県消防相互応援について代表消防機関と調整 ○災害対策本部設置【消防班】 <ul style="list-style-type: none"> ・長野県災害対策本部設置の連絡(代表消防機関及び被害の予想される市町村を管轄する消防本部) ・被害の予想される市町村を管轄する消防本部に対し、被害状況の情報収集を実施 ・代表消防機関、総務省消防庁との情報共有 ・必要に応じ、消防本部に対し各種応援要請等に関する助言・進言実施 ・火災・災害等即報(消防庁即報)の直接即報基準に該当するため、報告がされていなければ、市町村or消防本部に対し対応を依頼。 ・消防庁から迅速出動該当(要請要綱A表該当の旨)連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請要綱A表により出動準備該当、統括指揮支援隊は出動可能隊数の確認及び出動準備を実施 ・出動準備 <ul style="list-style-type: none"> ・東京都へ「出動可能隊数報告」要請要綱別記様式2-2 送信 ○消防庁から要請要綱A表により出動準備適用の旨の電話連絡 ※A表-1 III-A 統括指揮支援隊 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害状況収集 ○被災地消防本部と県消防相互応援に関する協議 ○長野県災害対策本部と情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 7:30 ○消防庁災害対策本部設置 <ul style="list-style-type: none"> ・災害の情報収集(被害状況、インフラ、関係機関) ・応援都道府県、全国へ判定表の送信、SJKに入力 「応援都道府県 判定表」送信 Na0-1-1 ・要請要綱A表の迅速出動該当県へ「出動可能隊数の報告及び出動準備」連絡 ・長野県へ迅速出動該当(要請要綱A表該当の旨)連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請要綱A表の出動準備該当都道府県 <ul style="list-style-type: none"> ・出動可能隊数の確認及び出動準備を実施(統括・統合機) ・消防庁へ「出動可能隊数報告」別記様式2-2 送信 ○消防庁から要請要綱A表により出動準備適用の旨の電話連絡 ※A表-1 III-A 統括指揮支援隊・統合機動部隊
8:03	<ul style="list-style-type: none"> ①千曲市八幡 建物火災 →指揮隊1、消防隊3、回5 	8:00		8:00		8:00	<ul style="list-style-type: none"> ○消防庁から 出動準備依頼 及び 出動可能隊数報告 要請要綱別記様式2-1 受領
8:10	<ul style="list-style-type: none"> ②千曲市上山田温泉 建物火災 →指揮隊1、救助隊1、消防隊3、回5 	8:03	<ul style="list-style-type: none"> ○千曲市及び坂城町災害対策本部設置の連絡あり、またりエソンの派遣要請あり 				
8:13	<ul style="list-style-type: none"> ①千曲市八幡 建物火災 延焼拡大→対応中 	8:13	<ul style="list-style-type: none"> ○千曲市及び坂城町災害対策本部にリエソンプ派遣 				
8:15	<ul style="list-style-type: none"> ②千曲市上山田温泉 建物火災 →対応中 救助隊1 増隊 	8:15	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況と自消防本部の消防力を比較し、県内応援隊の要否を検討 				
8:25	<ul style="list-style-type: none"> ③千曲市稲荷山 建物倒壊 →指揮隊1、救助隊1、資機材運搬隊1、救助隊2、回5 →対応不能 	8:25	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況と自消防本部の消防力を比較し、県内応援隊の要否を検討。(県代表消防機関とも協議開始) ※県消防相互応援要請書 様式第1号 				
8:31	<ul style="list-style-type: none"> ②千曲市上山田温泉 建物火災 延焼拡大 →消防隊2 増隊したが消火隊不足 	8:33	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急消防援助隊要請判断、市長、町長に確認、決定。 ○県防本部から指揮本部に移行(指揮本部設置) ・県調整本部に指揮本部設置の報告及びリエソンプ派遣 				
8:33	<ul style="list-style-type: none"> ③千曲市稲荷山 建物倒壊 倒壊多数 火災なし →指揮隊1、救助隊1、資機材運搬隊1、救助隊2、回5 	8:40	<ul style="list-style-type: none"> ○県消防相互応援隊に係る連絡 様式第7号 				
8:33	<ul style="list-style-type: none"> ①千曲市八幡 建物火災 →対応中 拡大阻止見込み 	8:43	<ul style="list-style-type: none"> ○県内応援隊、緊急消防援助隊の進出拠点、進出ルート、部隊投入場所等検討 ○自衛隊派遣要請検討 ○DMAT要請検討 8:55 ○DMAT要請 				
8:40	<ul style="list-style-type: none"> ④千曲市打沢 土砂崩落 →人員搬送車1、資機材運搬隊1、救助隊2、回5 	8:47	<ul style="list-style-type: none"> ④千曲市打沢 土砂崩落 住宅10以上 →対応不能 増隊要請 				
8:43	<ul style="list-style-type: none"> ③千曲市稲荷山 建物倒壊 →追加情報 	8:55	<ul style="list-style-type: none"> ②千曲市上山田温泉 建物火災 12棟延焼 拡大危険あり →消火隊不足 				

進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊	
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	
訓練開始 9:00	★フェーズ1	緊急消防援助隊 応援要請	災害状況報告・応援要請検討	災害状況報告・応援要請検討	災害状況報告・応援要請検討	災害状況報告・応援要請検討	災害状況報告・応援要請検討	災害状況報告・応援要請検討		
9:00	★長野県消防相互応援隊の応援決定 ★被災地消防本部から長野県災害対策本部へ災害状況報告 ★被災地市町村長(消防本部)から県知事(長野県)へ緊急消防援助隊の応援要請 ★現時点の応援体制報告(各本部約10分間)	○代表消防機関(長野市消防局)から被災地消防本部へ「長野県消防相互応援隊の応援決定通知」授受 ・被災地本部へ県消防相互応援隊の応援連絡 ○被災地消防本部から長野県庁へ災害状況及び応援要請検討に至る意思決定を報告 ○応援要請(応援等の要請のための連絡) ○現時点の応援体制報告	9:00 ○代表消防機関から「県消防相互応援隊の応援決定通知書」長野県消防相互応援隊実施細則 様式第2号送信 №1-1-1~1-1-4 9:00~9:31 ○被災地消防本部→県庁「応援要請のための連絡事項」要請要綱別記様式1-2授受 上田広域 9:31 佐久広域 9:30 千曲広域 9:00 №1-2-1~1-2-3	9:00 ○上田市 災害対策本部 ・自衛隊派遣要請を検討 9:00 ○東御市災害対策本部設置派遣職員・石井係長 ○上田警察署内対応本部設置済 9:00~9:09 ○現在の被害状況報告 ○重要案件(緊要隊検討事項) ○活動方針について ○災害現場の位置関係を地図にて画面共有 ○道路状況の報告 ○進出地点の報告 9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:00 ○代表消防機関から 長野県消防相互応援隊の配置報告 ※県内消防相互応援隊協定実施細則 様式第2号 チャット機能で授領 9:00~9:10:00 ①佐久市岩村田 建物火災 →救急隊1、消防隊1増隊 ②浅間山 噴火災害 →対応中 ③高峰山及びアサマ2000パーク 噴火災害 →対応困難 ④佐久市 佐久クリーンセンター一帯 →対応困難 佐久広域の報告詳細 ○現在の被害状況報告 ・火災2件 ・救助5件 ・救助17件(11件未対応) →消防力の不足 ○重要案件(緊要隊検討事項) ・常入土砂崩落10棟20人? ・材木町土砂崩落20棟40人? ・野竹トンネル崩落多重衝突20台? ○方針 ・火災対応第一優先 ・消防力と比較→応援検討 ○災害現場の位置関係を地図にて画面共有 ○道路状況 ・国道18号神川橋崩落 →通行不可 ・アサマサンライン野竹トンネル崩落→通行不可 ○進出地点 おそぎの道 ・上信越道(下り) 東部湖の丸SA ○OSJKに被害情報を入力 ○管内市町村の災害対策本部の設置状況、リエンの派遣状況 ○管内のインフラ状況 ・道路、電気、水道、ガス ・通信の被害状況 ・給油所の被害状況 9:09~9:19 ○被害状況等の報告 ○地震、噴火に付随する報告 ○インパクト災害の詳細報告 9:16 ○OSJKに被害情報を入力 ○県消防相互応援隊について ○佐久広域(消防、市町村)の災害対応 ○管内のインフラ状況 ○群馬県側の被害状況 ○噴火災害に係る必要資機材、装備品について	9:00 ○代表消防機関から 長野県消防相互応援隊の配置報告 ※県内消防相互応援隊協定実施細則 様式第2号 チャット機能で授領 9:09~9:19 ○被害状況等の報告 ○地震、噴火に付随する報告 ○インパクト災害の詳細報告 9:16 ○OSJKに被害情報を入力 ○県消防相互応援隊について ○佐久広域(消防、市町村)の災害対応 ○管内のインフラ状況 ○群馬県側の被害状況 ○噴火災害に係る必要資機材、装備品について				
9:10	被災地から長野県へ 緊急消防援助隊の「応援要請の為の連絡事項」	※応援要請が不参加の為、消防庁が要請要綱別記様式2-2を作成、2-1は省略。	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊	9:10 ②東御市海野町 建物火災 →消防隊2隊増隊		
9:20			9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応	9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応	9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応	9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応	9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応	9:20 ①上田市国分 建物火災 →消防隊1隊増隊 9:25 ⑥副立 [上田市須川] →未対応		
9:30	★応援都県 緊急消防援助隊 ・ 出動可能隊数報告 ・ 出動準備 ・ 出動準備	○緊急消防援助隊 ・ 出動可能隊数報告 ・ 出動準備 ※要請要綱 別記様式2-1、2-2授受	9:30 ○応援都県→消防庁 「出動可能隊数報告」 別記様式2-2 送信 部隊(指揮支援)、大隊、部隊(土砂崩)	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中	9:30 ③上田市常入 土砂崩落 →対応中		
9:40	★緊急消防援助隊応援要請について検討・協議	○被災地消防本部、長野県、代表消防機関、消防庁で緊急消防援助隊応援要請の検討・協議	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊	9:40 ④上田市野竹 トンネル崩落→ 救助隊2、救急隊3増隊		
9:50	★県知事(長野県)から長官(消防庁)へ ・ 応援等の要請 ・ 災害状況報告	○被災地から消防庁へ緊急消防援助隊の応援要請(県知事による応援等の要請)	9:50 ○長野県→消防庁 「緊急消防援助隊の応援要請」要請要綱別記様式1-1送信 №1-3-1 ○指揮支援部隊 9:55 東京、神奈川、埼玉、静岡 ・ 都道府県大隊 9:58 群馬、新潟、山梨、岐阜	9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中 ○長野県、代表消防と緊要隊要請検討 ○DISJに入力 ・ 進出地点 (おとぎの里、東部湖の丸SA) ・ 通行止 (神川橋、野竹トンネル)	9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中	9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中	9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中	9:50 ⑤上田市材木町 土砂崩落 →対応中		
9:55	★長官(消防庁)による ・ 出動の求め	○消防庁から出動該当都県(各部隊)へ出動の求め	9:55 9:58 ○「緊急消防援助隊の出動の求め」要請要綱別記様式3-1 №1-4-1、1-4-2	緊急消防援助隊 出動の求め(長官→応援都県知事→統括指揮支援隊、指揮支援隊、応援都県大隊、各部隊へ出動の求め)※応援都県は訓練不参加					緊急消防援助隊 出動	
10:00	★消防庁 指揮支援隊の協議	10:00~10:17 ○消防庁、指揮支援隊協議 ※ブレイクアウトルームで協議	10:00 ○応援都県→消防庁 「出動隊数の報告」 別記様式2-2 ・ 指揮支援部隊 東京、神奈川、埼玉、静岡 ・ 都道府県大隊 群馬、新潟、山梨、岐阜 ※本訓練では消防庁が作成	10:00 ⑥東御市海野町 建物火災 →対応中 10:10 ①上田市国分 建物火災 →対応中 ○Sik入力内容 ・ 常入土砂崩落:10棟埋没(20名行方不明) ・ 材木町2丁目土砂崩落:20棟埋没(40名行方不明) ・ トンネル崩落:5台埋没 ○DISJ入力内容 ・ 進出(上信越自動車道) ・ 火災(国分、大規模火災、海野町、大規模建物火災、妻敷R(野竹トンネル崩落事故) ・ 倒壊(常入土砂災害、材木町土砂崩落) ・ 通行止(野竹トンネル、国道18号神川橋崩落) ・ 活版屋営業地(県営上田野球場、自然運動公園) 10:26 ○消防庁から「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2 チャット機能で授領	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・ 消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で授領 ○災害状況、道路状況、他庁庁情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は上田広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ①佐久市岩村田 建物火災 →消防隊3増隊 ②浅間山 噴火災害 →対応中 ③高峰山及びアサマ2000パーク 噴火災害 →対応困難 ④佐久市 佐久クリーンセンター一帯 →対応困難 横浜市指揮支援隊ブレイクアウトルーム協議内容詳細 ○上田広域情報 ・ 常入土砂崩落 ・ 材木町土砂崩落 ・ 野竹トンネル崩落 3つの現場にて消防力不足被災地から情報を取得 ○長野県内の情報共有 ・ 降雨、噴火によりへり活動不可 ・ 道路情報、長野県内主要道路通行可 ・ 県庁、各市へ出動 ・ へり活動可能時に発信 ・ 船隻増強は消防庁へ ・ 他家庁(自衛隊、警察調整中)出動要請(未実施)	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・ 消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で授領 ○災害状況、道路状況、他庁庁情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は佐久広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・ 消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で授領 ○災害状況、道路状況、他庁庁情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は佐久広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・ 消防庁、指揮支援隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で授領 ○災害状況、道路状況、他庁庁情報共有 ○統括、指揮支援隊配置図を下記図表示(出動先は佐久広域) ○陸路での出動要請 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	
10:10	消防庁と指揮支援部隊の協議・情報共有									
10:20	★長官(消防庁)から県知事(長野県)へ ・ 応援等の決定通知 ★指揮支援隊の協議	○消防庁から長野県庁へ(被災地消防本部へ) ・ 緊急消防援助隊応援等決定通知 ※添付される別記様式3-1は9:55にチャット送信されているので添付なし	10:23 ○「緊急消防援助隊の出動の求め」は指示)要請要綱別記様式3-1送信 ・ 部隊(土砂崩) №1-4-3 10:26 ○消防庁→長野県 「緊急消防援助隊の応援等決定通知」別記様式3-2送信 №1-5-1	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊	10:20 ⑦上田市立第一中学校 異変 →指令車等3隊		
	「応援等決定通知」									

千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部、消防応援活動調整本部		長野県 代表消防機関		消防庁災害対策本部		緊急消防援助隊								
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊		長野県/調整本部		東京消防庁/統括指揮支援隊		長野市消防局								
状況予測/事前作成		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容		訓練実施内容								
災害状況報告・応援要請検討				災害状況把握(応援要請助言)・応援等要請												
9:20 ⑤千曲市八幡 多重衝突事故 →救急隊2	9:00 ○代表消防機関から 長野県消防相互応援隊 の配置報告 ※県内消防相互応援協定 実施細則 様式第2号 チャット機能で受領 9:00 ○長野県へ「応援等要請のため の連絡事項」 要請要綱別記様式1-2 チャット機能で送信 千曲坂城の報告詳細 ○被害状況等の報告 ○消防本部の対応状況報告 現在の状況(警防本部設置、職員 招集状況) ・各災害の状況 ・怪我人、逃げ遅れ、行方不明 者の人数 ・消火栓の使用可否 ・出動隊数、活動状況 ・消防力の不足場所 ・応急救護所の設置状況 9:19~9:31 ○被害状況等の報告 ・iPad画面共有 WB、時系 別、地図を共有 ○消防本部の災害対応報告 ○県内応援隊の要請状況 ○DMAT、重機の要請状況 ○自衛隊の要請状況 ○県庁と緊援隊の派遣場所を協 議 ○長野県、代表消防と緊援隊要 請検討	9:00 ○代表消防機関から 長野県消防相互応援隊 の配置報告 ※県内消防相互応援協定 実施細則 様式第2号 チャット機能で受領 9:00 ○長野県へ「応援等要請のため の連絡事項」 要請要綱別記様式1-2 チャット機能で送信 千曲坂城の報告詳細 ○被害状況等の報告 ○消防本部の対応状況報告 現在の状況(警防本部設置、職員 招集状況) ・各災害の状況 ・怪我人、逃げ遅れ、行方不明 者の人数 ・消火栓の使用可否 ・出動隊数、活動状況 ・消防力の不足場所 ・応急救護所の設置状況 9:19~9:31 ○被害状況等の報告 ・iPad画面共有 WB、時系 別、地図を共有 ○消防本部の災害対応報告 ○県内応援隊の要請状況 ○DMAT、重機の要請状況 ○自衛隊の要請状況 ○県庁と緊援隊の派遣場所を協 議 ○長野県、代表消防と緊援隊要 請検討	9:00 ○被災地消防本部へ 長野県消防相互応援隊 の配置報告 ※県内消防相互応援協定 実施細則 様式第2号 チャット機能で送信 9:00~9:31 ・各被災地消防本部の災害状況 把握 9:01 ○相互応援配置、各被災状況聴 取(各被災地消防本部による県 への報告を受受していたが、緊 急消防援助隊の出動に関わる行 書情報のみの聴取を改めて行 う) ・土砂風水害対策の要否 ・天候及び噴火でのヘリ活用 可否 → 統括等の出動は陸路と することを検討 ・消防応援活動調整本部の準備 状況確認 ・現在の状況をまとめたものを SJKにアップするよう指示 ・他省庁(自衛隊、警察、 DMAT)への連絡状況聴取 ・長野県の実援計画を確認し、 進出拠点及び宿営地について、 ハザードを考慮しながらの検討 を依頼 ・他省庁の実動部隊を考慮しつ つ、第1出動都道府県隊を検討 (4都道府県隊程度) ○応援要請「出動可能隊数報 告及び出動準備依頼」別記様式 2-1送信(本訓練は省略)	9:00 ○被災地消防本部、長野県と緊 援隊要請検討 9:01 ○相互応援配置、各被災状況聴 取(各被災地消防本部による県 への報告を受受していたが、緊 急消防援助隊の出動に関わる行 書情報のみの聴取を改めて行 う) ・土砂風水害対策の要否 ・天候及び噴火でのヘリ活用 可否 → 統括等の出動は陸路と することを検討 ・消防応援活動調整本部の準備 状況確認 ・現在の状況をまとめたものを SJKにアップするよう指示 ・他省庁(自衛隊、警察、 DMAT)への連絡状況聴取 ・長野県の実援計画を確認し、 進出拠点及び宿営地について、 ハザードを考慮しながらの検討 を依頼 ・他省庁の実動部隊を考慮しつ つ、第1出動都道府県隊を検討 (4都道府県隊程度) ○応援要請「出動可能隊数報 告及び出動準備依頼」別記様式 2-1送信(本訓練は省略)	9:34 ⑤千曲市八幡 多重衝突事故 負傷者多数 →救急隊2 →救急隊・救急隊不足 増隊要請 DMAT要請	9:31~9:34 ○被災地消防本部 代表消防と 緊援隊要請検討	9:50 ○SJKに被害情報を入力 9:58 ○しなの鉄道鉄道の運休情報、 打沢地区の土砂災害によるもの と思われる。	9:31~9:34 ○被災地消防本部 代表消防と 緊援隊要請検討	9:50 ○緊急消防援助隊の要請 「緊急消防援助隊の応援等要 請」 要請要綱別記様式1-1 チャット機能で送信	9:50 ○県庁災害対策本部と緊急消防 援助隊の要請検討	9:50 ○長野県からの緊急消防援助隊 応援要請受領 9:52 ※要請要綱 別記様式1-1 チャット機能で受領 ・ルート選定のため道路状 況確認	9:50 ○県庁災害対策本部と緊急消防 援助隊の要請検討	9:50 ○長野県からの緊急消防援助隊 応援要請受領 9:52 ※要請要綱 別記様式1-1 チャット機能で受領 ・ルート選定のため道路状 況確認	9:30 ○応援要請→消防庁 「出動可能隊数報告」 別記様式2-2送信 部隊(指揮支援)、大隊、部隊 (土砂風) ※本訓練では消防庁が作成	9:30 ○消防庁から「出動可能隊数報 告及び出動準備依頼」別記様式 2-1送信(本訓練は省略)	
緊急消防援助隊 出動の求め(長官→応援都県知事→統括指揮支援隊・指揮支援隊・応援都県大隊・各部隊へ出動の求め)※応援都県は訓練不参加																
緊急消防援助隊 出動																
10:00 10:08 ○SJKに被害情報を入力	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援部隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ○災害状況、道路状況、他省庁 情報共有 ○統括、指揮支援隊配置ぶら下 がり図提示 (出動先は千曲坂城) ○陸路での出動要請	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援部隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ○災害状況、道路状況、他省庁 情報共有 ○統括、指揮支援隊配置ぶら下 がり図提示 (出動先は長野県庁) ○陸路での出動要請 ○長野県及び被災地消防本部へ 追加情報提供依頼 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援部隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ○災害状況、道路状況、他省庁 情報共有 ○統括、指揮支援隊配置ぶら下 がり図提示 (出動先は長野県庁) ○陸路での出動要請 ○長野県及び被災地消防本部へ 追加情報提供依頼 10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:00 ○ブレイクアウトルーム入室 ・消防庁、指揮支援部隊の協議 10:05 ○緊急消防援助隊出動の求め 要請要綱 別記様式3-1 チャット機能で受領 ・並行し、災害状況、道路状 況、他省庁情報共有 ・統括、指揮支援隊配置ぶら下 がり図WBで画面上に提示 ・陸路での出動要請	10:00 ○応援要請→消防庁 「出動可能隊数報告」 別記様式2-2送信 別記様式2-2送信 ・指揮支援部隊 東京、神奈川、埼玉、静岡 ・都道府県大隊 群馬、新潟、山梨、岐阜 ※本訓練では消防庁が作成	10:18 ○SJKに被害情報を入力	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出	10:17 ○ブレイクアウトルーム退出
10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○長野県(災対本部、被災地消 防本部)へ 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で送信 ※訓練休憩中に送信	10:26 ○長野県(災対本部、被災地消 防本部)へ 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で送信 ※訓練休憩中に送信	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領	10:26 ○消防庁から 「緊急消防援助隊の応援等決定 通知」別記様式3-2 チャット機能で受領		

進行時間	訓練統制 主なイベント	フェーズ シナリオ説明	様式等の授受	上田地域広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部		佐久広域連合消防本部 指揮本部・指揮支援本部			
				上田地域広域連合消防本部		横浜市消防局/指揮支援隊	佐久広域連合消防本部		さいたま市消防局/指揮支援隊
				状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容
10:30	★フェーズ2 緊急消防援助隊 配置検討			災害状況報告・応援隊配置受領	災害状況把握	災害状況報告・応援隊配置受領	災害状況把握		
10:30	★消防応援活動調整本部設置	10:30 ○受援県(長野県)は消防応援活動調整本部 設置 活動拠点を及び宿営場所の検討	10:35 消防庁がWeb会議システムでホワイトボードに記入した緊急消防援助隊ふら下がり図を提示 №2-1-1	○現在の被害状況報告 (10:00) ・火災2件 ・救助6件 ・救出27件(1件未対応) ○重要案件(緊援隊検討事項)の報告 ・園分建物火災 5棟延焼中、薪圧まで1時間 罹8階30名、10階40名 ・海野宿建物火災 6棟延焼中 罹8階32名、10階16名 ・常入土砂 10棟行方不明者20名ほど ・トンネル 上田側10台・東御市側5台 多重衝突・要救助者5名 トンネル上部の民家は避難済 ・材木町土砂 20棟行方不明者40名ほど ・須川地区孤立 道路の崩落・倒木発生 救+件孤立、車両でのアクセスは不能 ○方針について ・火災対応第一優先 ・消防力と比較→応援隊検討 ○道路状況 ・国道18号神川橋崩落 →通行不可 ・アサマサンライン野竹トンネル崩落→通行不可 ○進出拠点の報告 ・おとぎの里 ・上信越道(下り) 東部溝の丸SA 誘導員を配置完了			10:41 OSJKへ被害情報の入力		
10:40			10:43 ○代表消防→関係機関 「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 №2-2-1						
10:50	★被災地消防本部から調整本部へ県内消防相互応援隊の配置・受援体制報告、災害状況の変化・追加報告 ★調整本部は指揮支援部隊長に被害状況及び活動状況等を報告	10:55~11:25 ○被災地消防本部から長野県緊急消防援助隊調整本部へ県内消防相互応援隊受援体制報告、災害状況追加報告		10:55~11:00 ○現在の被害状況報告 ○重要案件・方針の報告 ○災害現場の位置関係地図にて画面共有 ○道路状況の報告 ○進出拠点の報告	10:53 ○被災地本部までの到着 予定時間を消防庁に報告(3時間半)	ODJSへ入力内容 緊援隊、県内相互の活動拠点場所 ○被害状況等の報告 ・災害状況の経過報告 ○各インフラについて ・水利の状況 ・管内の道路、電気、水道、ガス、通信の被害状況 ○県相互、関係機関の情報 ・自衛隊の要請状況 ・県内相互応援隊の状況 ・生コン、バス等の協定に基づく要請の有無	10:53 ○被災地本部までの到着 予定時間を消防庁に報告(3時間)		
11:00						11:00 ODJSへ入力 緊援隊、県内相互の活動拠点場所 11:00~11:08 ODJSへ活動拠点入力 ○被害状況等の報告 ○浅間山付近の風向、風速 ○各インフラについて ○収容病院の受入状況 ○県相互、関係機関の情報 ○無線不感地帯のため無線中継車を要請 OSJKへ災害情報の入力			
11:10									
11:13 ★上田市 下堰千曲川右岸 決壊									
11:13	★上田市下堰千曲川右岸決壊	11:13 ○上田地域広域連合指揮本部より緊急報 ・上田市下堰千曲川右岸決壊(地震により堤防に亀裂が生じたものと考えている)		11:13 ○上田市下堰千曲川右岸決壊(地震により堤防に亀裂が生じたものと考えている) 現状：重直避難を指示 150世帯・要救助者300名 水難救助(ボート)を含めた再配置の検討を願う					
11:20	★消防庁から受援県(調整本部)へ ・出動隊数通知	11:25 ○消防庁から長野県(調整本部、被災地消防本部)へ緊急消防援助隊出動隊数通知	11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」入力 11:26 OSJKへふら下がり図入力 №2-3-1、2-3-2	11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領		11:23 ○緊援隊の出動拠点、宿営場所、進出経路の報告 11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領			
11:30	★調整本部、統括指揮支援隊代表消防機関により応援隊の配置検討 ★応援隊の配置検討結果報告		(11:30) ○応援隊→消防庁 「出動隊数の報告」別記様式2-2送信 ・部隊(土砂嵐) 埼玉、愛知、富山 ※本訓練では消防庁が作成						
11:40									
11:44	★フェーズ3 災害対応・受援体制検討			管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告	被災地指揮本部 と協議	管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告	被災地指揮本部 と協議		
11:44		11:44~ ○調整本部は緊急消防援助隊増隊要請				②基本情報 伝達事項 ・組織概要、職員数、面積、構成市町村、道路の整備状況 ・医療情報(管内、隣接する県への要請状況)			
11:50	★応援隊の配置・受援体制検討	○被災地消防本部(指揮本部)と指揮支援隊で応援隊の配置・受援体制検討		11:54~ ○指揮支援隊と確認事項 ②県相互の重機が1台 ・野竹トンネルは救助開始、市内業者の重機をこちらに配備する予定 ④了解 ⑥了解、県相互応援ボート4船と上田広域に3艇あるが、運用できる人員がいなかったため動員難 ⑦了解、県相互応援ボート4船と上田広域に3艇あるが、運用できる人員がいなかったため動員難 ⑧静岡県大隊の宿営地は自然運動公園を予定 ⑨同地区であるが、高低差があるため影響なし ⑩了解 ⑪給油所の情報	11:54~ ○到着所要時間(約1時間) ○上田広域への確認事項等 ①応援隊本部の保有重機数 ②山梨3、山梨0 ③各災害の部隊配置 県入→愛知、材木町→埼玉 トンネル→山梨 ⑤千曲川右岸決壊に対応する部隊は静岡県大隊増隊 ⑦上田広域のボートについては静岡県大隊と調整 ⑧静岡県大隊の宿営地の検討 ⑨国分地区では火災と千曲川決壊が発生しているが影響はあのか確認 ⑩進出拠点から後方支援小隊は宿営地、救助部隊は現場へ案内願う	⑥応援隊への伝達事項 ・必要となる特殊資機材、装備について ・道路状況、電気、ガス、水道、通信の状況 ・給油場所の情報 ・物質の積置状況、管内の店舗の状況	11:54~ ○指揮支援隊への報告事項 ①消防本部の基本情報 ②災害状況の報告 ・対応可能な災害と対応出来ない災害の報告 ・日本部の出動隊数 ③応援隊の特殊車両の要請状況 ④協定に基づく民間(バス)会社へ要請状況 ⑤自衛隊、民間重機要請状況 ⑥応援隊へ伝達事項報告 ⑦群馬県大隊でアサマ2000になる ⑧小諸市で要請予定	11:54~ ○佐久広域への確認事項等 ⑦①~⑥の報告事項について了解 ⑧応援隊の県大隊と出動場所の確認 ⑨指揮支援隊の現在地、到着予定時間を報告 ⑩火山専門隊の要請状況の確認	
12:00			給油場所 ○上信越道下り線 東部溝の丸SA下り線SS ガソリン40,000ℓ 軽油20,000ℓ 非常電源有 ○宇佐美18号バイパス東部インター給油所 ガソリン45,000ℓ 軽油60,000ℓ 非常電源有 ○宇佐美18号上田バイパスSS ガソリン50,000ℓ 軽油50,000ℓ 非常電源有						
12:10									
12:20	★被災地消防本部の協議内容・受援体制 報告	12:20~12:24 ○被災地消防本部の協議内容・受援体制 伝達	伝達内容 ・部隊配置 ・進出拠点、宿営場所等	12:20~ ○緊援隊各都県隊の情報報告		12:21 ○指揮支援隊の現在地 ○緊援隊各都県隊の情報 ○道路状況、誘導員の配置報告			
12:24~13:00	★ 検証会 (13:00訓練終了)								

千曲坂城消防本部 指揮本部・指揮支援本部		長野県 災害対策本部・消防応援活動調整本部	長野県 代表消防機関	消防庁災害対策本部	緊急消防援助隊		
千曲坂城消防本部		静岡市消防局/指揮支援隊	長野県/調整本部	東京消防庁/統括指揮支援隊	長野市消防局	総務省消防庁	応援都道府県/各部隊
状況予測/事前作成	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容	訓練実施内容
災害状況報告・応援隊配置受領		災害状況把握	災害状況取りまとめ 緊援隊(県内相互応援隊)配置検討・伝達			応援等決定 出動隊数通知	災害状況把握
	<p>10:33 ○長野県消防応援活動調整本部設置報告</p> <p>10:34 ○降灰による交通への影響を再確認</p> <p>10:37 ○緊援隊ふら下がり回避確認</p> <p>10:40 ○県内相互応援隊の活動状況共有</p> <p>10:54 ○進出拠点・宿営地の検討依頼受領</p> <p>10:55~11:25 ○各被災地消防本部からの被害状況(追加)報告受領</p> <p>○活動障害の確認</p> <p>○進出拠点・宿営地の検討報告受領</p> <p>11:00 ODJSへ入力</p> <p>○緊急消防応援隊の活動拠点場所</p> <p>11:08~11:13 ○被害状況等の報告</p> <p>○災害の経過報告、隊の活動状況</p> <p>・トリアージ情報</p> <p>・緑タグ搬送用のバス要請について</p> <p>○管内の道路通行状況</p>	<p>10:33 ○調整本部設置 報告</p> <p>10:34 ○降灰による交通への影響を再確認</p> <p>10:37 ○緊援隊ふら下がり回避確認</p> <p>10:40 ○県内相互応援隊の活動状況共有</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・各地点の風向風速</p> <p>・活動障害(交通インフラ含む)</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・県内相互応援活動中止基準</p> <p>・応援隊の規模充足確認</p> <p>・相互応援隊の規模</p> <p>・活動場所、活動状況の写真要求</p> <p>○総務省消防庁へ確認</p> <p>・緊援隊派遣陸上部隊の車種、隊数等規模の確認</p> <p>10:43 ○代表消防→関係機関</p> <p>「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 No.2-2-1</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・県庁・浅間山・高峰山・風向風速(県庁提示WBに記載要求)</p> <p>・活動障害・噴火警戒レベル、降灰が道路に及ぼす影響等確認</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・活動中の長野県相互応援隊の活動中止基準を確認</p> <p>・現在提示されている緊援隊の規模で充足されるかどうかの確認</p> <p>・降灰が道路に及ぼす影響</p> <p>・相互応援隊が何隊、何名、隊種別出ているか</p> <p>10:35 ○長野県に出動隊配置通知(ふら下がり図提示)、SJKにも提示</p> <p>○長野県へ相互応援の活動状況共有依頼</p> <p>10:47 ○長野県に、統括指揮支援隊とともに緊援隊、県内相互応援隊の活動の取りまとめと指揮活動を統一するよう指示</p> <p>○統括に5項目指示</p> <p>○統括に6項目指示</p> <p>・指揮統制</p> <p>・活動中止基準を早期に策定するよう指揮支援隊に指示</p> <p>・災害の分析の後、増援の有無について指揮支援隊に判断させる</p> <p>・通信状況の確保</p> <p>・ドローン等活用し、映像情報の共有</p>	<p>10:43 ○代表消防→関係機関</p> <p>「県消防相互応援隊応援先一覧」隊員数追加版 送信 No.2-2-1</p> <p>10:44 ○長野県へ確認</p> <p>・県庁・浅間山・高峰山・風向風速(県庁提示WBに記載要求)</p> <p>・活動障害・噴火警戒レベル、降灰が道路に及ぼす影響等確認</p> <p>10:49 ○長野県へ確認</p> <p>・活動中の長野県相互応援隊の活動中止基準を確認</p> <p>・現在提示されている緊援隊の規模で充足されるかどうかの確認</p> <p>・降灰が道路に及ぼす影響</p> <p>・相互応援隊が何隊、何名、隊種別出ているか</p>	<p>10:35 ○長野県に出動隊配置通知(ふら下がり図提示)、SJKにも提示</p> <p>○長野県へ相互応援の活動状況共有依頼</p> <p>10:47 ○長野県に、統括指揮支援隊とともに緊援隊、県内相互応援隊の活動の取りまとめと指揮活動を統一するよう指示</p> <p>○統括に5項目指示</p> <p>○統括に6項目指示</p> <p>・指揮統制</p> <p>・活動中止基準を早期に策定するよう指揮支援隊に指示</p> <p>・災害の分析の後、増援の有無について指揮支援隊に判断させる</p> <p>・通信状況の確保</p> <p>・ドローン等活用し、映像情報の共有</p>			
	<p>11:25 ○進出拠点、宿営地の報告</p> <p>○更増ICの誘導員配置連絡</p> <p>○消防庁へ部隊配置確認</p> <p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領</p>	<p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で受領</p>	<p>11:19 ○長野県へ依頼</p> <p>・千曲川決壊災害の被害状況の早期情報共有</p> <p>・県消防相互応援隊が転戦可能部隊は千曲川決壊現場に部隊移動を考慮することを依頼</p> <p>11:28 ○総務省消防庁へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けて、ふら下がり図の変更はないか確認</p> <p>11:33 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊の被害状況を河川カメラ等の映像を用いて、早急に精査するよう要求</p>	<p>11:13 ※千曲川決壊※</p> <p>11:29 ○統括からの依頼を受け、ふら下がり図の変更を検討、部隊移動・増援の検討を長野県と行うと周知</p> <p>11:31 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けて、相互応援隊の部隊移動等動向し、緊援隊のふら下がり図の変更が必要かどうか判断するよう指示</p>	<p>11:13 ※千曲川決壊※</p> <p>11:14 ○千曲川決壊の至急報に伴い、部隊増援検討</p> <p>11:25 ○「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で送信</p> <p>11:26 ○SJKへふら下がり図入力</p> <p>11:29 ○統括指揮支援隊と協議</p> <p>・緊援隊ふら下がり図変更</p> <p>・部隊移動、増援について</p> <p>11:31 ○長野県へ確認</p> <p>・千曲川決壊を受けた災害対応について協議</p>	<p>11:25 ○長野県へ「緊急消防援助隊の出動隊数通知」別記様式3-3(2-2)チャット機能で送信</p> <p>11:26 ○SJKへ「ふら下がり図」入力</p>	
管轄内応援隊の配置検討 受援体制報告		被災地指揮本部 と協議	災害状況取りまとめ 緊援隊(県内相互応援隊)各本部配置状況及び受援体制の把握			応援等決定 出動隊数通知	
	<p>○消防庁、統括との協議内容 指揮支援隊と県大隊が上田と千曲市に分かれてしまいが、 →問題なしと報告</p> <p>11:54 ○指揮支援隊への報告等</p> <p>・iPad画面共有、グループマップの地図で現場確認</p> <p>・チャットで地図データ送信</p> <p>②各災害の経過報告</p> <p>③現在の天候と予報報告</p> <p>④病院の受入状況報告</p> <p>⑤DMAT、重機、バスの要請状況報告</p> <p>⑥各県隊の投入場所を指揮支援隊に依頼</p> <p>⑦指揮支援隊の到着時間到着までの指揮体制の確認</p> <p>⑧県内応援隊の状況報告</p> <p>⑨活動中止基準、再開基準の作成について確認</p> <p>12:23 ○SJKに被害情報入力</p> <p>○緊援隊各県隊の配置場所の報告</p> <p>○指揮支援隊の到着予定時間</p>	<p>11:48 ○千曲川の決壊により静岡県大隊の出動場所について消防庁、統括と協議。</p> <p>11:54 ○千曲坂城への確認事項等</p> <p>①緊援隊の重機の編成状況</p> <p>②現在の活動状況確認</p> <p>③現場の天候と予報確認</p> <p>④病院の受入状況確認</p> <p>⑤関係機関要請状況の確認</p> <p>⑥千曲坂城からの依頼により各県隊の配置場所を調整し報告</p> <p>⑦到着予定時間と到着までの指揮体制について伝達</p> <p>⑧県内隊の活動状況確認</p> <p>⑨進出ルートについて確認</p> <p>⑩活動中止基準と再開について調整</p>	<p>11:45 ○緊急消防援助隊増援要請</p> <p>11:49 県内応援隊の増援検討</p> <p>12:08 ○増援要請した緊急消防援助隊(静岡県大隊)の進出拠点及び宿営地の検討</p>	<p>11:46 ○総務省より、千曲川決壊に伴う増援は静岡県隊との報告受領</p> <p>○静岡県指揮支援隊と別市町村での活動が可能かどうか総務省消防庁に確認</p> <p>○長野県に相互応援隊が千曲川に出陣されるかどうか確認</p> <p>○自衛隊等への応援要請の有無の確認</p> <p>・状況により、千曲川での活動を優先させることも提案</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>	<p>11:49 ○県内応援隊の増援検討</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>	<p>11:45 ○千曲川決壊に伴い、長野県からの緊援隊増援要請</p> <p>・増援(静岡県隊)の提示</p> <p>11:46 ○統括・指揮支援(横浜)へ報告</p> <p>・千曲川決壊に伴う増援は静岡県隊の旨報告</p> <p>・指揮支援隊と異なる活動場所となる旨を静岡指揮支援隊に確認し、了承</p> <p>12:00 ○長野県に対して確認(被災地・指揮支援隊はブレイクアウトルーム協議中)</p> <p>12:08(BOR協議中)</p> <p>○長野県より、増援の静岡県隊の進出拠点、宿営地報告、了承</p> <p>12:20~12:24 ○緊急消防援助隊出動隊の各被災地消防本部配置・受援体制検討状況把握</p>	
★ 検証会 (13:00訓練終了)							

第2 Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練の評価表集計結果

※意見は一部抜粋したもので、全ての意見はDVDに収録してあります。

評価項目	1 応援要請の判断
評価指標	県内相互応援隊・緊急消防援助隊の応援要請を行う際、発生している災害と自消防力の規模を考慮できたか。



まとめ

県内機関では、事前に状況を予測しながらシナリオを作成したことで円滑にイメージを掴んで訓練に臨むことができましたが、応援要請に必要な最低限の情報を整理する必要があります。

1 訓練検討員

- (1) 被災地消防本部は自本部の消防力を考慮し、長野県へ緊急消防援助隊要請の意思を伝達できていたと思うが、外部機関の職員へ自本部の災害対応状況を伝える場合は定量的な情報（〇隊中〇隊が活動中で、未対応事案があと〇件発生している・119番通報が通常時の〇倍等）を伝達すれば、消防力の対応状況が伝わりやすくなると思った。
- (2) 代表消防本部についても、被災地消防本部の被災状況と県内の消防力を照らし合わせ、適切に県内広域応援隊の編成ができていた。
- (3) 県対策本部については、自衛隊や警察、TEC-FORCE、DMAT等、防災関係機関全体の応援状況を考慮する必要があるが、その辺の対応が見られなかった。

2 訓練参加機関

- (1) できた点・良かった点
 - ア Web会議システムで、突発的に発生した災害の速やかな覚知が可能となり、県内消防本部の出動可能隊数を取りまとめ、部隊配置の検討を行うことができたことから同システムのメリットを感じた。
 - イ 各被災消防本部で発生している災害、消防隊の数や出動隊、各署の残留人員及び待機車両等を把握することができ、緊急消防援助隊に対応を依頼したい災害を把握し適切に判断することが可能であった。
- (2) できなかった点・望む点等
 - ア 被災地の災害に対し県内相互応援隊が対応していることは情報共有があったが、部隊規模や人数の情報も欲しい。
 - イ 人命救助タイムリミット 72 時間を最優先に捉え初陣だけは部隊を増強し、進出拠点のみを被災地と協議し迅速に現地入りするべきである。

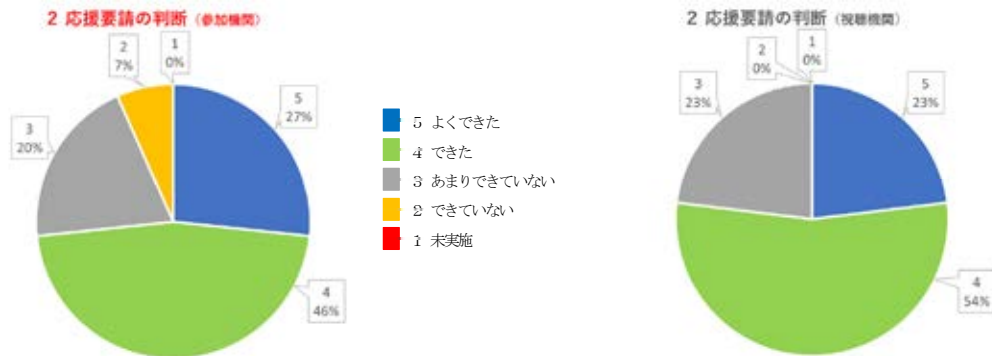
3 訓練視聴機関

- (1) できた点・良かった点

各消防本部から被害の情報を収集し代表消防本部と協議の上、県内相互応援隊の出動、災害対策本部と協議の上、緊急消防援助隊の応援要請について迅速に判断をしていた。
- (2) できなかった点・望む点等

災害現状を説明することに傾注し、消防力の優劣が曖昧である報告が散見された。発信する情報は、応援が必要な根拠となる災害に限定するなど、引き続き訓練を重ねる必要性を感じた。

評価項目	2 応援要請の判断
評価指標	緊急消防援助隊の応援要請を行う際、緊援隊に期待する具体的な活動内容の検討を行うことができたか



まとめ

他機関と接続することで、広域的な状況把握が可能となるメリットがあり、自消防本部の消防力と災害規模を把握し、特殊車両等の要請について検討できました。要請時は、どの災害現場に何をどのくらい欲しいという具体的な情報も必要となります。

1 訓練検討員

土砂風水害や噴火災害等、災害の種別に応じて要望する活動内容を具体的に伝えられていた。

気になった点としては、消防庁から長野県庁へ、バギーや中型水陸両用車の必要性を問われた際、現場からそのような要望は聞いていないので必要ないと答えていたが、土砂風水害が発生+火山噴火による降灰+天候は雨であれば、高確率で当該車両・資機材等は必要となってくると思われることから、たとえ現場から要望がなくとも、発災初期の段階では当該車両等の要望は伝えておくべきであると感じた。また、河川決壊の対応については床上浸水の孤立家屋からの救出を最優先で考慮した場合、いち早く現場に、ボートをはじめとした水難救助資機材を保有する部隊の応援を選定すべきであるため、緊急消防援助隊以外の選択肢も検討すべきである。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

ア 現地合同調整所の設置など体制が確立されるまでは警察や自衛隊など他機関の状況はなかなか見えてこない。Web会議システムにより消防庁や県と繋がっている状況であれば、他機関の状況が容易に把握でき、緊急消防援助隊や県内相互応援に求める活動の検討材料となるので、メリットと感じた。

イ 自本部での対応、県相互応援隊での対応を順に配置し、未対応事案を明確にし、災害規模・必要な部隊や重機を必要とする現場、活動内容の検討などができた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 被災地における全ての災害情報より、何が不足しているのか(対応できていないのか)どのような活動を求めているのかなど、緊急消防援助隊が対応する詳細情報を先にいただきたい。

イ 多様な災害が同時に発生していたが、どの災害に応援要請すべきか、必要な資機材は何かを検討すべきであった。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

ア 被災地消防本部での被害状況及び被災者数の把握ができていたことにより、土砂風水害機動支援部隊を要請するなどの検討ができていたと感じた。

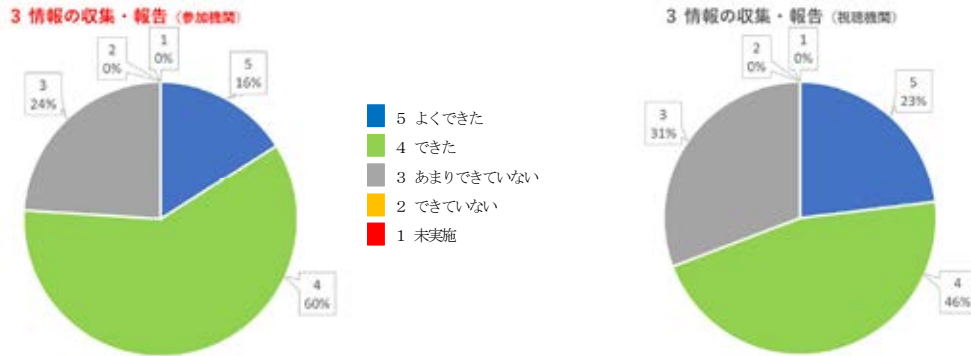
イ 初の訓練であることを鑑みると、電話等で行うより具体性を持った検討が行われていたと感じる。

(2) できなかった点・望む点等

ア ○○市の○○という現場に派遣をお願いしたいということは分かったが、負傷者数や被害規模等に合わせ何が不足し、どの様な支援をして欲しいのか、分かればなお良いと感じた。(冒頭で被害状況の情

報提供はあったが、その後に情報の進展もあるため)
 イ 活動内容等は、ホワイトボード機能を使用し、文字で示せれば良かった。国と県、統括指揮の間で情報を何度も聞き直していたような感じがした。

評価項目	3 情報収集・報告
評価指標	災害状況を整理し、報告内容を選別したうえで、情報を伝達していたか。



まとめ

Web会議システムで対面でのやり取りができることで信頼性が高まり、応援側には不要なものを含め多くの情報を共有していました。情報の優先度を判断し適時的確に提供し、双方が取捨選択する必要もあります。また、先行出動する指揮支援隊が欲しい情報の出し方について参考となりました。

1 訓練検討員

自本部内の災害対応状況について、詳細に報告できていた。訓練進行上の問題かもしれないが、詳細な説明のうえ同じ内容を3度も報告しなければならず、大幅に時間を消費している印象があった。報告する相手に応じて、伝える内容を精査し、概要程度で良い相手には、簡潔明瞭に説明すれば報告時間の短縮につながると思われる。また、チャットや支援情報共有ツールの活用により情報の伝達は簡素化できるのではないかな。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

- ア Web会議システムで映し出されていた被災消防本部のホワイトボードの状況をスクリーンショットで印刷し、自機関のホワイトボードに転写しながら情報収集を行った。
- イ 対応依頼する現場について整理し、優先度を付け、必要な情報を抽出し情報伝達できた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 災害情報の整理は、優先順位で並べると分かりやすい。例えば5件の災害のうち2番及び3番の災害について緊急消防援助隊に対応して欲しいではなく、順番を入れ替えて、緊急消防援助隊に対応して欲しい災害は1番と2番で災害拡大等を考慮し優先順位をつけるなどしてはどうか。
- イ Web会議システムに限らず、多い情報の中から必要な内容を整理し、端的に説明することが必要と考える。また、言葉よりも視覚で伝える方が伝わりやすいと思うので、映像を活用した情報の提供を心掛ける必要がある。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

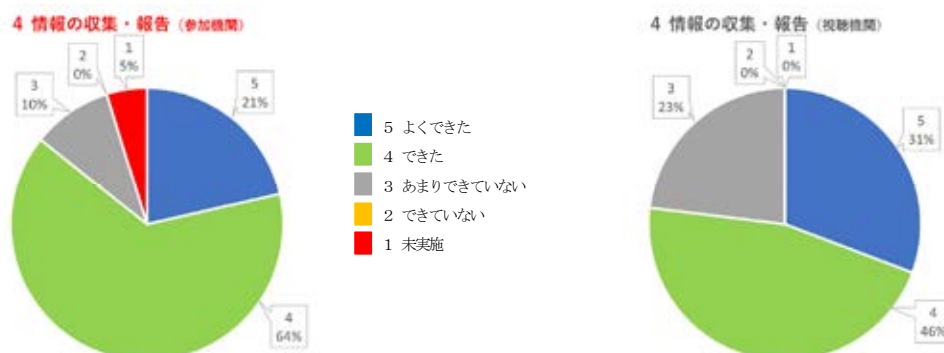
長野県災害対策本部と被災地消防本部では、災害を列挙したうえで必要な情報を選別し、どの災害に要請したいのか被災地消防本部の意向が示され、集約伝達することができたと思う。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 被災市から県庁に向けて、とても丁寧に報告され、全体像が分かりやすい部分はあったが、報告に時間を要した印象だった。限られた時間の中でどの情報を優先して報告するかは、検討の余地があると感じた。

イ 災害状況は整理されていたが、報告内容の選別に統一が必要と思われる。県内相互、緊援隊、災害派遣などの大分類で応援が必要な災害のみを報告するなど、統一を検討してはどうか。

評価項目	4 情報の収集・報告
評価指標	ホワイトボードや地図は、整然と記入され、Web会議システムの画面越しであっても分かりやすかったか



まとめ

ホワイトボードや地図による視覚的な情報提供は、各機関で工夫され画面越しでも確認しやすく、Web会議システムの利点を効果的に活用していました。地図の全国的な統一化や地理不案内である応援隊への目標物表示等の配慮も必要となります。

1 訓練検討員

- (1) 地図の共有による説明は非常に分かりやすかった。可能であれば、会議参加者（応援側）が自発的にホワイトボード等を確認できるよう、ホワイトボードのみを常に映しているアカウントがあっても良いのではと感じた。
- (2) ホワイトボードに記入すべき内容や地図の活用方法など、全国的に統一化されていくと応援側においてもポイントを押さえた確認ができるのではないかと。ホワイトボードについては、すでに消防庁から示されている調整本部におけるホワイトボードのレイアウト案があるが、指揮本部におけるレイアウトや地図の活用方法などについても消防庁において今後統一していただきたい。

2 訓練参加機関

- (1) できた点・良かった点
 - ホワイトボードは整理されて簡潔にまとめられており、Web越しでも地図は見やすく、土地勘がなくても災害活動に移行した際のイメージができた。
 - 消防本部が受援用として独自で作成した地図を使用し、地理不案内な方でも大まかにどの辺が災害地点なのか分かりやすいように配慮した。Web用のホワイトボードは必要事項だけ記入し、詳細は他のホワイトボードで管理したほか、記入方法、使用する色等を検討し見やすくなるように努めた。
- (2) できなかった点・望む点等
 - ホワイトボードや地図は記入されていたが、土地勘のない指揮支援隊や他県大隊も理解できるような県庁や消防本部などの目標となる地点が書かれていないので、場所の特定に苦慮した。
 - ダウンロードできる添付資料にも早期に位置関係が把握できる地図があると初動がとりやすく助かるが、実災害時に少ない人数で短時間のうちにどれだけ情報を集め、どれだけまとめられるかも今後の検証が必要であると感じた。

3 訓練視聴機関

- (1) できた点・良かった点
 - 直接ホワイトボードをカメラ撮影している本部があり、リアルタイムで良いと感じた。

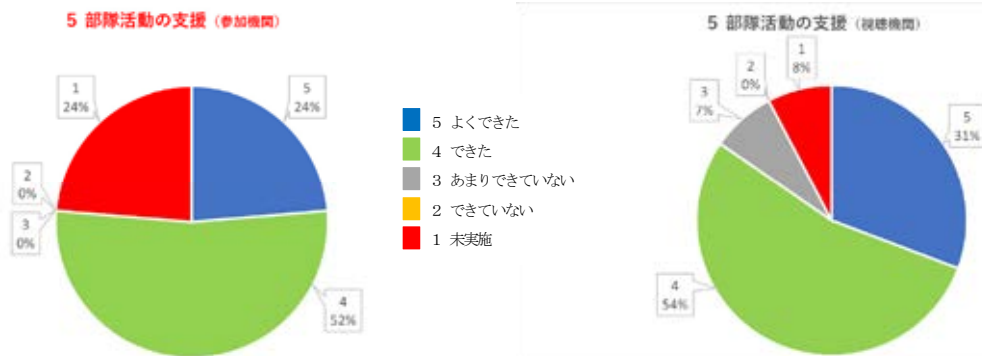
イ ホワイトボードや地図は分かりやすいように整理され、画面越しでも容易に情報が把握できた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 応援が必要な災害だけを書き記すなど発信する情報を明確にする工夫が必要と感じた。

イ 地域を知らない他県の隊からすると、県庁位置や地域情報の表示をすることは必要であり、様式をある程度統一した方が見やすいと感じた。

評価項目	5 部隊活動の支援
評価指標	緊援隊の活動に必要な、進出拠点や宿営場所を応援隊の規模に応じて検討できたか



まとめ

消防庁・指揮支援隊・調整本部・被災地消防本部等がWeb会議システム上で検討できるため、応援部隊規模や道路状況に応じた進出拠点及び宿営場所の迅速な選定が可能となり、応援隊も地図アプリで規模感を把握することができました。部隊交代時や被害拡大による増隊に伴うスペースの確保についても検討する必要があります。

1 訓練検討員

応援隊の規模に応じた検討であったのかは確認できなかったが、消防庁等と連携し、的確に選定できていた。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

ア 消防庁、県及び代表消防機関の3者で検討ができるので、各応援機関の規模等に合わせ道路状況等について情報提供があり、調整がスムーズにできて良かった。

イ 指定された拠点の規模については、グーグルマップやアースなどを活用し規模感を把握することができた。さらに効率化を図るためには、地元本部の案内の人員や応援部隊責任者のカウンターパートの指定などを詳細な事項まで詰められれば良かったと感じた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 指揮支援隊としては、受け身となるが県隊規模の車両の受け入れ面積があるのか、また、長期化する場合の交代県隊車両の受け入れる面積を確保しているのか、時間経過と共に災害規模や状況が深刻化するなどの検討も必要である。

イ 進出拠点、宿営地は候補地以外でも考慮し、選定しておく必要があると感じた。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

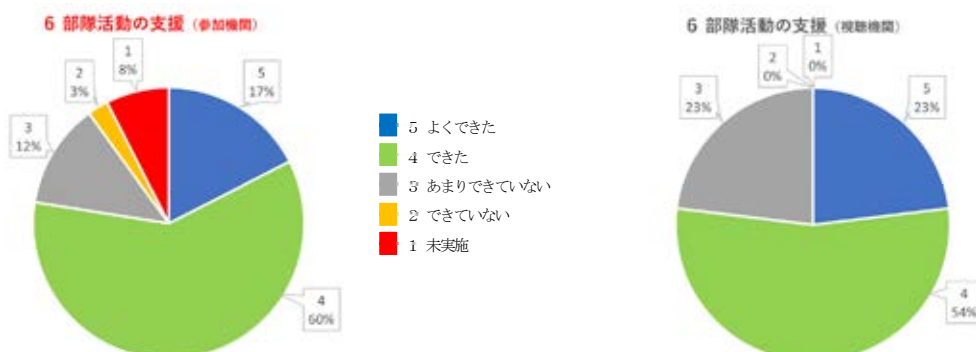
進出拠点は、発災場所や道路状況等考慮し設定されていたと思う。宿営場所も、被害の拡大に伴う緊援隊増隊に併せて追加されていた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 少し決定までに時間を要した印象があった。県大隊は進出拠点までのルート選定をするので、早めに進出拠点を決定していただきたい。

イ 県全体の主要道路、消防本部の位置が載った白地図を県から提供いただければ、それを使用して各消防本部で情報提供資料を作成することができ、フォーマットが統一できると感じた。

評価項目	6 部隊活動の支援
評価指標	緊援隊の活動に必要な、道路網やライフラインについて確認し、効果的に共有できたか



まとめ

主要道路やライフラインの情報提供は地図等を活用してできていましたが、地図などは動態情報システムや支援情報共有ツール等の併用が望ましいのではないかとの意見もありました。

また、時間とともに変化することから定期的な確認も必要になりますし、長野県は上信越道や長野道により複数方向からの進入が可能であり、部隊に最適な情報を早期に提供することが大切となります。

1 訓練検討員

- 道路状況については、訓練参加の応援部隊が指揮支援関係のみであったことから、首都圏からの進出を考慮した道路情報の共有に思われた。実際は近隣都道府県隊が選別されることから、長野県のような地理であると、東西南北からの進出を考慮した情報提供が必要ではないか。
- ライフライン状況として、停電や断水（特に宿营地周辺）、今後の天候情報（主に活動場所）なども随時提供できると更に活動までの調整が円滑になると感じた。また、地震による配管の損傷や、停電による浄水場ポンプ機能停止などによる消火栓等消防水利の情報も必要ではないか。

2 訓練参加機関

- できた点・良かった点
 - 主要道路や停電情報、水利情報などのライフラインは、頻繁に確認及び情報共有され、グーグルマップ等のWeb地図を活用し道路状況を説明いただいたことで大変理解しやすかった。
 - 指揮支援隊として出動準備がかかった場合、出動手段及び経路をいち早く収集し、検討する必要があった。今回の訓練では、天候、噴火による道路事情など早期に収集できたが、7月に発生した熱海市での進出にあたっては、出動経路の選定に苦慮した。
- できなかった点・望む点等
 - 噴火災害や土砂災害では、時間経過により道路状況も変わると思われるため、定期的にネクスコなどの管理事業者にお問い合わせ、その都度報告があったらいいと思う。
 - 受援側の被災地県に道路網やライフラインの情報提供を依頼させることは酷な要望だと強く感じた。自給自足が当たり前を大前提に、苦境に追い込まれている被災地の「助けられる命を助けたい消防精神」で緊急消防援助隊側事務局の方でリサーチし迅速出動するべきだと感じた。

3 訓練視聴機関

- できた点・良かった点

Zoom上において、通行止め箇所やライフラインの状況等が被災市や県庁等から発信され、情報共有できていた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 言葉での情報が多く、記憶に残らなかった。文字による表示を入れると良かった。

イ ライフラインの情報共有を早期に行うことで応援隊の装備が変わってくるので重要だと感じた。

評価項目	7 関係機関間協議
評価指標	全体及びブレイクアウトルームにおいて協議・検討がしやすかったか



まとめ

全機関に必要な災害全般の情報はメインルーム、被災地ごとの情報共有や検討はブレイクアウトルームで実施するなど場面に応じた使い分けが可能であり、有効な機能で調整や検討が円滑に行われました。パソコン1台では、どちらかの情報しか収集できませんが、それぞれのルームにログインしたパソコンを準備することで情報の欠落がなくなります。

1 訓練検討員

各ブレイクアウトルーム移動後は、ホストアカウントである長野県庁以外は、全機関へ向けてアナウンスができないため、ブレイクアウトルームに移動する際に、メインルームにおける報告時間等の統一事項をあらかじめ指定・アナウンスしておかなければならないと感じた。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

ア メインルームでの総合的な議論の後に、ブレイクアウトルームで詳細の協議を行うという流れは対応を検討するのにあたり、とてもやり易く一対一で協議できるため必要な情報を共有するツールとして非常に有効と感じた。

イ 陸路では現地到着まで時間を要することから、まず、担当する被災地本部の指揮者とホットラインを構築し顔の見える関係(信頼性)を構築することは重要で、電話だけでなくブレイクアウトルームで映像を見ながら話ができただことは、良い取り組みと思う。

(2) できなかった点・望む点等

ア 全体での協議・検討は効果的に共有できたが、ブレイクアウトルーム内での協議・検討の状況が共有できない。

イ 操作上の権限を有するホストは協議、検討に参加しない担当の職員を置き、対応する必要があると感じた。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

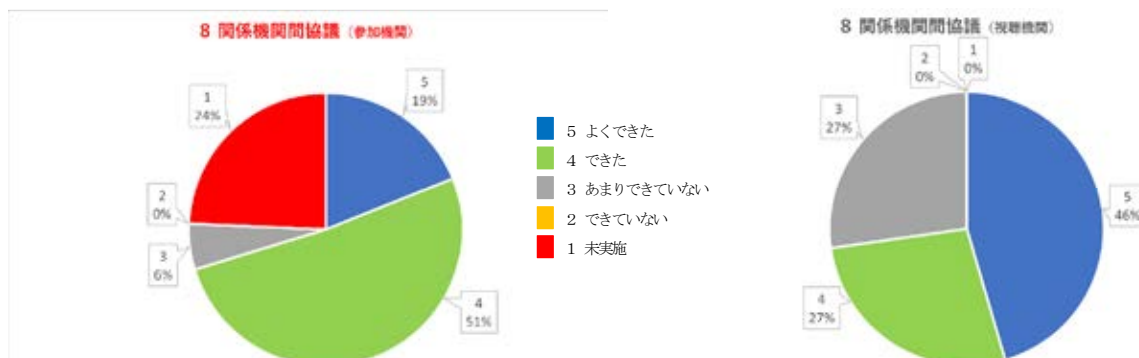
全体では協議、検討しやすいように感じ、各ブレイクアウトルームにおいては各ブース単位で検討・調整事項について協議できるのでとても効果的な手段だと感じた。

(2) できなかった点・望む点等

ア 情報収集の段階においてもブレイクアウトルームを活用するなどして、情報収集する方法も考慮する必要があった。

イ メインルームとブレイクアウトルーム用のパソコン数台準備し、調整本部との情報共有を実施する必要があったと感じた。

評価項目	8 関係機関間協議
評価指標	指揮支援隊は、部隊配置等の検討材料とするための情報を、十分に聞き出すことができたか。



まとめ

常時、被災地消防本部と指揮支援隊及び消防庁が情報交換可能で、ホワイトボードや地図を活用した説明により、救助現場の状況や道路状況などイメージしやすく、対面であるためお互いにやり取りが容易でした。指揮支援隊として聞き出せなかった情報もあり、聴取内容のリスト化が必要であるとのことで、受援側にもリストを共有いただくことで適切な情報提供に繋がります。

1 訓練検討員

オンラインでの対面であるが、ホワイトボードや地図を活用して被災地消防本部から情報提供できたことにより、交通情報や天候等、被災地の情報を基に、的確に協議できていた。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

- ア 被災地本部からの地図映像により、救助現場の状況や道路事情及び土地の雰囲気などが説明され、イメージしやすかった。また、県内応援部隊の車両特性（重機）等の把握ができ、被災地本部指揮者と意思統一が図られ、必要な県隊を配置する合意ができた。
- イ 発災からの時間経過を考慮すれば、得られる情報は限定的になる。指揮支援隊としては、進出拠点や宿営場所の情報、宿営場所から災害点までのルートが重要かつ優先度の高い情報で、これらの情報は、被災本部から提供していただくことができた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 被害状況等を確認することはできたが、被災地消防本部の消防力（人員、隊数等）、災害地点ごとに必要となる隊や資機材を更に聴取する必要がある。次回は事前に聞き出したい内容を、あらかじめリスト化した。
- イ 指揮支援隊に対して地勢的な説明を丁寧に行うべきだった。

3 訓練視聴機関

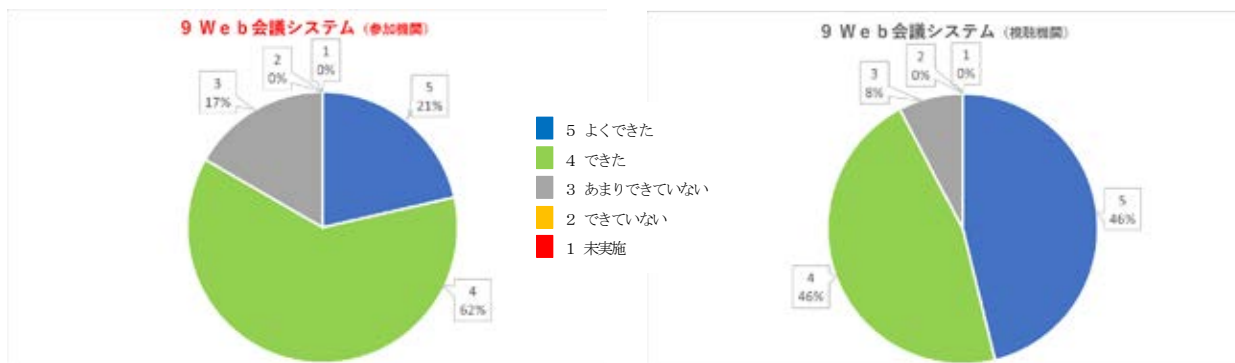
(1) できた点・良かった点

- ア ブレイクアウトルームを積極的に活用し協議を行えた。
- イ 指揮支援隊は、部隊配置のために必要な情報のみを選別して聴取しており、要領及び迅速性は流石と感じた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア それぞれの被災地と指揮支援隊との詳細な情報交換には不向きな点もあったと感じた。
- イ 指揮支援隊が求める情報は多岐にわたり、言葉だけでは漏れが発生するため、チェックリストやメモなどアップロードする必要があると感じた。

訓練項目	9 Web会議システム
訓練指標	Web会議システム（Zoom）における機能を有効に活用し、情報収集できたか



まとめ

Web会議システムは非常に有効な情報共有の手段であることが検証できました。従来の電話やFAXでは確認できないことも対面で行うことで信頼関係を築きつつ適時適切に情報共有が行え、チャットのファイル添付等の機能を有効に活用することで利便性と支援情報共有ツールとの統一化が図れるものと思われます。情報の取捨選択、パソコン操作員の確保、通信インフラの影響や車両内での活動においては課題もあり、大規模災害時に特化した省庁各機関共通のWeb会議システムのアプリケーションの開発が必要と考えます。

1 訓練検討員

地図や資料を画面共有しながら、情報共有ができたことは有効であると感じた。しかし、各機関が現地でまとめているホワイトボード等は常に映しておく、若しくはホワイトボードに記入した内容を定期的にチャットに貼り付けるなどすべきではないか。口頭による状況報告も必要であるが、もう少し視覚的情報（ホワイトボードや地図の常時閲覧等）を重視しても良かった。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

- ア 双方向での情報交換ができ、映像の切替えやチャット機能の活用等、有効に活用して情報共有できた。非常に有効なシステムと感じた。
- イ 顔の見える中での協議、ホワイトボードや地図を活用した情報提供は音声のみに比べると格段に理解しやすい共有方法と感じた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 資料の提供するタイミングなどの検討やチャット機能でホワイトボード等の写真を送付しても良かった。
- イ 会議室等の余裕のある場所で訓練を実施したが、実際に出勤する車両内で実施可能か、また、高速で移動する車内での通信状況、大規模災害時の通信状況等課題は大きいと思う。

3 訓練視聴機関

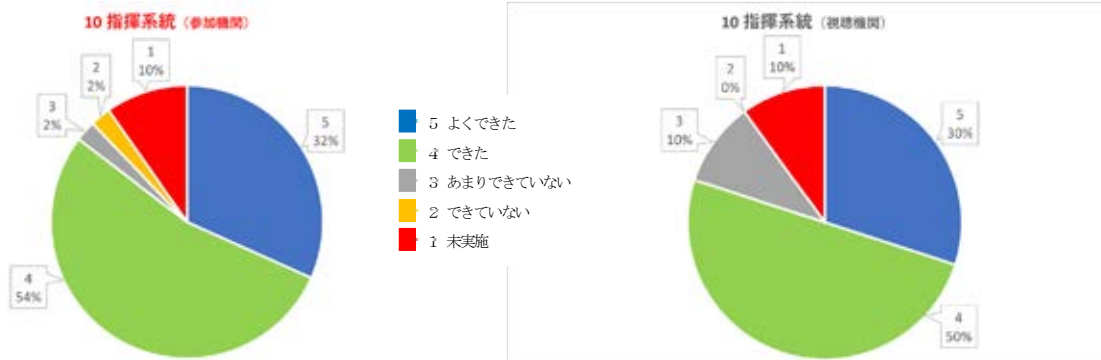
(1) できた点・良かった点

- ア 一度に複数の機関が同時に視聴でき、全体像の把握がしやすかった。また、確認事項をミーティングのような形の全体での協議は、決断までが早かったかなと感じた。
- イ 被災消防本部、県庁、応援隊等それぞれがリアルタイムで同じ情報を共有でき非常に良いシステムであると感じた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 共有情報には、現場写真等の映像も必要と感じる。航空活動が不可能な場合も考慮すると、災害状況と必要応援部隊数の勘案にいちばん有効な材料情報は映像であると考えます。
- イ 「緊急消防援助隊支援情報共有ツール」、「動態情報システム」と併用しながら活用できたら良いのではないかと。

評価項目	10 指揮系統
評価指標	各本部において指揮者（責任者）の指示のもと、効率的に情報の収集と伝達ができているか



まとめ

被災地消防本部指揮者（責任者）の指示のもと、役割を理解して効果的に情報収集と報告内容の精査を実施し、指揮支援隊においても指揮支援隊長の指示で必要な情報を聴取しており、対面での情報共有の有効性が確認できました。今回は限定的な訓練でしたが今後も実災害において円滑に行うための習熟訓練が必要と考えます。

1 訓練検討員

意見無し

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

- ア 同じ情報をシステム上共有することで、情報の相違がなくなり、活動方針等の意思決定が早く、迅速な活動につながると感じた。
- イ 指揮支援隊長から隊員に対する指示、部隊内での任務分担と調整も円滑に実行でき、効率的な情報の受伝達が行っていた。

(2) できなかった点・望む点等

受入側消防本部が不慣れな場合、指揮系統が混乱するようになった。

3 訓練視聴機関

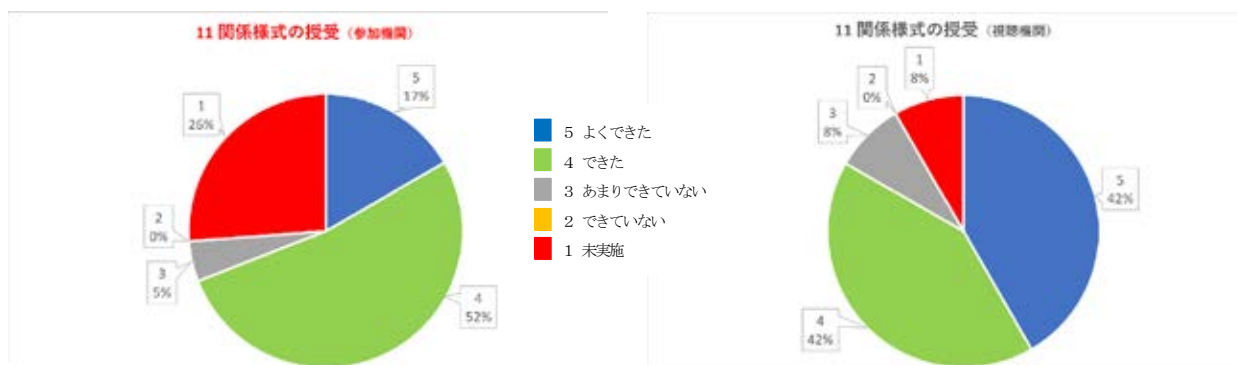
(1) できた点・良かった点

各機関への情報共有及び伝達のためには、災害の実態把握が重要だが、指揮者の的確な指示の下、情報の収集及び伝達できていた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 収集した情報と伝達する情報はイコールではなく、収集した情報の中でも県庁に報告する内容と消防庁まで報告する内容は分けた方が良いと感じた。
- イ 今回はシナリオがあったこともあり、スムーズに情報収集及び伝達できていたが、実災害になればさらに時間がかかり、情報収集が難しい部分もあるのではないかと。

評価項目	11 関係様式の授受
評価指標	緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱等に基づく各様式のやりとりは的確にできたか



まとめ

要請要綱の各様式の授受についてはチャットのファイル添付機能で可能であることが確認できました。ルーム退出でファイルが消去されますが、簡単な操作で端末に保存できます。要請要綱では各様式はFAX (併せて電子メール) と定められておりますが、Web会議システムではファイルを開き、その場で不明な点を確認できるなど利便性は高く、受援側の進出拠点や宿営場所選定においても早期に部隊規模の把握に繋がるものと考えます。现阶段では、動態情報システムや支援情報共有ツールを効果的に併用し、将来的には統一化が最善と考えます。

1 訓練検討員

概ね的確にできていたが、シナリオ上でない千曲川決壊に伴う静岡県大隊の増隊に係る様式は、訓練時間内に作成・送付できていなかった。様式作成・送付に係る手順については、再度確認していただきたい。

2 訓練参加機関

(1) できた点・良かった点

- ア 様式等を当該システムで受領することができ、受信できているか確認も併せて行えたため有益であった。
- イ 各様式のやり取りは、要綱に基づき良好にできていた。
- ウ 要請要綱等の内容を把握した上で行うのであればFAXで行うよりもスムーズであるし、更に県内相互応援隊と緊急消防援助隊のそれぞれに対する依頼内容及び出動部隊の状況が把握できることはメリットである。
- エ 要請書等が画像で確認できたので、口頭確認よりも迅速かつ確実と感じた。
- オ Zoomでの各様式及び支援情報共有ツール・動態管理システムを活用した情報の発信をすることができた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 実際の流れで実施した場合は様式のやりとりも増えると思われるし、メインルームから退出した場合はデータが残らないため、ミスが起こりそうだと感じた。
- イ インターネット環境の関係で、使用しているパソコンにプリンターが接続されておらず、せっかくの様式がすぐにプリントアウトできず環境整備が必要であった。

3 訓練視聴機関

(1) できた点・良かった点

- ア アップロードと同時に全機関が確認できる情報の共有ができるため有効な手段だった。
- イ 各機関において、Zoom上で「〇〇の様式をこれから送ります」など、リアルタイムでスムーズなやり取り及び確認ができていたと感じた。

(2) できなかった点・望む点等

- ア 通常は電話＋FAXでするところ、ズームのみで行った点について、会話が続いていた場面で送ったこともあり、適切に受理されたのかわかりにくい部分があった。様式のやりとりは大事なものであるため、

従来どおりが望ましいと感じた。

イ 同じ様式が何度も共有されていたと感じた。データを共有にアップする場合、データ名に何処からの何時の発信などサブ的な情報を入れないと実災害時には混乱してしまうと感じた。

課題と現段階における対策

Web会議システムが有効に活用でき、将来的に大きな可能性があることが確認できたが、課題も挙げられます。

課題	対策
<p>Web会議システムの起動について 「どの機関がWeb会議システムを起動するか」</p>	<p>県内での訓練や大規模災害が発生した場合に積極的に活用し検証を継続して進めていくことが大切と考えます。</p> <p>今後、全国的にシステムを統一した場合、要請要綱に定められた出動区分に該当または消防庁が必要と認めた災害が発生した場合に、消防庁がWeb会議システムを起動、また前段階で県が起動し、起動者が支援情報共有ツールにログイン情報を記載し、対象各機関が順次ログインしていく体系に移行していくことが可能です。</p>
<p>車両内でのスペースについて 「車両内では会議室のように情報収集できない」</p>	<p>積載可能な装備で、可能な範囲の情報を収集します。</p> <p>車両更新時には、車両選択と装備積載品を検討し、通常災害時においても有効に情報共有が図れる車両製作とします。</p>
<p>通信インフラについて 「インターネット回線が使えないこともある」</p>	<p>現段階では、従来の電話回線通信網の活用となりますが、衛星回線をIP化しWeb会議を実施している省庁もあります。衛星回線の活用が災害時には最良と考えます。</p> <p>第一選択はWeb会議とし、予備として現在の電話またはファクスとします。</p> <p>動態情報システムと支援情報共有ツールも同様のインフラ対応が必要となります。</p>
<p>情報の共有 「過剰な情報提供で時間を要した」</p>	<p>今回は訓練であり、順番に情報提供し時間を要しました。実災害時は災害の全体像と活動状況を伝達した後は、それぞれのタイミングで必要な情報を提供します。対面で質疑を交わすことが可能となり、過不足なく情報提供ができ、信頼関係が築けることも大切な要素です。</p> <p>指揮本部内の映像も確認でき、被災地消防本部の緊迫感なども伝わります。</p> <p>予め、情報収集様式を作成し、簡潔に情報共有することも有効と考えます。</p>

<p>パソコン操作員の確保について 「パソコン操作員が不慣れで、貴重な人員をパソコンに取られてしまう」</p>	<p>新しいシステムを使用する際は、誰もが不慣れで習熟訓練が必要となることには変わりはありません。 システムが確立し、明確な情報共有ができればリエゾンの削減に繋がり、パソコン操作員を設けても人的負担は増加しないと考えます。</p>
<p>各種様式の授受 「ファクシミリとなっているが、確実にできるのか」</p>	<p>ファクシミリであっても送信した様式が埋もれてしまう可能性はあります。Zoomではチャットのファイル添付機能で様式の授受は可能ですが、ルーム移動で未保存ファイルは消去されてしまうため、ファイル添付者はルーム内でアナウンスし、受領側は簡単な保存作業を行うことで回避でき、確実性も高まります。 また、現段階では、様式の授受を支援情報共有ツールで実施することも考えられます。 各様式は、通常の都県主管課を経由するルートと異なり、ログイン機関がアップロード直後から閲覧できますが、応援側は、応援要請様式で部隊の編成や特殊装備、受援側は、出動隊数様式で部隊規模の把握ができ進出拠点や宿営場所の選定に必要な情報を早期に入手できます。 要請等に関する要綱の改正も必要となってきます。</p>

今回の訓練において、情報共有ツールとして有効であることが検証できたことから、今後も、実災害や訓練において活用し、課題の洗い出し、システムの選択、必要または不要な機能等について検討を進めていくことが全国的に統一したシステムの確立には必要と考えます。

今後、全国規模の応援が必要となる地震災害も想定され、想定外の災害の発生も考えられる現時点において検討し、整備していくことが必須と考えます

更に、後方支援本部も加わることで長期間の応援活動に必要な情報が共有でき、資器材の増強等を行い効率的な活動に繋がるものと考えます。

災害時にダウンすることの無い通信インフラの整備と全国的に統一したシステムで、迅速な情報共有、円滑な応援要請と活動支援、効率的な災害活動を望みます。

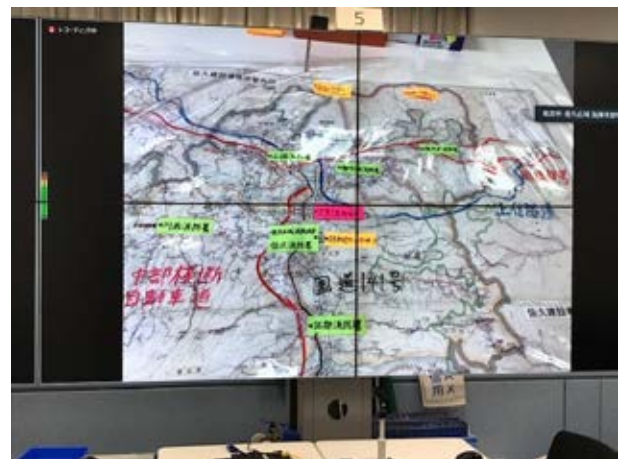
総務省消防庁



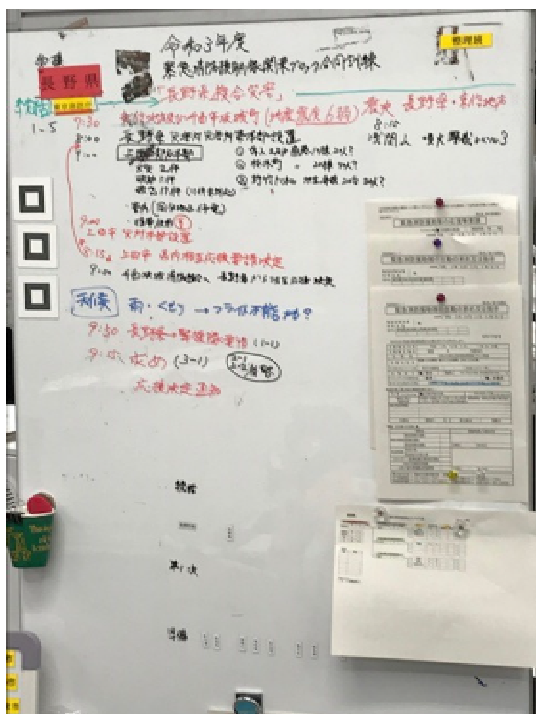
ホワイトボードをカメラで撮影



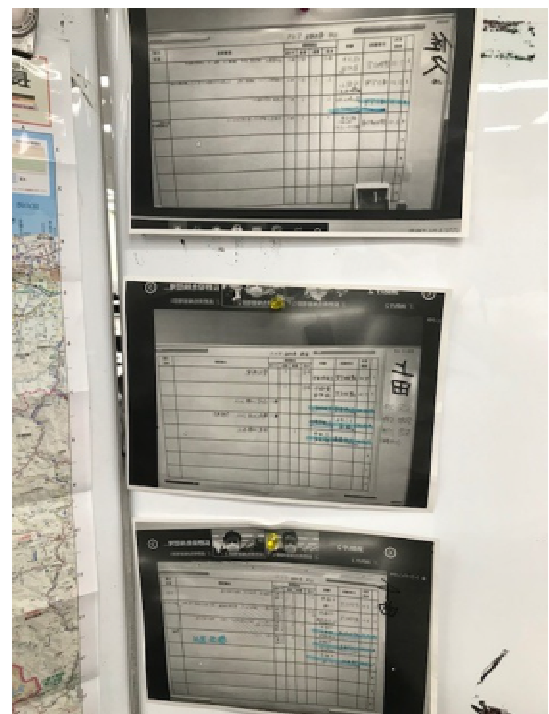
大型モニターに投影されたD J S画面



地図を使用し交通網の被災状況を説明



ホワイトボード記載と各様式の貼付



災害情報をスクリーンショットし印刷

東京消防庁



指揮支援部隊長による指示



ホワイトボードによる情報の整理

横浜市消防局

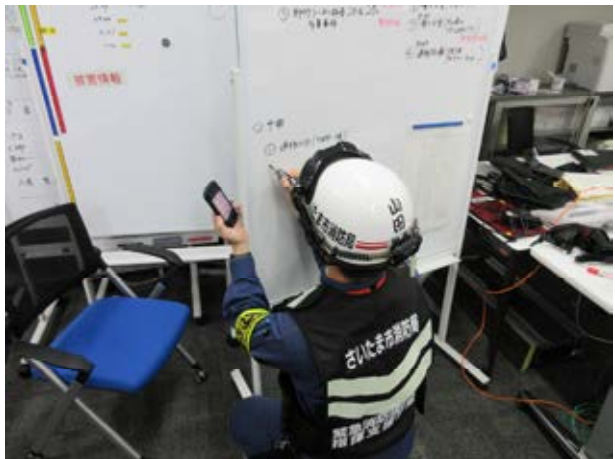


緊急消防援助隊出動



各種様式の授受

さいたま市消防局



被災地からの情報収集とホワイトボードへの記載

静岡市消防局



指揮支援隊隊員間での情報共有

上田地域広域連合消防本部



長野県庁と災害情報共有



ブレイクアウトルームにて
指揮支援隊（横浜市消防局）と協議中

佐久広域連合消防本部



長野県庁と災害情報共有



管内被災状況と活動状況時系列作成

千曲坂城消防本部



ブレイクアウトルームにて指揮支援隊（静岡市消防局）と協議中

長野県庁



被災地ごとに災害情報を記載



代表消防機関リエゾンも含めた調整本部員により、地図上へ災害地点等の記載



訓練の最後に
訓示をいただきました（ビデオ）

総務省消防庁
消防庁長官 内藤 尚志

第3 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案

1 提案背景

緊急消防援助隊や消防相互応援隊での宿営は、エアートtentを使用し10名前後で仮眠をとるスタイルが一般的である。しかし、新型コロナウイルス感染症の出現、流行により、従来のように大人数で宿営を行うことができず、何らかの感染症対策を講じなければならない状況となった。当事務局でもエアートtent内の人数を減らし、距離を保って仮眠をとる案やパーティション等を使用し飛沫による感染防止対策を講じる案等を検討したが、高額なエアートtentの増設、エアートtentという閉鎖空間でのパーティションの有効性への疑問があった。

また、近年、消防職に従事する女性は増加傾向にあり、緊急消防援助隊においても、女性が安心して活躍できる場を早急に整える必要がある。特に宿営に関しては、仮眠や着替える場所の確保等、様々な課題が山積しており、十分な解決策が提示できていないのが現状である。

これらの課題に対する解決策を当事務局で検討していくうちに、「山岳用ソロテントを用いた宿営」を行うことが課題解決の一助になるのではないかという考えに至った。



エアートtent



ソロテント

2 概要

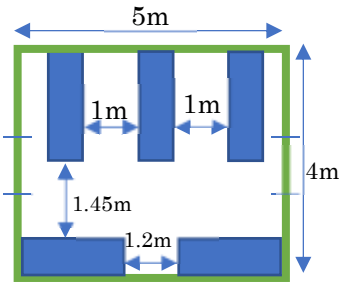
当事務局では宿営時の様々な課題の中から5つに絞り、それらの解決策としてどのようにソロテントを用いるかを検討し、名称を「長野県実行委員会モデル」としたうえで、実際に関東ブロック合同訓練における後方支援訓練にて、長野県消防相互応援隊の宿営をソロテントで行う予定で計画を進めた。

(1) 長野県実行委員会モデルの柱となる5つの課題とそのメリット

ア 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策

エアートtent宿営では、適切な距離を確保した状態で仮眠をとる必要があるため、1張を5名程度で使用するのが妥当と判断した。これ以上の人数だと、いわゆるソーシャルディスタンスを保つことができないためである。また、距離を保ったからといって十分な感染症対策になるとは言えず、パーティションを設置しても完全に区画されるわけではないため、密閉状態に近い空間であるエアートtentでは、感染症対策を行うには厳しい環境と言わざるを得ない。換気装置の使用も考えられるが、設備の購入に費用が掛かる他、エアートtent使用時は常時運転させておかなければならないため、被災地での燃料不足及び電力確保に不安がある中で、果たして最善の策となるのか疑問がある。また、仮眠時でもマスクの着用が必須になると考えられ、日中激務をこなした隊員の休息に支障があるのではないかとと思われる。

その点、ソロテント宿営は1人に1つのテントを割り当てることで各々が隔離され、仮眠時に感染症対策を意識せずに過ごせる利点がある。また、体調に異変が生じた場合にはそのまま専用の救護所となるため、改めて救護所を設ける必要はなく、宿営においては濃厚接触者を出さずに済む。



5名でエアテントを使用した場合の配置例(パーティションは省略)

イ 女性消防吏員の活躍推進

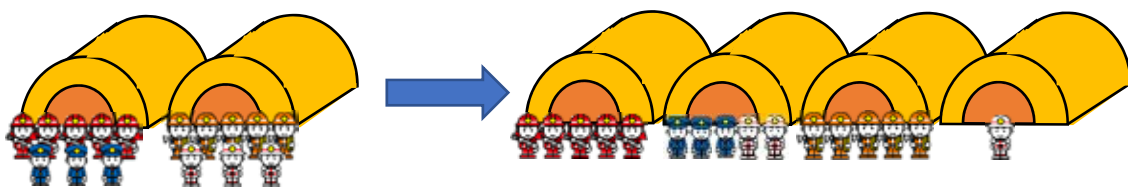
女性が緊急消防援助隊等で宿営を行うにあたり様々な課題があるが、その中でも仮眠、着替えを行う場所の確保は、ソロテントを使用することで解決できると考える。労働安全衛生規則第616条及び第618条にあるとおり、仮眠場所や休養場所は男女別としなければならない。大隊内の女性を集め中隊を作り宿営を行う案や、支援車を女性専用としたり別施設を用意したりと様々な案はあるが、普段接する機会が少ない他本部の隊員を集め寝食を共にさせるのは、かえって気を遣わなければならないと思われ、十分な休養にはつながらない可能性がある。女性用の別施設を用意する場合でも、宿営場所を複数用意することは受援側の負担になるうえ、都合よく規模に合った施設があるとも限らない。さらに、別行動ゆえ自本部の活動と切り離されることは、たとえ宿営時だけであっても心許無いとの意見もある。

その点、ソロテントを使用すれば性別に関係なく個人のプライバシーを確保できるうえ、自本部と切り離されることもなく全隊員が同じ条件で宿営できると考える。

ウ 宿営設備のコスト削減

エアテントは本体と設営に係る必要物品(ブロアー、内幕、フロアマット等)、換気設備や冷暖房機等を併せると1式で数百万円もの金額となる。導入時は総務省消防庁より貸与されたものであっても、年数が経過すれば各々で更新しなければならない。さらに、新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策においてエアテント1張5名で宿営を行えば、必要となるエアテントはさらに増加し、それぞれに設備も必要となる。

例：主要3隊(13名)+後方支援隊(3名)で考えると・・・



8名ずつ2張で宿営できていたものが、社会的距離を考慮し1張5名で宿営すると、テント数が4張となる

ソロテントは新規に購入する必要はあるが、1張数万円が相場で必要となる物品は基本的に本体に含まれており、総務省消防庁より貸与されているエアーマットやシュラフを使用し宿営することもできる。テントの性質上、暖房の設置はできない(直火を使用できない)ため、暖房を必要としなくとも宿営が可能な装備の検証が必要である。

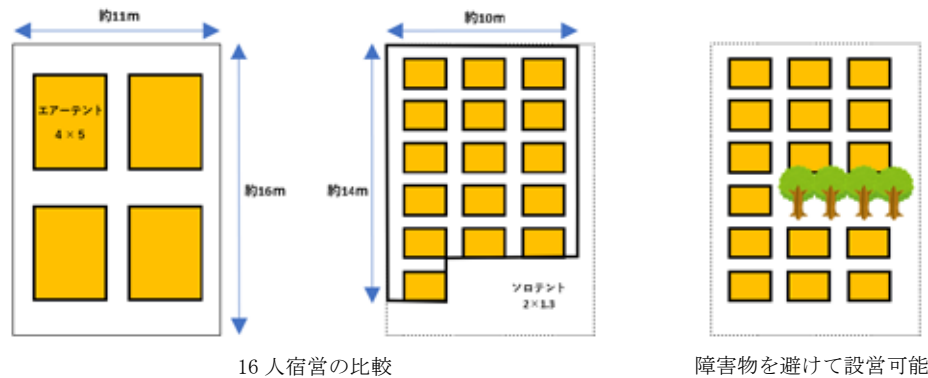
夏場は、出入口や換気口を使用して風通しを良くする等の対応が必要となる。メッシュ地の出入口や蚊帳がついた換気口を備えたソロテントであれば防虫対策もできる。エアテントでは外部電源使用時にエアコン等使用可能だが、電源の使用に制限があればソロテントと同様に出入口等を開放して風が通るようにする必要があるのであるため、被災地で電力確保等に不安がある状

況下では、ソロテントと条件は同じである。

エ 後方支援活動スペースのコンパクト化

新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策により、エアータント1張の人数を絞ると必然的にエアータントの必要個数は増加する。当事務局で試算した結果、50名の大隊であれば、従来なら5張前後で100㎡（4×5サイズに10名宿営でテント周辺の間隔を考慮しない場合）の面積を必要としていたが、感染症対策下では10張で200㎡（条件同じ）と2倍の面積が必要となってしまう。これは、より広大な場所が必要になったり、複数大隊での使用を見込んだ場所でも単独でしか使用できなくなるケースも考えられ、その場合、受援側は複数の場所の確保を余儀なくされ、負担の増加になる。

一方ソロテントは、テント内に荷物を置くことを考慮して一般的な2人用（おおよそ130×210）を使用した場合でも、50張で136.5㎡（テント周辺の間隔を考慮しない場合）と、エアータントと比較して約68%の面積に抑えることが可能となる。また、木や建築物等があった場合、エアータントでは、設置できずにデッドスペースとなってしまう場所ができてしまうのに対し、ソロテントは障害物を取り囲むように設置したり、1人分だけずらしたりといった比較的自由度の高いレイアウトができるため、スペースを有効に活用できる。



後方支援活動では他にも給食エリア（こちらでも感染症対策で1テーブルに着くことができる人数が制限されるため、より拡大することが予想される）や、デコンタミネーションエリア（消毒含む）等必要とする設備が様々あり、宿営に割くスペースが小さくなることは大きなメリットとなる。

オ 設営負担の軽減

宿営設備を設営するのは後方支援小隊である。長野県の現状は、各参加本部から2～3名の隊員が出動し、自本部分の設備を設営するのが通常である。大隊で一体的な後方支援活動の推進が求められる中、適した方法を模索している段階である。このいわゆる自賄方式でより顕著になるのが、設営負担である。エアータントは本体のみで100kg前後の重量がある。これを所定の場所まで徒手もしくはカーゴや台車で搬送することはかなりの負担となる。地面が土や砂利等であれば尚更で、これを少人数で複数張分担当するのは怪我や体調不良にもつながりかねない。新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策下ではこれが更に増加する。



ソロテントは15張で計30kg前後

ソロテントは参加隊員分の設営が必要となるが、1張分で2kg前後と軽量の製品がほとんどであり、エアテント1張分の人数に相当する5人分のソロテントでも1人での搬送が容易である。また収納時はコンパクトになるため収納場所を圧迫することはない。軽量であるため簡単に場所を移動することができ、組立場所と宿営場所が異なっても問題はない。組立について慣れは必要だが、この点はエアテントも同様であり、1人且つ短時間で設営できるソロテントの方が負担は少ないと考える。

(2) ソロテント宿営における課題

ソロテントによる宿営にも課題がいくつか挙げられる。

ア ソロテントの新規購入

今まで所有していなかったものであるため、新規に購入する必要がある。

イ 天候の影響

雨濡れを防ぐシート（レインフライ）があるため雨が直接内部に浸入することは防げるが、水たまりがテント下にできた場合、濡れた地面に体重等で圧を長時間かけると浸透してしまう可能性がある。また外気の影響を受けやすいため、厳冬期の居住性が課題となる。

ウ テントの固定方法

地面が土であれば付属のペグを打ち込むことにより固定ができるが、アスファルト等ペグが打ち込めない場所での固定方法を検討する必要がある。

以上が宿営活動時の長野県実行委員会モデルの柱となる5つの課題と、ソロテント宿営のメリット、考えられる課題となる。

これらはあくまで机上での推察であったため、関東ブロック合同訓練で実際にソロテントを使用した宿営を行う予定で計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿営を中止せざるを得ない状況となり、関東ブロック合同訓練中での検証は断念した。

感染状況が落ち着いた令和3年10月25日に長野県内消防本部を対象に展示を行ったところ、実際に宿営してみたいとの声が多数寄せられたため、12月中旬から年を跨いだ令和4年1月中旬にかけて、県内3消防本部にご協力いただき、実際に宿営を行っての実証試験を行うことができた。



長野県実行委員会モデルでの宿営予定会場であった「上田 道と川の駅 おとぎの里」周辺



実際に東日本大震災においてソロテントで宿営を行っていたトルコ隊の様子

第4 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験

1 目的

今後の緊急消防援助隊の受援又は応援活動において、長野県隊が協力し円滑に活動するために実施するもの。

- (1) 緊急消防援助隊派遣時の宿営活動における感染対策や女性消防吏員の派遣等における課題について、長野県実行委員会モデルを提案し宿営環境の改善を図る。
- (2) 県内相互応援及び緊急消防援助隊派遣時の円滑な連携と安全管理の徹底を図るため、長野県内消防本部に配備された特殊車両等の特徴を把握する。
- (3) 災害時の捜索救助において災害救助犬の活動が増加していることから、災害救助犬の特性や連携要領について理解する。

2 日時

令和3年10月25日(月) 13時15分～15時45分

3 場所

上田 道と川の駅 おとぎの里一帯

4 協力機関

- (1) 上田 道と川の駅 おとぎの里 (会場協力)
- (2) 株式会社 ヘリテイジ (ソロテント借用)
- (3) 特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会 (3名・2頭)
- (4) 長野市消防局 (消防庁無償使用車両：津波・大規模風水害対策車)
- (5) 松本広域消防局 (消防庁無償使用車両：重機及び重機搬送車)
- (6) 上田地域広域連合消防本部 (会場運営)
- (7) 佐久広域連合消防本部 (宿営モデル展示)

5 参加者

- | | | |
|----------------|-----|---------|
| (1) 上田市危機管理防災課 | 2名 | |
| (2) 県内消防本部(局) | 93名 | |
| (3) 総務省消防庁 | 2名 | |
| (4) 長野県庁 | 4名 | 合計 101名 |

6 展示・訓練内容

- (1) 宿営活動時の長野県実行委員会モデル (ソロテントを使用した宿営) の展示
- (2) 県内特殊車両等の訓練 (重機及び重機搬送車、津波・大規模風水害対策車)
- (3) 災害救助犬の訓練

会場レイアウト



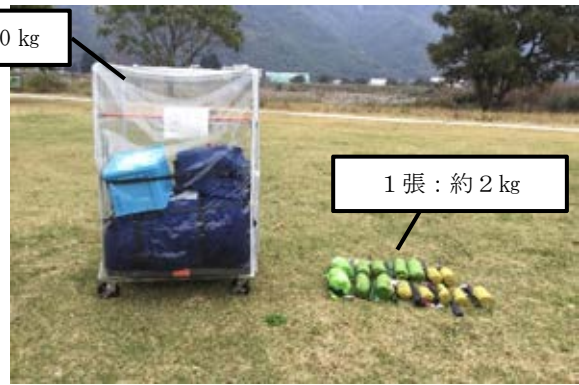
宿営活動時の長野県実行委員会モデル（ソロテントを使用した宿営）の展示

展示レイアウト及び設定案



1本部、15名での宿営を想定して、ソロテント15張を設営。ソロテントと比較するため、4m×5mのエアータント1張を設営。(ソーシャルディスタンス確保のため1張5名での宿営を想定。実際には3張必要。)

このほか、隊の周知事項等を共有するための情報共有エリア、出入口にはデコンタミネーションエリア、クイックテント等による給食エリア・打ち合わせエリアを設定。



エアertent 1張とソロtent 15張の収納状況。

(新型コロナウイルス感染症対策として1張5名とした場合、エアertentはあと2張必要)



設営人数・時間：4名・1張40分
(カーゴからの搬送～寝具等の設定まで)



設営人数・時間：4名・15張40分
(箱からの取出し～寝具等の設定まで)



エアertentは10名前後宿営可能であるが、感染症防止対策として隊員間の距離を保つため5名での宿営。テント内にもアクリル板の設置やサーキュレーターが望ましい。



テント内には銀マット、エアマット、シュラフを設定。必要最低限の荷物も収容可能。



デコンタミネーションエリアには、靴の汚れを落とす場所や手洗い場のほか、体温計や消毒スプレーを設置。



給食エリアのテーブルには飛沫防止対策の亚克力板を設置。

県内特殊車両等の訓練（津波・大規模風水害対策車、重機）





災害救助犬の訓練

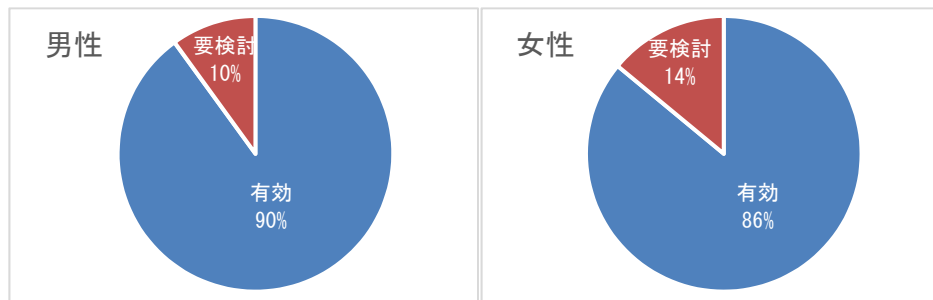


7 参加者からの評価結果 回答者 79 名（男性 72 名・女性 7 名）

長野県実行委員会モデルについて、下記の 7 項目を「有効性を感じる」または「諸課題の検討が必要」でアンケート評価を実施。各項目で 7 割～8 割の職員から有効性を感じると回答があった。

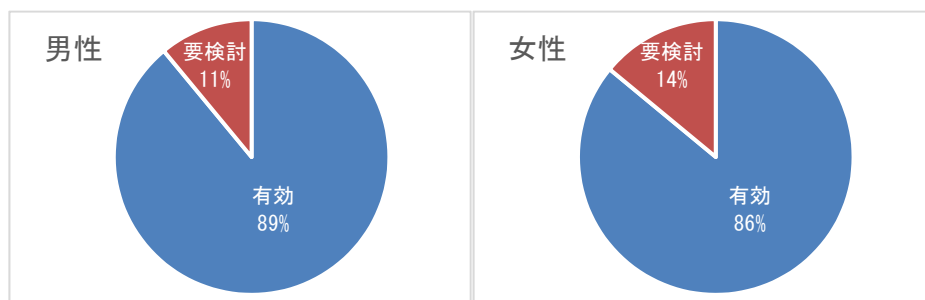
女性からは「これなら自分も緊援隊として派遣されても問題ないと思う」「設定がし易くプライバシーも守られる」といった意見が挙がった。

(1) 新型コロナウイルス感染症及びその他の感染症への対策



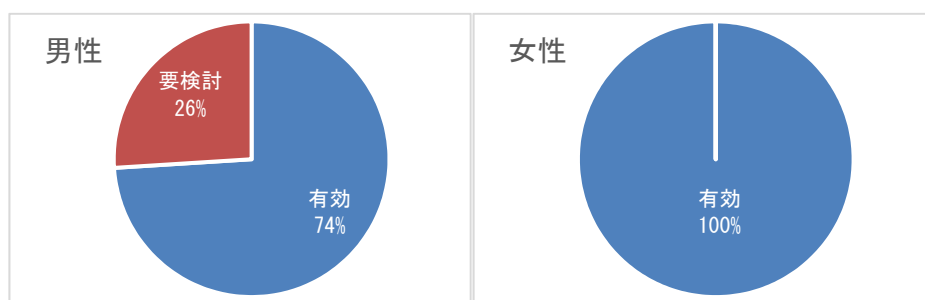
- ・屋外だけではなく、屋内でも使用出来れば感染対策につながる。

(2) 個人プライバシーの確保、干渉されない空間での休養・仮眠が可能となり、隊員の疲労回復の向上に繋がるか

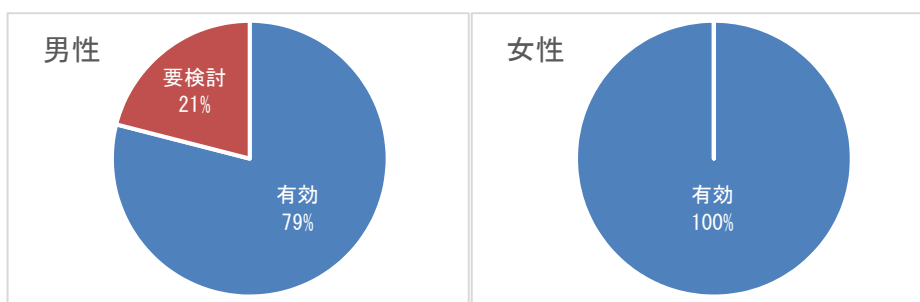


- ・プライバシーの点からは非常に良いと感じた。
- ・ソロテントのためどのような連絡体制をとるか。個人の体調変化に気付きにくい。

(3) 女性消防吏員が安心して活動・活躍できる緊急消防援助隊の体制整備

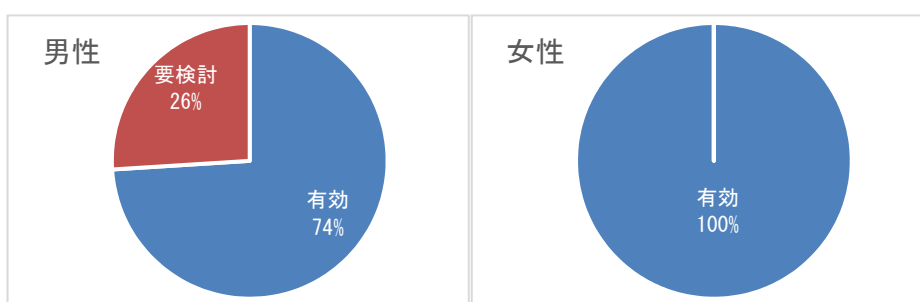


(4) 宿営設備のコスト削減が図られるか(テント本体+付属品等も含めたコスト比較)



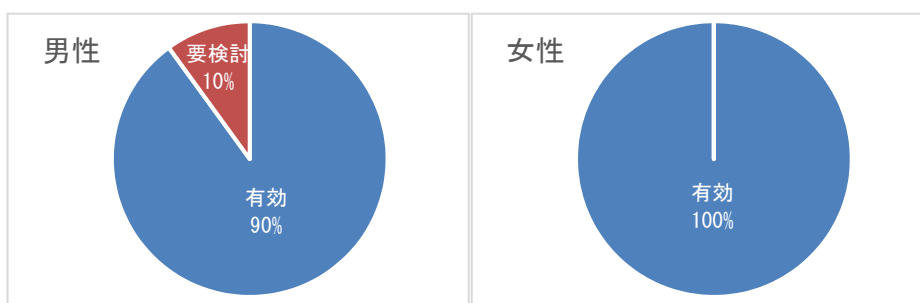
- ・寝具をいかに快適にするか課題。床に敷くマットを良いものにする。

(5) 収納場所、宿営面積のコンパクト化により、スペースの有効活用に繋がるか



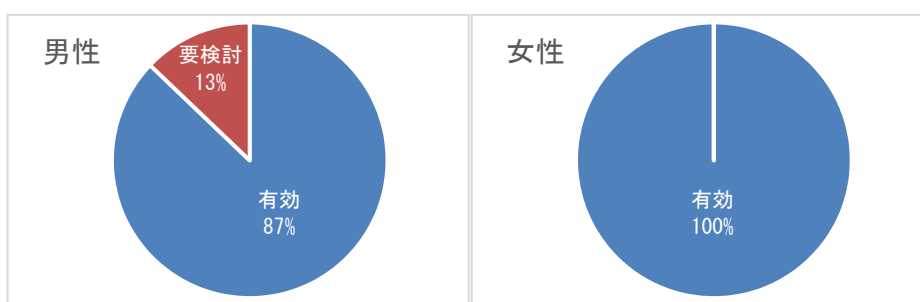
- ・省スペースの面では有効と感じた。
- ・エアータントはミーティングに必要では。

(6) テントの重量軽減、設営・撤収時間の短縮が図られ、後方支援隊の負担軽減になるか



- ・後方支援要員が2～3名のため、1張3分程度であれば有効と感じた。

(7) 自消防本部（または長野県大隊）でのソロテントによる宿営について



- ・長野県大隊として出動するので、県内消防本部で揃えた方が良いと思う。

8 課題と対策

展示参加者へのアンケート調査では、「厳冬期の防寒対策」「テント内の狭さ」「隊員の識別(テントの識別)」「体調変化等の異変の察知」「ブリーフィングエリア・情報共有の不安」等、様々な課題が挙げられました。

課題	対策
厳冬期の防寒対策	シュラフやマットの性能等を考慮し、厳冬期でも快適に就寝できる装備を用意することのほか、体育館の中等屋根付きの場所であれば防寒対策にもなります。
テント内の狭さ	1人用では個人荷物を収納するスペースが十分でない可能性があります。2人用なら就寝する場所と荷物を置く場所を両方確保できます。 あるいは荷物をまとめて収納できる別の場所(エアータント、車両等)の活用を検討します。
隊員の識別(テントの識別)	テントの色を変えたり、隊名等を記載したラベル、シール等の目印の掲示で対応できます。
体調変化等の異変の察知	定期的な確認による体調、健康状態の把握。
テントの生地に対する不安	展示で使用したテントは山岳用なので性能は十分ですが、軽量化のために生地が薄くなっており、破損の不安がありますので、補修用品の用意や緊援隊の野営に適したモデルを検討する等の対応が考えられます。
ブリーフィングエリア・情報共有の不安	支援車、給食エリア等でブリーフィングは実施できます。
地盤面の種別による固定方法	アスファルト等ペグで固定できない場合には、充水した消防ホースを錘替わりに使用できます。
新規購入の予算化	国や都道府県主導による導入支援を検討していただきたい。

アンケートの結果、好意的な意見が多く寄せられた一方、課題となる貴重な意見もいただいたことから、実際に宿営してみでの判断も必要と考え、長野県内消防本部の協力を得て、令和3年12月から令和4年1月にかけて実証試験を行う運びとなった。

9 ソロテント宿営実証試験

(1) 実施方法

ア 県内5消防本部にて1泊の宿営訓練を計4回実施し、訓練事務局員を含め延べ58名（男性48名・女性10名）参加予定であったが、令和4年1月中旬より新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、長野県内の感染警戒レベルが引き上げられたことにより中止を余儀なくされる訓練もあり、2回の開催（3本部、延べ29名）となった。

イ エアーテントを含めた従来の宿営で必要となる設備も設定し、応援時の宿営状況を再現。エアーテントとソロテントの居住性等について比較する。

しかし、実施予定日に大雪警報が発令される等天候が悪化したため、エアーテントの設定は2回の訓練の内1回のみとした。

ウ 令和3年10月25日に行った、「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練」のアンケート結果を基に検証課題を抽出し、実際に宿営を行っての課題に対する有効性を判断する。

エ 様々な条件下で環境測定を行い、適した個人装備、寝具等の検討をする。

(2) 環境測定結果

外気温とテント内温度の比較を行い、外気温がテント内に及ぼす影響やテントサイズによる温度差の有無を調査。調査に用いたソロテントは同一モデルのサイズ違い。結果は下記表（平均値）のとおり。

第1回 A・B消防本部（合同） 令和3年12月18日 天候：晴

時 間	外気温(°C)	風速(m/s)	屋外テント内温度(°C)			車庫内	
			サイズ1	サイズ2	サイズ3	車庫内温度(°C)	テント内温度(°C) サイズ1
22:00	-6.9	1.2	-4	-4	-4	-2	3
0:00	-7.7	1.8	-2	0	-6	-2	2
2:00	-8.1	0.7	-4	1	-8	-3	2
4:00	-9.1	0.5	-2	0	-4	-4	1
6:00	-9.4	0.2	-2	0	-4	-5	0

第2回 C消防本部 令和4年1月12日 天候：大雪

時 間	外気温(°C)	風速(m/s)	屋外テント内温度(°C)	
			サイズ1	サイズ4
22:00	-1.2	4.8	2	2
0:00	-2.3	0.7	2	2
2:00	-4.3	0.9	1	1
4:00	-5	1.2	1	0
6:00	-6	0.8	1	0

※テントサイズ(W×D×H)(cm)

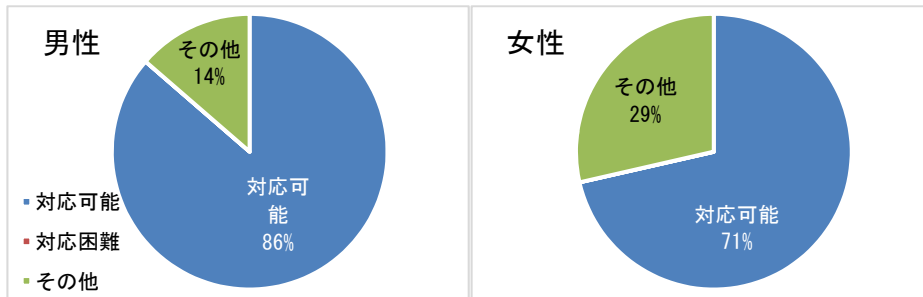
サイズ1:210×100×105 サイズ2:200×75×95 サイズ3:210×130×105 サイズ4:203×93×100

(3) 実証試験アンケート結果

実証試験では、先に行った「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練」のアンケート結果を基に、新たに12項目の課題についての評価と、使用した

シュラフや個人装備等について調査した。

ア 厳冬期の対応（シュラフで対応可能か）



- ・シュラフの性能を考慮すれば十分対応可能である。
- ・足先が冷えるため、カイロ等で温める必要がある。
- ・エアーマットや銀マットで断熱すれば良い。エアーマットの空気は冷気で萎むので空気量や空気を入れる場所に注意が必要である。

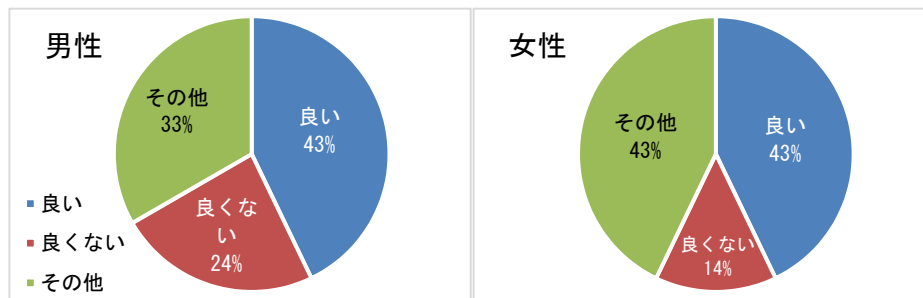
※使用シュラフ（対応可能と回答）

- ・使用可能温度-13℃ ・使用可能温度-11℃ ・使用可能温度-6.7℃
- ・適正温度-15℃（総務省消防庁貸与品）

※個人装備（主な服装）

- ・活動服（通常の作業着） ・防寒衣（ダウンジャケット等） ・機能性インナー
- ・フリースジャケット ・カイロ（特に足先）

イ 寝心地の良さ

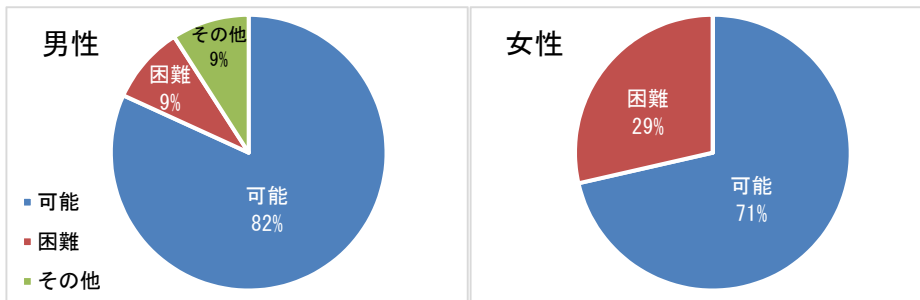


- ・エアーマットや銀マットを敷けば寝心地に問題ない。冷気は感じない。
- ・テントのサイズによっては圧迫感が気になる。
- ・ソロテント、エアータント（簡易ベッド）の両方で寝てみたが、正直ソロテントの方が寝やすかった。

※使用エアーマット

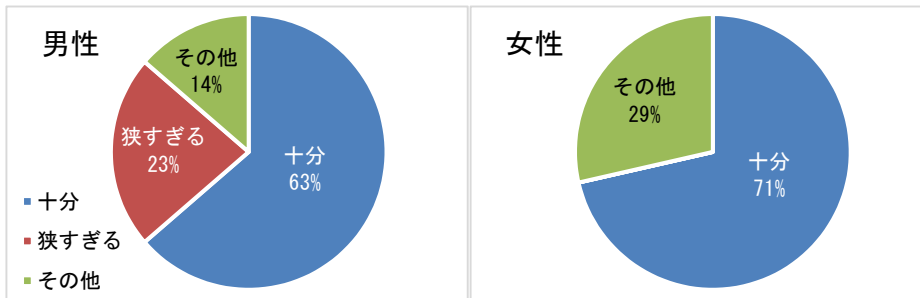
- ・5～8 cm 厚
- ・（良くないと回答）暖かい室内等でエアーマットを膨らませ、屋外のテント内に持ち込んだことにより、エアーマットが寒さで萎み、冷気を遮ることができなかった。

ウ 疲労回復（気候は考慮せずに）



- ・プライベートな空間ができるため、精神的に非常に楽である。
- ・テントサイズによっては圧迫感があり、不安を感じ眠れない。
- ・今回は現場活動もなく1泊のみで有効性を感じたが、3日間の宿営となった場合がどうなるか心配な面もある。

エ 個人資機材の保管スペース

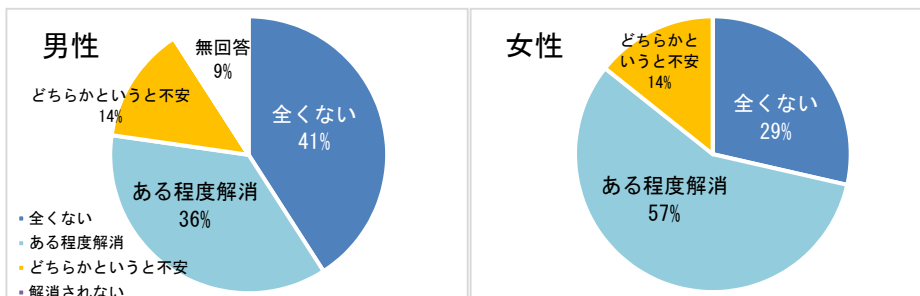


- ・テントサイズに左右されるが、2人用を使用すればスペースは十分である。
- ・1人用だと荷物を置くスペースが確保できない。

※使用テントサイズ

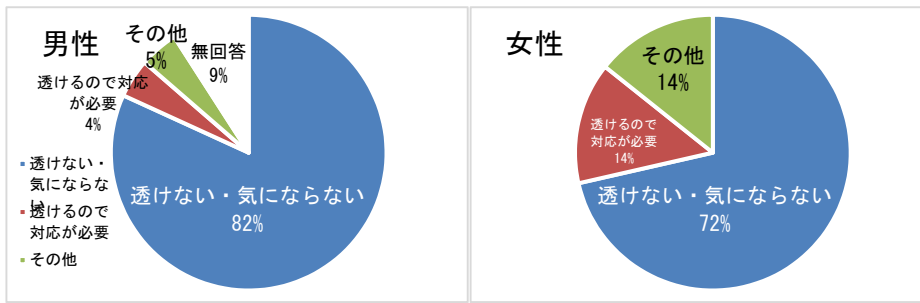
- ・2人用（W×D×H）（cm）：210×130×115 もしくは 210×100×105
- ・1人用（W×D×H）（cm）：200×75×95

オ 着替え・就寝に対する不安



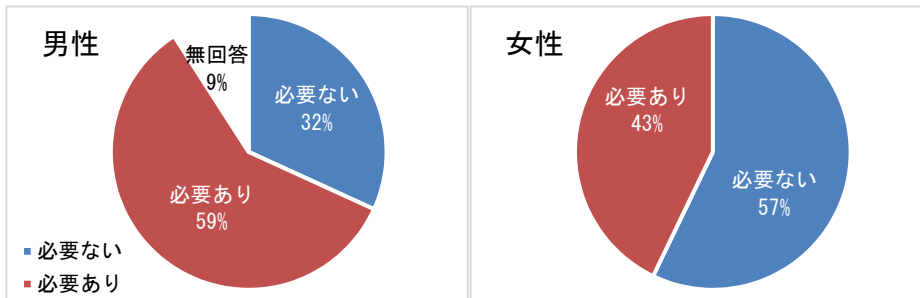
- ・寝ることに不安は感じないが、テントが低いため着替えるのが難しい。
- ・テントの生地が薄いので着替えは多少不安を感じる。

カ テントが透けてしまう恐れ



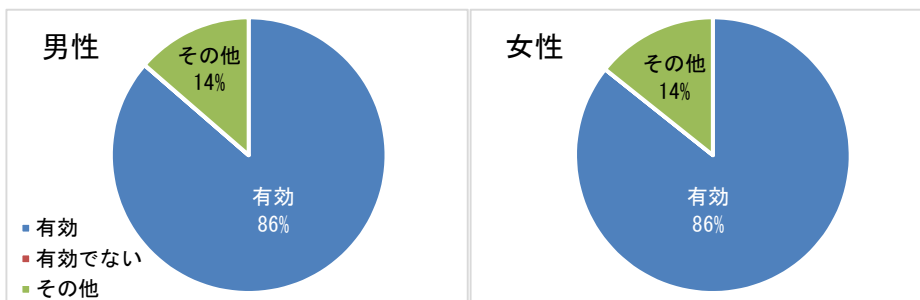
- ・テント内の明かりの向きや位置を調整すれば、思ったより透けない。明かりをつけなければ全く透けなかった。
- ・明かりをつけるとぼんやりとだがシルエットがわかるため、タオル等で覆って遮断する等対応が必要か。

キ 男女のエリア分けの必要性



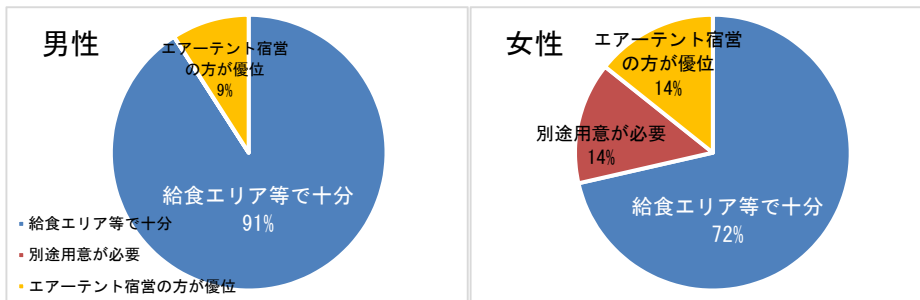
- ・就寝中の音（いびき、咳払い等）を考慮すると、男女分けした方が良い。
- ・本部単位で宿営し、その中で男女がわかれば良い。

ク アスファルトでの固定方法（車両とロープを使用した固定を実施）



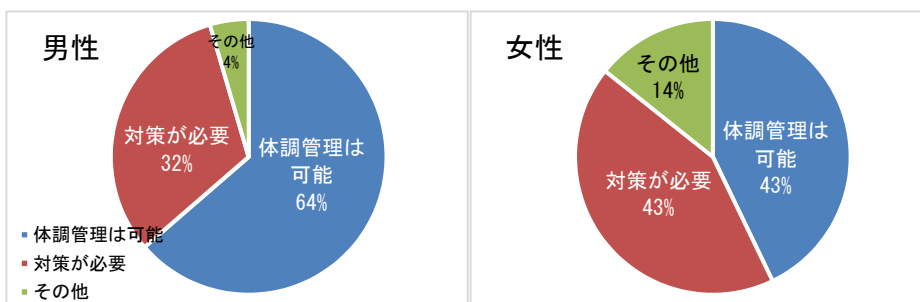
- ・環境にあわせて持っている資機材で対応できそう。
- ・雪、石、木等で対応可能。
- ・タグラインに足が引っ掛かってしまうので注意が必要。

ケ ミーティングを行う場所の確保



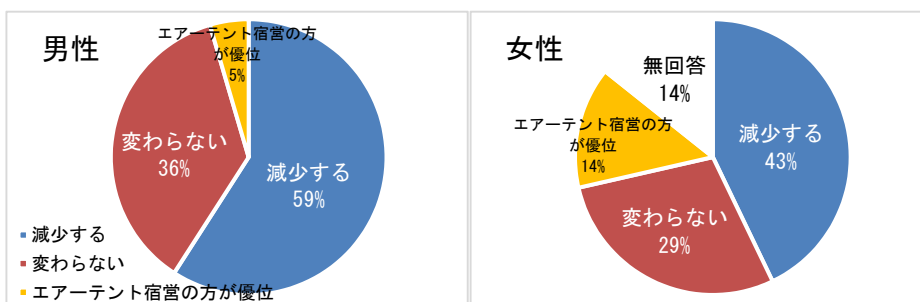
- ・給食エリア等でミーティングが行えるので、別途設ける必要はない。

コ 隊員の体調管理・容態管理



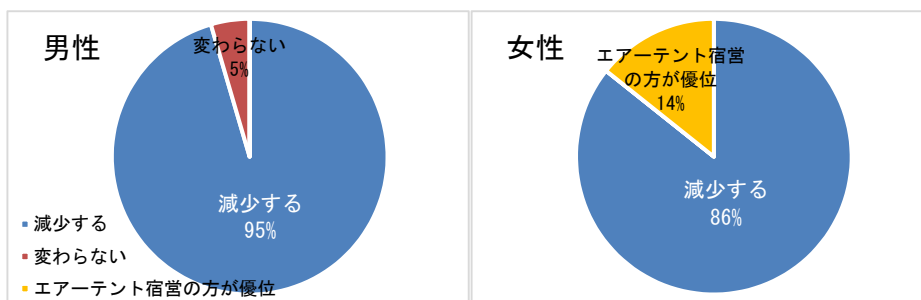
- ・トランシーバの活用、緊急連絡先の共有等、連絡体制を確保する必要がある。
- ・バディでの協力体制で、お互いをチェックしあえば良い。
- ・寒さや不測の事態に備えて、避難場所（エアertent等の別室）の確保が必要。

サ 必要面積は減少するか



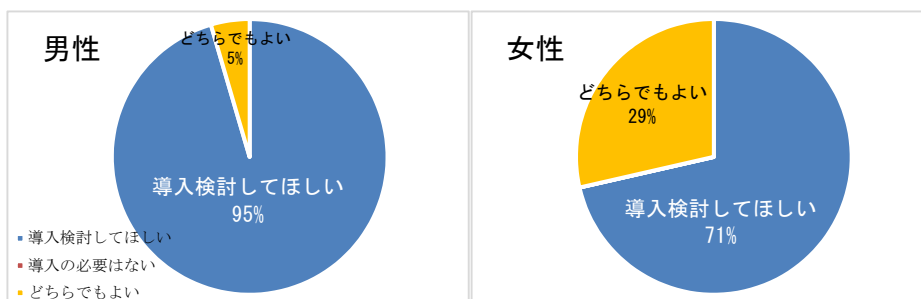
- ・設定の方法によるが少なからず減少するように思う。設定の自由度は高い。
- ・ソロテントに併せてエアertentも設定してしまえば、逆に増加する。

シ 設営負担は減少するか



- ・数は多くても設定は格段に楽であった。
- ・多少の訓練は必要だが、設定は簡単で軽量なのが良い。

ス ソロtent宿営の評価（導入検討の是非）



- ・宿営の選択肢の1つとして導入検討してほしい。
- ・プライベートな空間を確保できるのは精神的に楽である。体育館等屋内でも活用できるのではないかな。

(4) 実証試験を踏まえた新たな課題

課題	対策
寒さ対策（継続して） 夏の暑さ対策 雨天・強風時の対応	様々な環境での検証が必要
連絡体制	トランシーバの活用 緊急連絡先の共有（隊長等） テントへ大きく名札等の貼付、識別
人員交代時の対応 テントの状態（強度、浸水状況等） 内部消毒方法	複数回の検証が必要
連泊時の精神的、身体的な負担が未知数	連泊での検証が必要

(5) 検証結果を踏まえて

展示、実証試験でのアンケート結果を踏まえ、ソロテントを使用した宿営に適した装備等を考察した。

ア ソロテント

サイズは個人装備を置くため一般的な2人用（おおよそ200×100×105以上）が適している。冬期対応テントの使用も考慮する。

テントの色分けや差し込み式の名札等で使用者の識別を行う。

イ シュラフ

厳冬期であれば氷点下に対応しているシュラフが必要。対応可能温度は表記方法がメーカーにより異なる。表記されている温度（限界使用温度、快適使用温度など）の意味を理解すること。ソロテントに限らず、エアータントや屋内で宿営する場合でも就寝時は暖房が使用出来ない場面も想定されるため、同様に考える必要がある。

ウ 居住

最低でも銀マットとエアーマット（厚さ5cm以上）が必要。

照明は必ずしも必要ではないが、点ける際は透けないために向きに注意が必要。

エ 服装

冬期は機能性インナーやメリノウール等保温性や発熱性に優れた素材の衣類を着用することが望ましい。また、空気層を効果的に作ることができる防寒衣も有効である。

カイロや湯たんぽで足先を温める。

オ 男女エリア分け

男女エリア分けは各本部単位等最小限で行い、隊としての活動、本部としての活動から切り離されることが無いよう考慮する。

カ ミーティングエリアの確保

ミーティングは給食エリアや車両等を有効活用して行い、別途設ける必要はない。

キ 連絡方法

トランシーバや無線を活用し、また、緊急連絡先を共有することで連絡体制を確立する。

小隊等でバディを組み、相互に体調管理を行う。

ク 固定方法

アスファルトでの固定は消防で保有している資機材（ロープ、ホース、ポリタンク等）を使用して固定することが可能。

実証試験の様子



比較のためにエアーテントも設定



ソロテント設定の様子



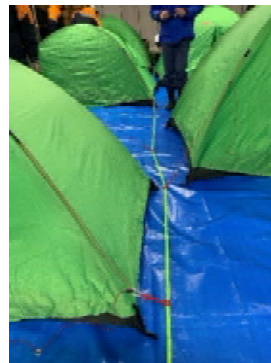
屋外での設定の様子



テント識別のためにタグを装着



12.5m×5mに16張のソロテントを配置



車両の車軸にロープを結着し、テント固定に利用



雪を利用したテントの固定



2人用の内部
銀マットとエアーマットを敷き、シュラフ、
300と400のバッグを置いた

第5 訓練会場・資機材等協力団体

上田 道と川の駅 おとぎの里	訓練会場（メイン）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 当初計画において、同施設一帯は合同訓練のメイン会場予定地であり、部隊運用訓練会場として2日間5種目（トンネル内多重衝突事故救助訓練、土砂災害救助訓練、孤立集落救助火災訓練、山林火災救助訓練、多重衝突事故救助訓練）の実施、後方支援訓練（県内消防相互応援隊：中信）の実施、ヘリポートにおける航空機の発着等を予定していた。一帯には国道や一級河川を擁し、エリア毎に管理者が異なる複雑な施設だが、おとぎの里が中心となり一帯を合同訓練のために無償で提供していただいた。 ○ 実動訓練中止後においても、令和3年10月25日に実施した『宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練』のため、施設一帯の敷地使用や参加者への昼食提供など多方面で協力をいただいた。 	
	

特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会（RDТА）	災害救助犬
<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定非営利活動法人 救助犬訓練士協会（神奈川県藤沢市）では、長野県諏訪郡富士見町に『RDТА八ヶ岳国際救助犬育成センター』を置いて、国内外で活動する救助犬の訓練を実施していたことが縁となり、合同訓練への参加協力を依頼していた。 ○ 当初計画していた実動訓練では、メイン会場での「土砂災害救助訓練」「トンネル内多重衝突事故救助訓練」、アサマ2000パークでの「噴火災害救助訓練」において、救助犬による要救助者の搜索活動を予定していた。また、実動訓練中止後においては、令和3年10月25日に道と川の駅 おとぎの里で実施した『宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練』で、救助犬による搜索活動のデモンストレーションを披露した。 	
	
 	

ソフトバンク株式会社

訓練用資機材

- 同社では、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）活動の一環として災害対策や復興支援に関する取組を行っており、関東ブロック合同訓練では運営向け通信機器無償貸与（タブレット端末（iPad）、携帯電話）の実績がある。
- 当初計画では、情報共有訓練でタブレット等の活用を予定していた。実動訓練中止後も図上訓練でタブレット等を活用した被災地本部、指揮支援隊等との情報共有等を行った。



アイコム株式会社

訓練用資機材

- 同社は業務用無線機器を製造・販売しており、消防関係機関でも馴染みのある企業のひとつ。関東ブロック合同訓練では運営用にIP無線機を無償貸与した実績がある。
- 当初計画では、広域化している各訓練会場で利用可能な通信ツールとしてIP無線機の使用を予定していた。実動訓練中止後も『Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練』で各会場担当者等が携行し、活用した。



株式会社ヘリテッジ

訓練用資機材

- 長野県内に本社を置き、山岳用テントやレスキュー製品を製造・販売しており、消防機関でも馴染みのある企業のひとつ。
- 当初計画では、感染防止対策やプライバシー確保の観点から、県内消防相互応援隊の一部がメイン会場でソロテントを用いて宿営する『長野県実行委員会モデル』の提案を予定していた。実動訓練中止後は宿営モデルの展示に企画を変更し、展示用ソロテントの無償貸与を受けた。



第 2 章



第1 全体検証会

日時：令和3年12月17日（金）
10時00分～12時15分
Web会議（Zoom）

1 挨拶

- (1) 総務省消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
- (2) 関東ブロック合同訓練 長野県実行委員会

2 訓練の検証

- (1) Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練
 - ア 訓練概要説明
 - イ 訓練実施内容一覧説明
 - ウ 評価結果説明
 - エ 質疑・御意見



※結果説明の際に、一部の評価項目の訓練について質問したもの。

質疑・御意見 1	
評価項目	3 情報収集・報告
評価指標	災害状況を整理し、報告内容を選別したうえで、情報を伝達していたか
質問	訓練事務局
<p>総務省消防庁から、緊急消防援助隊を要請する際、優先順位は並び替えた方が分かりやすいとの御意見をいただきました。緊急消防援助隊要請にあたり、どのような項目をどの程度伝えるかなど、御説明をお願いします。</p>	
回答	<p>今回の訓練では、被災地消防本部管内の全ての災害情報が入ってきていました。緊急消防援助隊を早期に出動させるため、災害情報に優先順位を付けて、緊急消防援助隊を要請するものだけを消防庁に報告していただきたいと思います。また、要請する災害が複数ある場合には、被害状況や人命危険などで更に優先順位を付けてもらい、報告していただきたいと思います。実災害では、情報を整理する余裕が無いかもしれませんが、できるだけ整理して報告していただければありがたいと考えます。</p>

質疑・御意見 2	
評価項目	4 情報収集・報告
評価指標	ホワイトボードや地図は整然と記入され、Web会議システムの画面越しであっても分かりやすかったか
質問	訓練事務局
<p>統括指揮支援隊の東京消防庁から、目に見える情報提供について、御意見ございますか。</p>	
回答	<p>私は、ホワイトボードによる情報共有は非常に大事だと思います。私も長野北部地震の時に活動させていただきました。その際も、ホワイトボードによる情報共有で意思決定に関わる協議をさせていただきました。是非、ホワイトボードによる情報共有のあり方みたいなものをマニュアル化し、伝承等していただければと思います。</p>

質疑・御意見 3	
評価項目	7 関係機関間協議
評価指標	全体及びブレイクアウトルームにおいて協議・検討がしやすかったか ※P4 第1 5 (4) にブレイクアウトルームについて記載
質問	訓練事務局 ブレイクアウトルームにおいて千曲坂城消防本部と協議いただきましたが、時間が足りなかった場面も見受けられました。御意見ございましたらお願いいたします。
回答	1 ブレイクアウトルーム内での千曲坂城消防本部との情報共有は、時間が足りなかったと思いますが、もう少しリアリティーを感じる情報共有ができたのではと思います。
回答	2 今回、消防庁はプレイヤーとして訓練に参加いたしました。訓練では、初期の段階から長野県庁や統括指揮支援隊と長く協議することがありました。今回は、図上訓練をWeb上で行うことの検証を兼ねており、そして、視聴者に情報共有のやり取りを見ていただきたいということもありまして、メインルームとブレイクアウトルームで、どんな情報共有を行うか考えておりましたが、うまく振り分けられませんでした。ブレイクアウトルームでの協議結果の報告がメインルームでされたかどうか記憶も定かではないので、今後、このような方法で訓練を行う場合は、ブレイクアウトルーム内での協議結果の報告を、メインルームで確実に共有するような指示が必要であると感じました。
補足	訓練事務局 今回の訓練では、最後にブレイクアウトルーム内での協議結果の報告をする時間を設けました。しかし、訓練進行が予定より超過していたため、協議結果の報告の進行が足早になりました。今後、訓練や実災害でWeb会議システムを使用する場合には、協議結果の報告もしっかり実施したいと考えております。

質疑・御意見 4	
評価項目	9 Web会議システム
評価指標	Web会議システムにおける機能を有効に活用し、情報収集できたか
質問	1 訓練事務局 さいたま市消防局では、V-CUBEを導入されておりますが、今回の訓練で使用したZoomとの機能や使い勝手の違い、情報共有の取り組みなどについて御説明をお願いします。
回答	 当局では、大規模災害に備え映像を活用する警防本部情報システムV-CUBEを導入しております。経緯としましては、本市が被災した場合に市災害対策本部で被害状況をより把握しやすくするために導入いたしました。使用方法は、今回の訓練のような調整本部のやり取り、ホワイトボードや地図の情報共有などはしておりません。今回の訓練では、ホワイトボードや地図など共有された情報は、画面をキャプチャーで撮影する事で、指揮支援隊としても活用できたので、有効と感じました。 現時点では、当県全域にV-CUBEの活用を拡大する予定はありません。
質問	2 訓練事務局 神奈川県では県下全域でLINE WORKSを使用しており、東日本台風災害や各種訓練で活用されているようですが、使用方法などについて御説明をお願いします。
回答	1 当県では、過去の台風災害等で、被災した消防本部が災害対応に追われ、県内への情報共有や応援要請が遅れたことを教訓にして、県内の広域応援にLINE WORKSを使って発信型の情報共有を行っております。
補足	

消防庁では、令和5年度から更改した新しいD J Sの運用を考えております。まだ計画段階であるため具体的な説明はできませんが、新しくビデオ会議機能を加え、そこで指揮支援隊、消防庁、都道府県がやりとりすることを考えております。

オ 指揮支援隊及び受援側機関からの補足意見等

【補足意見等なし】

カ 長野県内消防本部質疑事項

(ア) 総務省消防庁への質問について

質疑・御意見 1	
質問番号	1
事前質問	<p>動態情報システムと支援情報共有ツールは統合される予定と聞いていますが、どのようなものになるのか情報提供可能な範囲で御教授ください。</p> <p>※例として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムにログインすると、地図情報（D J S）と情報共有欄（S J K）が選択でき各機関が情報を入力・閲覧可能なもの。 ・現在の情報入力方法と大きく変わることがないもの。（現在はD J SとS J K両方にログインする必要があるが、統合されたシステムにログインするだけでD J S及びS J K両方が使用可能となる。） ・各様式等の授受ができるものであると良いと思います（現在のD J S及びS J Kでもファイル添付等で可能ではある）。
事前回答	<p>現在動態情報システムと支援情報共有ツールは全く別のシステムとして運用しておりますが、R 5年4月を目途に新動態情報システムに移行の予定です。その新システムでは今のところ、動態情報システムを基本として、その中に支援情報共有機能が入るようなイメージです。（動態情報システムにログインすると動態情報システムと支援情報共有ツールの両方が使用できるようになります。動態情報で入力した内容がある程度、支援情報共有機能の掲示板に自動反映できるよう計画しています。（詳細は調整中です。））</p> <p>主な入力方法等を大幅に変える予定はありません。地図表示やメール機能（様式や写真、動画の添付を含む）、会議や応受援計画の確認等も現状と同じように確認できるシステムとなる予定です。</p>
質 問	訓練事務局
	<p>今年8月に行われた緊急消防援助隊運用調整会議でも触れられておりましたが、私も県内消防相互応援と緊急消防援助隊の応援は地続きと考えております。そこで災害発生時のD J Sへの情報の入力についてですが、県内応援段階の情報であっても入力しておけば、その後、消防広域応援へ進んだ場合に、早期調整活動へ情報が活用できると考えます。入力は可能でしょうか。</p>
回 答	
	<p>消防庁としては、緊急消防援助隊に向けてシステムの配備を進めておりますが、県内応援で利用してはならないものでもありませんし、県内応援から被害が拡大し、緊急消防援助隊の派遣も十分考えられますので、D J Sを活用していただいて問題ありません。広域応援室としては、県内応援レベルの災害であってもシステムを活用していただいて、重大な災害が発生した時に、システムを有効に活用できるようにしておいていただきたいと考えております。</p>
意 見	訓練事務局
	<p>現状、県内応援レベルの災害では、D J SやS J Kは利用しておりません。加えて、県や市町村が独自の情報共有システムの導入やメール等、多種多様なツールで情報を共有しています。今後、消防の広域応援早期調整については、D J SとS J Kが統合される新システムに一本化していただければ、災害発生時に被災地や応援隊が情報共有ツールの選択に迷わないと思いますので、調整よろしく申し上げます。</p>

質疑・御意見 2	
質問番号	6
事前質問	<p>運用要綱では都道府県大隊長等は指揮者の指揮の下又は指揮支援部隊長若しくは指揮支援本部長の管理の下で、当該都道府県大隊の活動の指揮を行うものとなっていますが、陸路進出等により指揮支援部隊の到着が遅くなる場合は、被災地消防本部の指揮者の指揮下及び管理下で活動することで良いでしょうか。</p> <p>指揮支援隊の到着まで、先着した都道府県大隊長が指揮支援本部長に指名されることもあるのでしょうか。</p>
事前回答	<p>お見込みのとおり、指揮支援隊長が都道府県大隊より到着が遅くなる場合は、指揮者の直接の指揮下で活動することとなります。</p> <p>また、先着した都道府県大隊長が指揮支援本部長に指名されることとなります。</p> <p>(運用要綱第25条第2項)</p>
質問	1 訓練事務局
	<p>回答に「また、先着した都道府県大隊長が指揮支援本部長に指名されることとなります。」とありますが、今回の図上訓練で、佐久広域消防本部管内の噴火災害に照らし合わせた場合、さいたま市消防局の指揮支援隊は群馬県大隊の到着より2時間程度遅れる状況にありました。この場合、群馬県大隊長が指揮支援隊の到着まで、指揮支援本部長に指名されるという解釈でいいのでしょうか。要綱上では指揮支援部隊長が指揮支援隊長を指名すると記載がありますが、総務省消防庁と統括指揮支援隊長で協議があるのかという部分も含めて、御説明をお願いします。</p>
回答	
	<p>要綱上は、都道府県大隊長が指揮支援本部長に指名されます。都道府県大隊長も指揮支援隊長も、指揮者である被災地の消防長の指揮下で活動していくことに変わりはありません。</p>
質問	2 訓練事務局
	<p>今回のケースでは、群馬県大隊長が指揮支援隊長に指名されることはなく、さいたま市消防局の指揮支援隊が到着するまでは、群馬県大隊は佐久広域消防本部の指揮下で活動するという事よろしいでしょうか。</p>
回答	
	<p>その通りです。</p>

(イ) 指揮支援部隊への質問について

質疑・御意見 1	
質問番号	6
事前質問	<p>Web会議システムを活用し、災害発生時早期に指揮支援隊の任務や情報共有が可能であれば、指揮支援隊としても、自本部で対応しているので物的・人的資源を最大限活用し任務を行えると考えます。</p> <p>前提として指揮支援部隊は出動することとして、同時進行でWeb会議システムを活用し自本部での指揮支援をするという事は可能でしょうか。</p> <p>基本計画には指揮支援部隊の任務として、「災害に関する情報を収集し、長官及び関係のある都道府県知事等に伝達する」とされており、Web会議システムにより被災地に赴く前からの情報収集が可能であると考えます。また被災地としても、指揮支援部隊長が災害対策本部長又は調整本部長を、指揮支援隊長が指揮者を早期に補佐し、指揮支援していただくことで、災害対策本部又は調整本部や指揮本部の運営がより円滑に進み、出動した指揮支援部隊が到着した後も、情報共有がスムーズに行われると考えます。</p>

事前回答	<p>【東京消防庁】</p> <p>今回の図上訓練では、車内ではなく落ち着いた事務室という環境で実施し、Web会議システムを活用しての情報共有はある程度可能でしたが、実際に出場途上の車内という環境では、サイレンの吹鳴等があり困難であると感じました。</p> <p>また、災害対策本部等の一員として活動していない状況で、部隊投入や活動中止の判断基準等を判断することや、災害状況や部隊の対応状況が支援情報共有ツール等で共有しきれないことなどの課題も感じられました。</p> <p>さらに、現地の状況を直接確認することにより、不足している部分や調整が必要な事項が明確になり、お互い顔を合わせ、コミュニケーションをとることで円滑な調整や指揮本部運営が行えると考えます。</p> <p>警察、自衛隊等の他機関が災害対策本部で活動しているなか、消防の指揮支援隊長がWeb会議で参加していることに疑問を感じます。</p> <p>このことから、実際に被災地に出動し、災害対策本部等の一員として活動した方がより効果的な指揮支援活動を行えると考えます。</p>
	<p>【横浜市消防局】</p> <p>指揮支援隊のみ出動する場合は可能です。県大隊同時出動の場合は、後方支援本部として活動するため、人的余裕がありません。</p> <p>指揮支援隊として出動する際は、パソコンを持参し、出動隊員自らWeb会議システムにて情報収集を行います。</p>
	<p>【さいたま市消防局】</p> <p>Web会議システムを活用し、早期に情報収集等を行うことは有用であると考えますが、災害発生初期において被災地消防本部は、災害対応のほか、緊急消防援助隊の要請等の調整に追われており、Web会議システムで即座に様々な情報を収集することは困難（被災地消防本部の負担）であると考えます。</p> <p>また、被災地において緊急消防援助隊が円滑に活動できるように指揮支援活動を行うためには、被災地消防本部に赴いた上で詳細な情報収集や分析をすることが重要であると捉えております。情報収集ツールが増えることで被災地消防本部の負担につながる恐れもあることから、Web会議システムを活用し自本部で指揮支援を行うためには、更なる検証が必要であると考えます。</p>
	<p>【静岡市消防局】</p> <p>出動している指揮支援隊長の他にWebを活用した指揮支援を実施することは可能と思われます。ただし、被災地の初動の混乱している状況で、そのような早期の段階にWeb会議に必要な情報を集約して展開できるのか、逆にその環境を作ることを必須にすることにより被災地の負担となってしまうのではと考えるところもあります。</p>
	質問
	<p>指揮支援部隊は、Web会議システムを活用し、被災地消防本部や被災地消防本部から早期に情報収集している代表消防機関や県と、早期に情報共有可能でしょうか。また、必要でしょうか。</p>
回答	1
	有効であると思います。
回答	2
	回答1と認識は同じです。

回 答	3
災害時、被災地消防本部に余裕があるならば、情報はいただきたいと思います。	
回 答	4
指揮支援隊としては可能と思いますが、被災地消防本部が災害発生時の混乱した状況で、Web会議で情報を提供する環境を整えるのは、負担をかけてしまうと思います。	
意 見	訓練事務局
被災地消防本部の負担とならないように、情報収集した県や代表消防機関からの情報発信も含めて検討していきたいと考えております。	
(ウ) 総務省消防庁からの質問	
質疑・御意見	1
質 問	
消防庁では訓練終了後、どんな場面でWeb会議システムが活用できるかという話になりました。Web会議のメリットは複数の機関が同時に聞け、判断を下せることであると思います。例えば、緊急消防援助隊の部隊移動を検討する場合、本来、移動元の被災地、移動先の被災地、県にそれぞれ確認しているところを、Web会議で一堂に会せば、一度の会議で済むのではないかと考えています。そこで、今回の訓練に参加された皆様に、どのような場面でWeb会議システムが活用できそうか、御意見をいただきたいと思います。	
回 答	
被災地と県庁が離れている災害もありますので、現地の調整会議では有効に活用できると思います。	
補 足	
Web会議システムが活用できる場面がありましたら、引き続き消防庁まで御意見お願いいたします。	

(2) 宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材展示・訓練

ア 展示・訓練概要説明

(ア) 関東ブロック都県関係機関に、「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材展示・訓練」について、これまで説明を実施していないため、概要を主体に説明。

(イ) 県内消防本部等を対象に、「長野県実行委員会モデル」と称した、感染症対策や女性活躍推進を考慮したソロテントを用いた宿営モデルの展示、長野県に新たに配備された無償使用車両の展示・訓練、救助犬訓練士協会による救助犬の搜索展示・訓練を実施しました。

イ アンケート結果説明

(ア) 宿営モデル展示見学者に、感染症対策やプライバシーの確保、女性消防吏員の活躍推進等、事務局で検討した課題について、有効かどうか回答していただきました。

(イ) すべての項目で、7～8割の参加者に有効と回答をいただきました。特筆すべきは、回答していただいた7名の女性消防吏員全員から、女性が緊急消防援助隊に参加し宿営する上で、ソロテント宿営は有効であるとの回答をいただきました。

(ウ) アンケートには、ソロテント宿営の課題と対策も記入していただきました。挙げられた課題につきましては、12月から来年1月に、県内消防本部に協力していただき、実際にソロテントで宿営することで更なる検証を行い、ソロテント、エアータントそれぞれの利点や様々な宿営活動の可能性について検討を行うことが、緊急消防援助隊として活動する隊員の安全安心に繋がり、それが助けを待つ住民のためになると考えております。

ウ 展示・訓練について質疑

【質疑等なし】

(3) その他検討事項

ア 重点推進事項の中で翌年度にも実施した方が良い事項

全般的に令和3年度地域ブロック合同訓練の重点推進事項の継続に異議はありません。

(ア) 第2訓練計画作成に係る重点推進事項2部隊進出・輸送訓練(1)他ブロックからの参加
実災害時の一次出動の隣県2県(新潟県・岐阜県)の参加を計画しており、訓練参加に係
る予算等の負担も増加しますが、応援側として進出時間や地形等の把握、受援側も到着予定
時間や部隊規模等の予測が付き、進出拠点や宿営場所の選定に活かせるものと考えます。

(イ) 第3訓練実施に係る重点推進項目4後方支援活動訓練(3)宿営場所での感染対策
新型コロナウイルス感染症感染防止と女性消防吏員派遣時の隊員間のプライバシー保護及
び宿営スペース等の検証のため、ソロテントを活用した宿営について提案しました。

また、広い屋内での宿営場所を選定し、疲労回復や隊員間の離隔距離の確保、体調不調者
発生時の感染防止対策及び女性消防吏員の宿営活動のため、別室を準備する計画でした。今
後の感染症対策と女性消防吏員の派遣に向けた宿営活動に、ソロテントの活用も踏まえた宿
営活動の計画作成を盛り込んでいただき、状況に応じた選択肢として検証いただきたい。

イ 重点推進事項に新たに加えるべき事項

Web会議システム(以下、Web)の積極的な導入について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、Webの可能性を検証することを目的として、Web
だけを使用した図上訓練を実施いたしました。Webの利点である映像を確認しながら情報共
有が可能であることと各機関が対面で協議できることの有効性について高い評価をいただき
ました。

緊急消防援助隊投入希望の災害現場の状況をタイムリーに共有することや様々なファイル
を共有することも可能であり、応援双方が有効に活用できるよう、今後の可能性について更
に検討いただきたい。

ウ 総務省消防庁からの補足

今年度末には、来年度分の重点推進事項を皆様にお知らせする予定ですので、引き続きよろ
しくをお願いします。

【質疑等なし】

3 総 評

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練検討員
次頁に掲載

4 閉 会

第2 総評

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練検討員

千葉市消防局警防部警防課
課長(消防監) 鈴木 卓二 様

千葉市消防局の鈴木でございます。検討員を仰せつかっておりますので、総評を述べさせていただきます。

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練は、開催都市としては10年に1度、受援体制に関わる各種検証ができる絶好の機会でございます。また、応援都市としても、大規模な想定のもと都県大隊の連携強化や自隊の活動能力の検証を行う絶好の機会でもあります。

一昨年は、ブロック内で被害をもたらした風水害により中止、昨年はオリンピック・パラリンピックが予定されていたことから中止、2年間実施できない状況でありました。更に追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威をふるい、今年度の訓練についても開催が危ぶまれました。

当初、長野県の方でも、本部運営訓練、部隊参集訓練、受援対応訓練、部隊運用訓練、後方支援活動訓練、女性消防吏員活躍推進ディスカッションが計画されておりましたが、宿営訓練は実施しない、部隊運用訓練の想定を減らし1日で実施、と規模縮小を強いられ、3年連続中止も現実味を帯びてまいりました。しかし、長野県実行委員会の皆様の執念により、Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練といった形で訓練が実施されたことに対し、感謝並びに敬意を表します。

本来であれば応援側受援側双方に対して、各種計画に基づいて行動ができていたのかどうか、また付与された想定に対し適切な対応ができていたのか、などを検証し評価すべきところではありますが、今回はWeb会議システムを活用した状況予測型図上訓練という初めての試みでありましたので、参加機関の行動や対応評価というよりは、Web会議システムに対する意見を述べさせていただきます。

今回の訓練のように、関係機関がWeb会議システムを情報伝達・情報共有に活用していくといった統一のルールのもと、また災害が発生していない通常時と同様な通信環境であれば、非常に有効なツールであると感じました。災害発生と同時にシステムを立ち上げることにより、関係機関との情報共有体制が早期に確立し、リアルタイムで状況が劣勢である機関への支援、また応援側への有効な情報提供が可能となり、現行の動態情報システムや支援情報共有ツールなどと組み合わせることによって、応受援活動の円滑化に繋がると感じております。また、コロナ禍で需要が高まったWeb会議システムに目を付けた点も、非常に良かったと思います。対面での会議が実施できない中、代替策としてオンラインによる会議が今では主流となっております。まだまだ、誰もがオンラインを使いこなせる状況ではありませんので、今後も続くであろうオンライン会議で場数を踏んでいく事によって、オンラインスキルも向上し、Web会議システムの有効活用に繋がっていくと感じております。しかし、先程も述べましたように共通ソフトの整備や事前ルールの設定、通信環境の検証などの整備が必要となると思いますので、是非、長野県がまずは県内広域応援の取り組みとして、Web会議システムを活用した応受援体制の検証をしていただき、全国へ長野システムとして発信していただければと思います。

次に、宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材展示・訓練実施結果報告を確認させていただきましたので、一言申し上げたいと思います。

新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策やプライバシーの確保の課題解決を目的に、ソロテントでの宿営展示訓練を実施され、参加者の評価も高い結果となっていました。現在もエアータントによる宿営が主流であると思いますが、宿泊施設等屋内施設を活用した宿営、そして、今回実施されたソロテントでの宿営、それぞれにメリット・デメリットがあることから、被災地の状況や気象条件、今後も危惧される感染症対策などを考慮して、状況に応じた宿営方法を選択するなど、柔軟な対応が必要ではないかと考えます。また、屋内施設にソロテントを設置するなど、複合的な対策も選択肢ではないかと思えます。後方支援活動は受援側の負担を極力減らしつつ、応援側の職員が最高のパフォーマンスを発揮できる環境作りが何よりも重要となりますが、全国的に試行錯誤しているのが現状であります。今回の訓練結果をもとに、引き続き検証を実施していただければと思います。

最後に度重なる計画変更を強いられながらも、令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練を実施していただいた長野県実行委員会、予定も含めた訓練参加消防機関・関係機関、消防庁の皆様に感謝を申し上げ、総評とさせていただきます。

第 3 章

訓練縮小に伴い
中止した訓練企画等



第1 訓練概要

1 訓練目的

長野県内での地震に起因する大規模災害を想定し、「緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱」、「緊急消防援助隊の運用に関する要綱」及び「長野県緊急消防援助隊受援計画」に基づく緊急消防援助隊の出動要請、部隊の参集、配備等について長野県内の受援体制を検証するとともに、実践的な訓練を実施し、長野県内消防相互応援隊、緊急消防援助隊及び各関係機関との連携強化を図ることを目的とする。

2 訓練想定

令和3年9月末から長野県東部を震源とする震度1から3程度の地震活動が続き、10月10日13時現在で震度1以上となる地震を52回観測した。長野県東信地方と群馬県を跨ぐ浅間山での噴煙量及び火山性ガス（二酸化硫黄）の放出量に目立った変化はなく、噴火警戒レベル1を維持していた。

令和3年10月11日未明から長野県東部を震源とする震度3程度の地震活動が続き、7時30分、上田市付近を震源とする極浅発地震が発生し、震度6強を観測した。地震による家屋の倒壊や土砂崩落が各地で発生し、被害は東北信地域に及んだ。

8時15分には浅間山において中規模な噴火が発生し、下山中の登山者が負傷した。地震と噴火が連続して発生し、甚大な被害が広域に拡大し、負傷者が多数発生した。

なお、震源は令和元年11月に新たに発見された上田市上野の神川沿いの活断層が関わっているものと推定される。

3 訓練日時

令和3年10月11日（月）8時00分から 令和3年10月12日（火）12時00分まで

4 訓練等会場（別図「会場地図」参照）

（1）本部運営訓練

ア 調整本部・県災害対策本部運営訓練

長野県庁西庁舎3階 災害対策室 【長野市大字南長野字幅下692番地2】

イ 指揮本部・指揮支援本部運営訓練

（ア）上田地域広域連合消防本部 【上田市大手二丁目7番16号】

（イ）佐久広域連合消防本部 【佐久市中込2947番地】

（ウ）長野市消防局 【長野市大字鶴賀1730番地2】

（エ）千曲坂城消防本部 【千曲市大字磯部1221番地】

（2）部隊参集訓練（車両で編成される隊の進出拠点）・受援対応訓練

ア 長野県営上田野球場 【上田市下之条354番地1】

イ 小諸市総合運動場 【小諸市己146番地30】

ウ 長野運動公園総合運動場陸上競技場 【長野市東和田632番地】

エ 更埴インターチェンジランプ内敷地 【千曲市大字屋代】

(3) 部隊運用訓練

ア 上田市会場

(ア) 上田 道と川の駅 おとぎの里一帯 【上田市小泉字塩田川原 2575 番地 2】

(イ) サントミュージゼ 【上田市天神三丁目 15 番 15 号】

イ 東御市会場

(ア) 旧北御牧村村営プール周辺 【東御市下之城 965 番地】

(イ) 北陸新幹線北御牧軌道敷連絡路 【東御市下之城】

ウ 小諸市会場 アサマ 2000 パーク・高峰山 【小諸市高峰高原】

エ 佐久市会場 旧佐久クリーンセンター 【佐久市中込 2880 番地】

オ 長野市会場

(ア) 駒沢新町第 2 団地 【長野市徳間1144番地】

(イ) 東日本旅客鉄道(株)長野総合車両センター 【長野市西和田二丁目29番 1 号】

カ 千曲市会場 千曲市旧更埴庁舎 【千曲市大字杭瀬下84番地】

キ 坂城町会場 ENEOS(株)北信油槽所第 2 貯蔵所 【埴科郡坂城町大字坂城9896番地 1】

(4) 後方支援活動訓練(宿営会場)

ア 長野県営上田野球場 【上田市下之条354番地 1】

イ 東御市中央公園第一体育館 【東御市鞍掛177番地 2】

ウ 長野県立武道館 【佐久市猿久保165番地 1】

エ 長野運動公園総合運動場総合体育館 【長野市吉田五丁目 1 番19号】

オ 千曲市戸倉体育館 【千曲市大字磯部1406番地 1】

カ 上田 道と川の駅 おとぎの里芝生公園 【上田市小泉字塩田川原2575番地 2】

キ 佐久市総合体育館 【佐久市中込2939番地】

(5) 女性消防吏員活躍推進ディスカッション サントミュージゼ 【上田市天神三丁目15番15号】

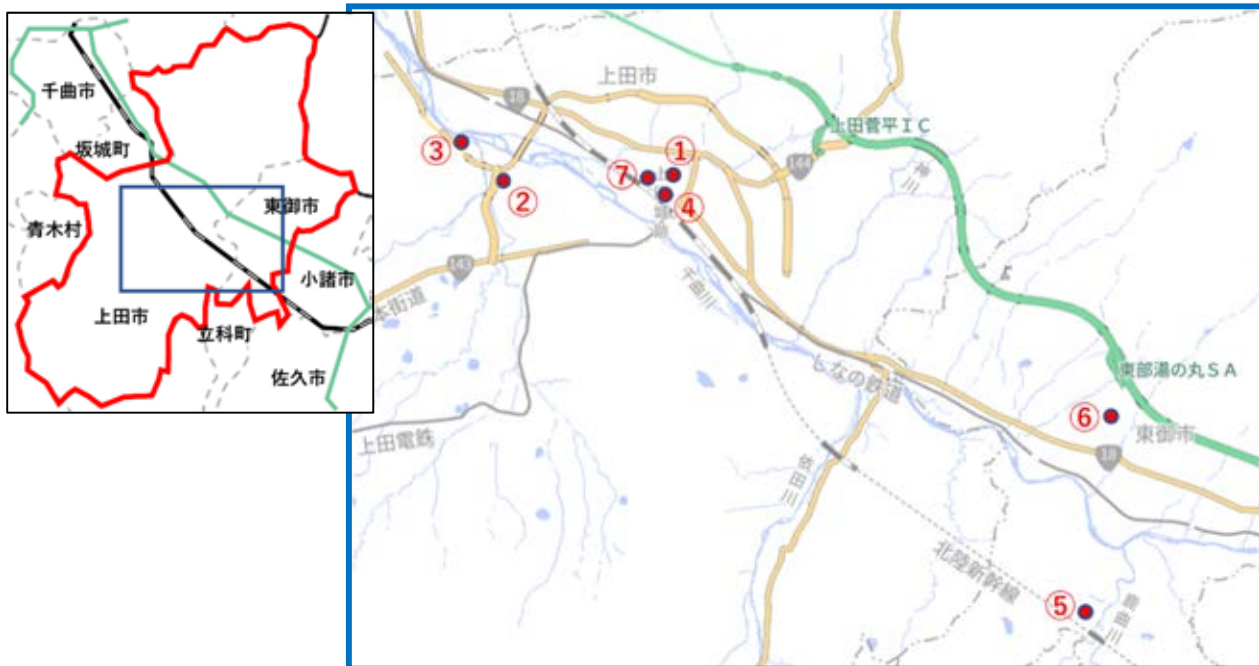
(6) 閉会式 上田城跡公園芝生広場【上田市二の丸 1 番地12】

別図 会場地図

全体図

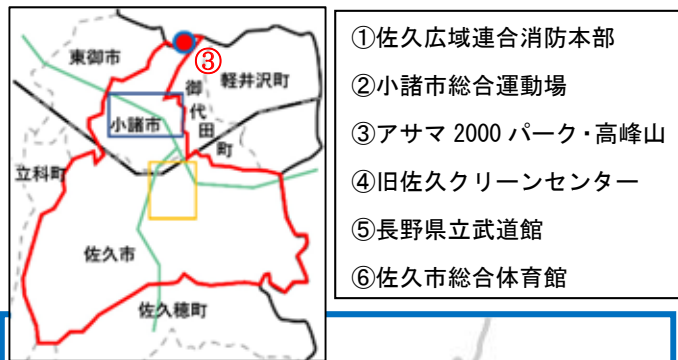


上田市会場（主会場）・東御市会場

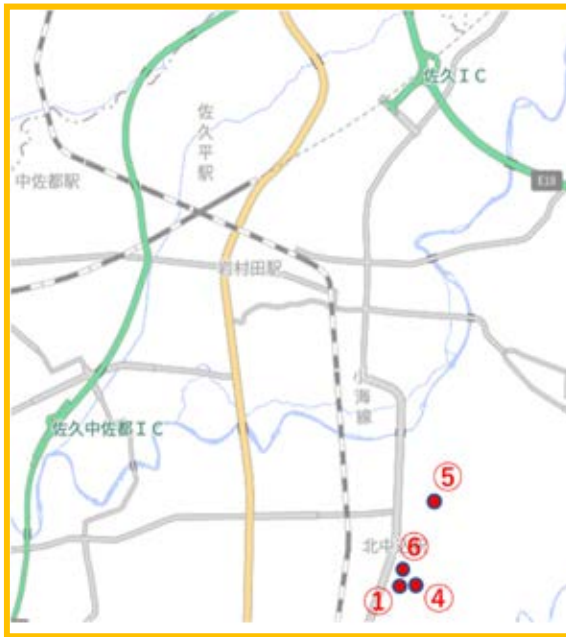


- ①上田地域広域連合消防本部 ②長野県営上田野球場 ③上田 道と川の駅 おとぎの里 ④サントミュージゼ
- ⑤旧北御牧村村営プール周辺・北陸新幹線北御牧軌道敷連絡路 ⑥東御市中央公園 ⑦上田城跡公園

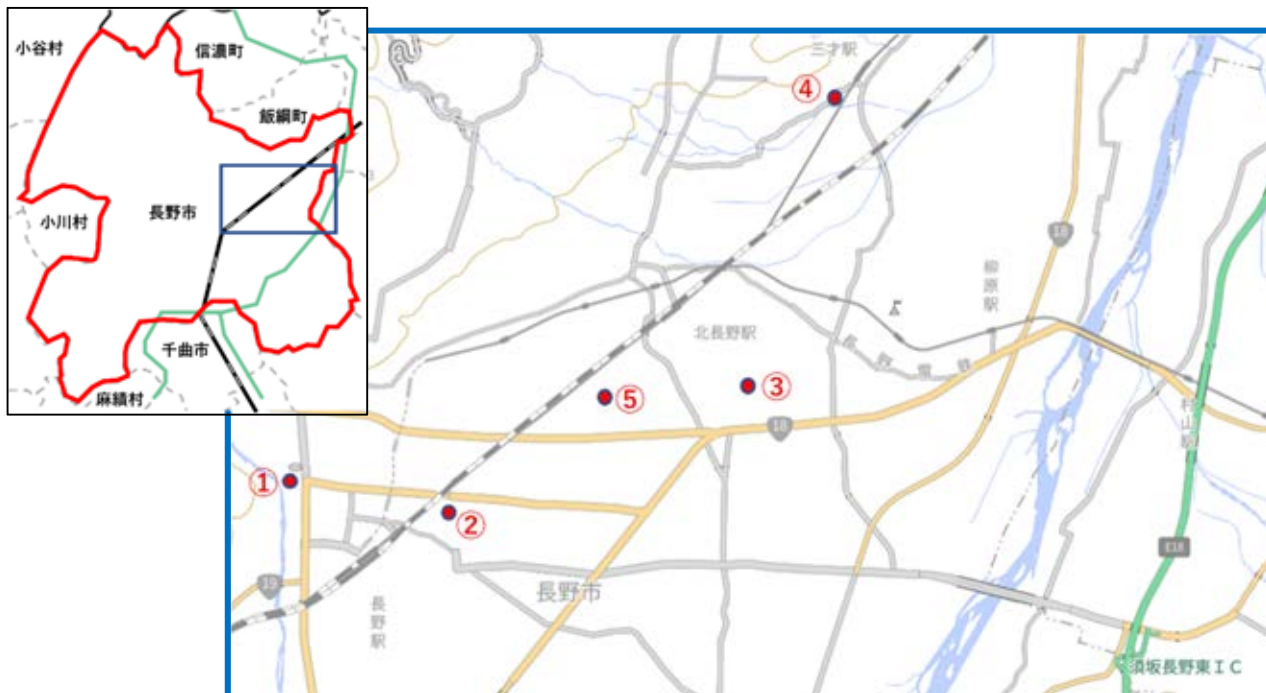
小諸市会場・佐久市会場



- ①佐久広域連合消防本部
- ②小諸市総合運動場
- ③アサマ 2000 パーク・高峰山
- ④旧佐久クリーンセンター
- ⑤長野県立武道館
- ⑥佐久市総合体育館

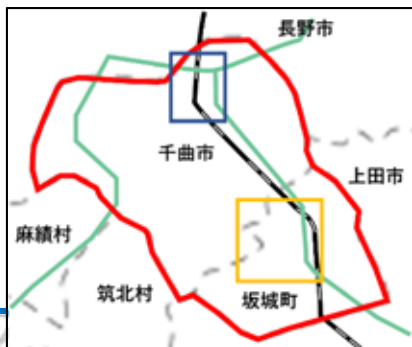


長野市会場

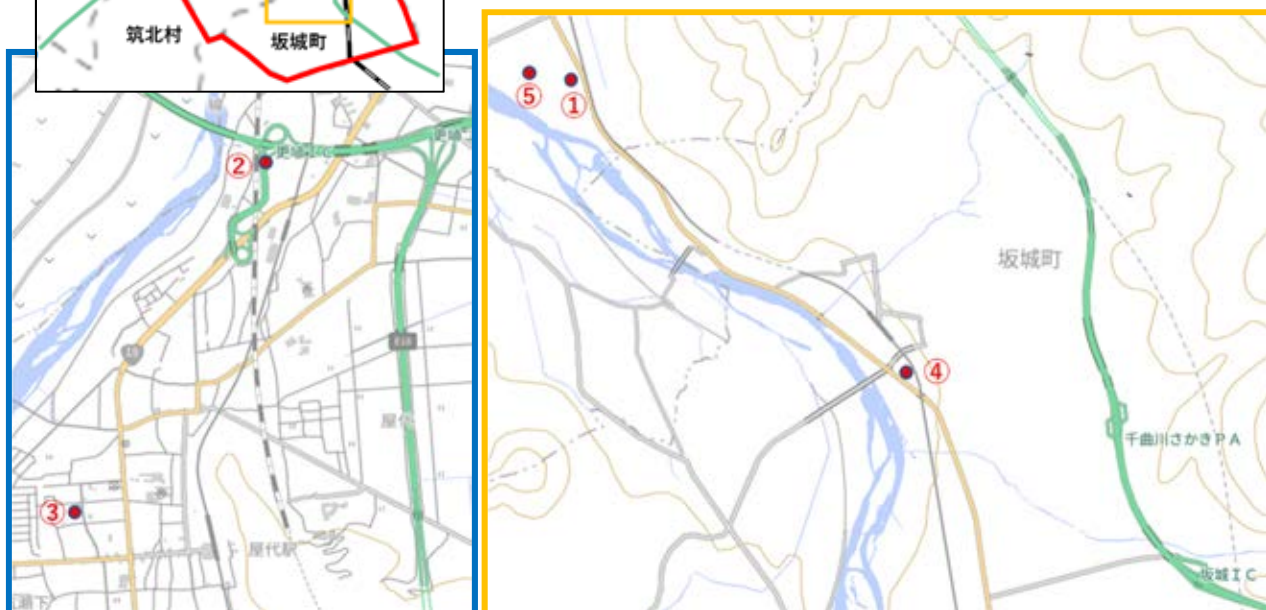


- ①長野県庁 ②長野市消防局 ③長野運動公園総合運動場 ④駒沢新町第2団地
⑤東日本旅客鉄道株式会社長野総合車両センター

千曲市会場・坂城町会場



- ①千曲坂城消防本部 ②更埴インターチェンジランプ内敷地
③千曲市旧更埴庁舎 ④ENEOS(株)北信油槽所
⑤千曲市戸倉体育館



5 参加機関

(1) 消防機関

ア 緊急消防援助隊 301 隊 1293 名 (11 都県)

関東ブロック 1 都 8 県 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県) の都県大隊等と隣接ブロック 2 県 (新潟県、岐阜県) の統合機動部隊等

イ 長野県内消防本部 23 隊 168 名 (10 本部)

都道府県	本部数	隊数	人数	車両数	航空機数	無償使用車両数	
緊急消防援助隊	茨城県	12本部	21隊	101名	20台	1機	5台・機
	栃木県	11本部	24隊	94名	25台	1機	5台・機
	群馬県	4本部	17隊	74名	20台	1機	4台・機
	埼玉県	16本部	32隊	121名	31台	1機	8台・機
	千葉県	23本部	61隊	250名	64台	1機	8台・機
	東京都	2本部	32隊	137名	31台	1機	1台・機
	神奈川県	18本部	42隊	204名	47台	1機	9台・機
	山梨県	8本部	16隊	64名	15台	1機	5台・機
	静岡県	10本部	21隊	100名	21台	1機	6台・機
	新潟県	13本部	20隊	92名	19台	1機	4台・機
	岐阜県	8本部	15隊	56名	15台		6台・機
	小 計	125本部	301隊	1,293名	308台	10機	61台・機
長野県 (県内応援含む)	10本部	23隊	168名	24台	1機	2台・機	
合 計	135本部	324隊	1,461名	332台	11機	63台・機	

ウ 消防団

消防団名	分団数	人数	車両数
上田市消防団	5分団	25名	5台

(2) 関係機関 (順不同) 【 】内は参加予定人数

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ア 陸上自衛隊【50名】 | イ 海上保安庁【5名】 |
| ウ 国土交通省北陸地方整備局【10名】 | エ 長野県【90名】 |
| オ 長野県警察本部【40名】 | カ 減災ナースながの【60名】 |
| キ 信州ドクターヘリ佐久【5名】 | ク 都留市立病院DMAT【5名】 |
| ケ 長野県DMAT【50名】 | コ J A長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター【4名】 |
| サ アサマ 2000 パーク【10名】 | シ 株式会社小田切車体【2名】 |
| ス 協同組長長野県解体工事業協会【2名】 | セ 長電バス株式会社【5名】 |
| ソ 長野県石油商業組合【2名】 | タ 長野県生コンクリート工業組合【2名】 |
| チ 東日本旅客鉄道株式会社【16名】 | ツ 有限会社レッカーサービス110【2名】 |
| テ ENEOS株式会社北信油槽所【2名】 | ト RDTA救助犬訓練士協会【7名3頭】 |

6 協力機関

(1) 市町村 (順不同)

上田市、東御市、小諸市、佐久市、長野市、千曲市、坂城町

(2) 訓練会場・訓練備品等協力機関（順不同）

アイコム株式会社、アスザック株式会社、上田市防災支援協会、上田 道と川の駅 おとぎの里、エアーストレッチャー株式会社、エービーシー株式会社、株式会社アクセル、株式会社イワバナ、株式会社ジェイアール貨物・信州ロジスティクス、株式会社都築製作所、株式会社長野エン・ベー・エム・ファクトリー、株式会社藤川紙業、株式会社ヘリテイジ、クリーニング工房COCO、小諸倉庫株式会社、上小漁業協同組合、職業訓練法人長野地域職業訓練協会長野地域職業訓練センター、第一防災工業株式会社、千曲バス株式会社、中越運輸株式会社、ミヤリサン製薬株式会社CBMプラント、ソフトバンク株式会社、長野県建設業協会、長野市立長野高等学校、長野石油輸送株式会社

(3) 要救助者協力機関（順不同） 【 】内は参加予定人数

上田市医師会上田看護専門学校【13】、学校法人 I S I 学園専門学校長野ビジネス外語カレッジ【24】、学校法人上田佐藤学園上田情報ビジネス専門学校【41】、学校法人大原学園【100】、学校法人佐久学園佐久大学【20】、学校法人成田会長野救命医療専門学校【45】、独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター附属看護学校【37】

7 訓練項目

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 本部運営訓練 | (2) 部隊参集訓練・受援対応訓練 |
| (3) 情報収集・情報伝達伝送訓練 | (4) 部隊運用訓練 |
| (5) 部隊移動訓練 | (6) 後方支援活動訓練 |
| (7) 燃料補給訓練 | (8) 女性消防吏員活躍推進ディスカッション |

8 実施要綱等

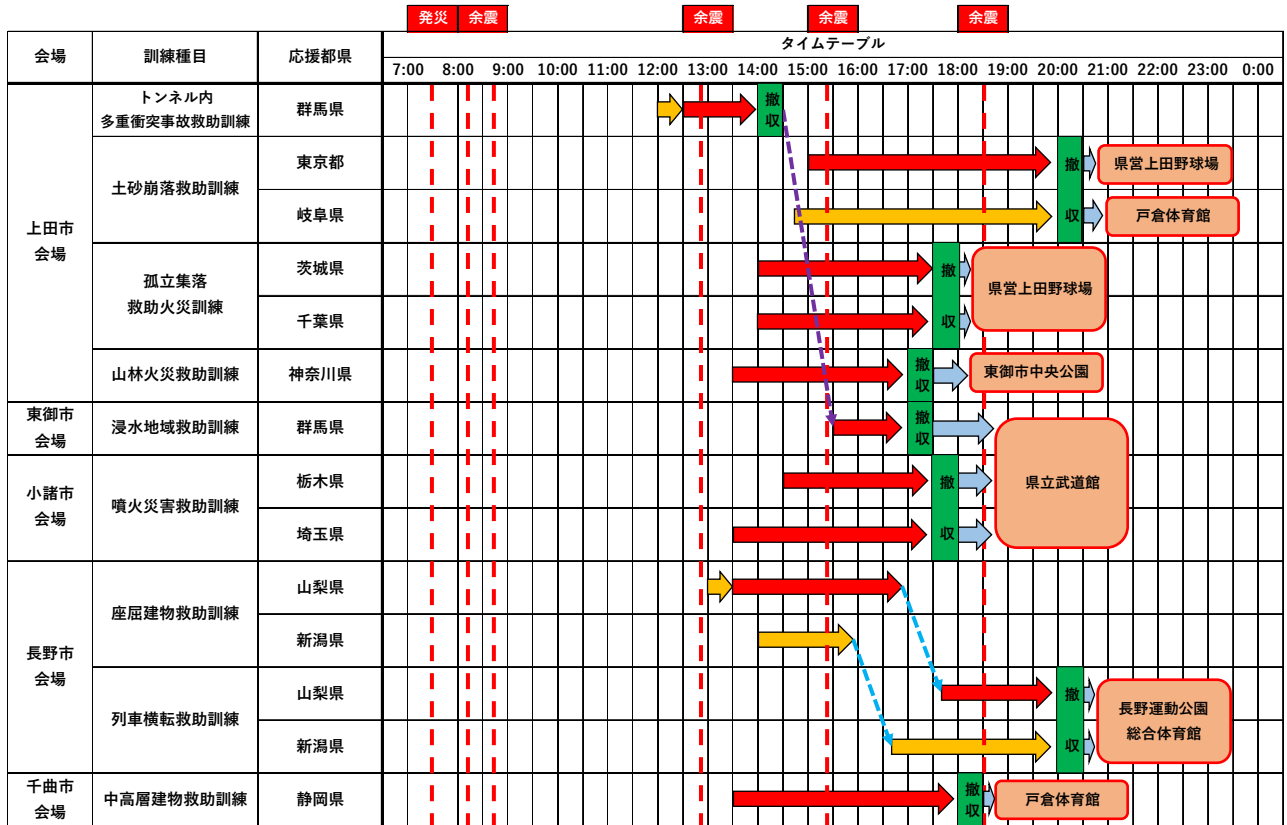
実施要綱、実施要領、訓練企画書等を巻末DVDに収録いたしました。

【都県別部隊運用訓練項目一覧】

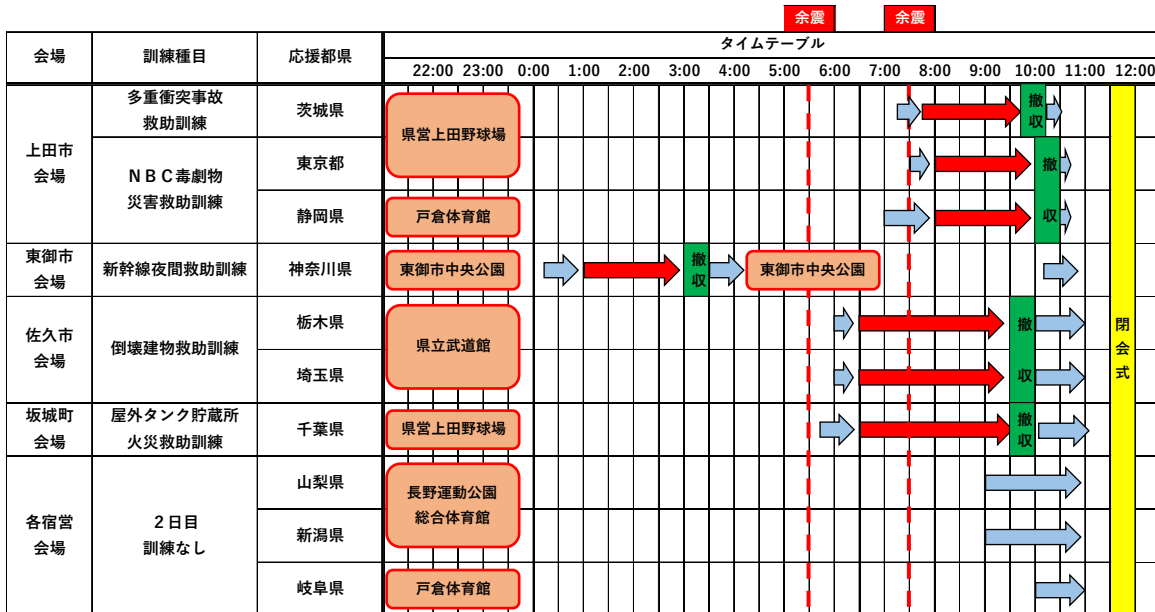
都県名	訓練項目（災害種別）
茨城県	孤立集落救助火災訓練・多重衝突事故救助訓練
栃木県	噴火災害救助訓練・倒壊建物救助訓練
群馬県	トンネル内多重衝突事故救助訓練・浸水地域救助訓練
埼玉県	噴火災害救助訓練・倒壊建物救助訓練
千葉県	孤立集落救助火災訓練・屋外タンク貯蔵所火災救助訓練
東京都	土砂崩落救助訓練・NBC毒劇物事故対応救助訓練
神奈川県	山林火災救助訓練（雨天時：里山傷病者搬送救助訓練）・新幹線夜間救助訓練
山梨県	座屈建物救助訓練・列車横転事故救助訓練
静岡県	中高層建物救助火災訓練・NBC毒劇物事故対応救助訓練
新潟県	座屈建物救助訓練・列車横転事故救助訓練
岐阜県	土砂崩落救助訓練
県内中信	土砂崩落救助訓練・多重衝突事故救助訓練
県内南信	噴火災害救助訓練・倒壊建物救助訓練

【都県別部隊運用訓練タイムスケジュール】

第1日目 令和3年10月11日(月)



第2日目 令和3年10月12日(火)



- 凡例
- 統合機動部隊のみの活動時間
 - 移動時間
 - 転戦
 - 都県大隊の活動時間
 - 部隊移動
 - 宿営会場

9 運営役員

(1) 運営役員数の算出

ア 長野県内消防本部と同規模消防本部の平成 29 年度群馬県開催時の運営役員 837 名（職員定数割合 32.9%）から大幅な削減を図り、長野県内各消防本部（局）において地元消防の消防力を落とすことなく、最大限協力いただける人数を動員する。

イ 図上プレーヤー、活動部隊及び運営役員数を按分して各消防本部の動員人数を算出、必要な運営役員を各訓練に振り分ける。

ウ 他都県開催と比較すると人員不足も考えられるが、重点推進事項に記載のとおり、本訓練では既存の建築物や自然地形を活用し実践的な訓練を計画していることから、実際の活動と同様に各部隊による安全管理を徹底するとともに、運営役員に複数の任務を受け持っていたく等を考慮して人員不足を改善する。

(2) 運営役員配分

別表 運営役員一覧表参照

別表 運営役員一覧表

1 本部運営訓練	訓練統括		統制(副統括)		記録		案内		安全監視員		傷病者管理		車間誘導(燃料補給)		司会進行		アナウンス		救護		航空支援	
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳
1 消防応援活動調整本部	1	5			1		2															
2 航空指揮支援本部(航空指揮本部)	1	2			1																1	航空隊OB
1 上田地域広域連合消防本部	1	4			1		2															
2 佐久広域連合消防本部	1	4			1																	
3 長野市消防部	1	4			1																	
4 千曲坂城消防本部	1	4			1																	
1 半過へりポート	1	FB統括を兼務	1	FB統括、FB記録、記録を兼務	1	統制が兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導を兼務	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	航空隊OB
2 千曲川スポーツ交流広場	1	1	1	記録を兼務	1	統制が兼務	1							2	進出脱出誘導を兼務							
3 萬葉の里スポーツエリア	1	FB統括を兼務	1	FB統括、FB記録、記録を兼務	1	統制が兼務	2							1	FB誘導を兼務						1	航空隊OB
4 長野県川第二緑地公園	1	1	1	記録を兼務	1	統制が兼務	2							2								
計	10	28			6		4	4	0	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	3	57
2 部隊進出拠点訓練																						
1 長野県営上田野球場	1	1	1	記録を兼務	3	統制が兼務	3															
2 小諸市総合運動場	1	2	2	記録を兼務	2	統制が兼務	2															
3 長野運動公園総合運動場陸上競技場	1	1	1	医師病院統括を兼務	1	記録を兼務	2	後方支援案内が兼務	2	安全監視員	2	傷病者管理	2	車間誘導(燃料補給)	2	司会進行	2	アナウンス	2	救護	2	
4 更埴インターチェンジランプ内敷地	1	1	1	記録を兼務	1	記録を兼務	2							3								
計	4	5			1		9	9	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	24
3 部隊運用訓練																						
(1) 1日目																						
おとどきの里	1	3	1	土砂と兼務	1	土砂と兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
北野	1	5	1	トンネル多重と兼務	1	トンネル多重と兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
アサマ	1	4	1	山形火災救助訓練(雨天時：里山消防署移送)	1	山形火災救助訓練	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
長	1	7	2	浸水地域救助訓練	1	浸水地域救助訓練	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
野	1	3	1	新幹線夜間救助訓練	1	新幹線夜間救助訓練	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
千曲	1	4	2	噴火災害救助訓練	1	医師病院記録を兼務	2	後方支援案内が兼務	2	安全監視員	2	傷病者管理	2	車間誘導(燃料補給)	2	司会進行	2	アナウンス	2	救護	2	
飯	1	3	1	盛岡建物救助訓練	1	医師病院記録を兼務	2	後方支援案内が兼務	2	安全監視員	2	傷病者管理	2	車間誘導(燃料補給)	2	司会進行	2	アナウンス	2	救護	2	
想	1	2	1	列車横断事故救助訓練	1	医師病院記録を兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
病	1	6	2	中高層建物救助火災訓練	1	医師病院記録を兼務	2	後方支援案内が兼務	2	安全監視員	2	傷病者管理	2	車間誘導(燃料補給)	2	司会進行	2	アナウンス	2	救護	2	
院	1	1	1	長野県営上田野球場	1	統括が兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
F	1	1	1	北御政庁倉駐車場	1	統括が兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
B	1	1	1	高嶺高原ピジャセンター	1	統括が兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
H B	1	1	1	佐久医療センター	1	統括が兼務	1	主会場案内が兼務	1	安全監視員	1	傷病者管理	1	車間誘導(燃料補給)	1	司会進行	1	アナウンス	1	救護	1	
計	16	47			18		13	13	10	37	0	24	0	37	0	0	0	0	6	0	0	171

3 部隊運用訓練 (2) 2日目	訓練統括		統制(副統括)		記録		案内		安全監視員		傷病者管理		車両誘導(燃料補給)		司会進行		アナウンス		救護		計
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	
1 多重衝突事故救助訓練	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	9
2 NBC毒劇物事故対応救助訓練	1	7	1	1	1	1	2	2	1	1	2	4	4	4	1	1	1	1	1	1	18
3 女性消防員生活推進デモアクション	1	1	1	1	1	1	2	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7
4 倒壊建物救助訓練	1	9	2	2	2	2	2	2	2	1	1	5	5	5	1	1	1	1	1	1	20
5 屋外タンク貯蔵所火災救助訓練	1	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17
1 長野県営上田野球場	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
2 サントミューゼ東駐車場	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
3 佐久広域連合消防本部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
4 坂城町文化センター	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
計	9	23	7	7	8	8	6	6	9	9	15	15	1	1	1	1	1	1	1	1	82

4 後方支援活動訓練	訓練統括		統制(副統括)		記録		案内		安全監視員		傷病者管理		車両誘導(燃料補給)		司会進行		アナウンス		救護		計
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	
1 長野県営上田野球場	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	5	5	5	5	1	1	1	1	1	1	9
2 東御市中央公園第一体育館	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	8
3 長野県立武道館	1	1	1	1	2	2	2	2	2	5	5	5	5	5	1	1	1	1	1	1	10
4 長野運動公園総合運動場総合体育館	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	3
5 千曲市戸倉体育館	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
7 おとぎの里	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8 佐久市総合体育館	1	1	1	1	8	8	0	0	0	0	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	7	5	0	0	8	8	0	0	0	0	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	40

5 主会場運営	訓練統括		統制(副統括)		記録		案内		安全監視員		傷病者管理		車両誘導(燃料補給)		司会進行		アナウンス		救護		計
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	
1 おとぎの里(1日目)	1	2	2	2	10	10	10	10	2	2	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	25
2 おとぎの里(2日目)	1	1	1	1	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
計	2	3	3	3	13	13	0	0	3	3	5	5	5	5	0	0	1	1	6	6	36

6 終了式運営	訓練統括		統制(副統括)		記録		案内		安全監視員		傷病者管理		車両誘導(燃料補給)		司会進行		アナウンス		救護		計
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	
1 上田城跡公園芝生広場	1	1	1	1	10	10	10	10	2	2	5	5	5	5	1	1	1	1	1	1	21
計	1	1	2	2	10	10	0	0	0	0	5	5	5	5	0	0	1	1	1	1	21

7 県内相互応援隊及び被災地域出動部隊	指揮隊		消火隊		救助隊		救急隊		土砂風水害		図上ブレイヤー		人数計
	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	人数	内訳	
1 中信応援部隊	1	4	1	5	2	10	1	3	1	3	3	6	28
2 南信応援部隊	1	4	1	5	1	5	1	3	1	3	3	5	20
3 上田地域広域連合消防本部	1	1	1	4	1	4	4	12	4	12	22	5	38
4 佐久広域連合消防本部	1	3	1	3	1	2	1	2	1	2	20	2	25
5 長野市消防局	1	1	1	1	1	1	2	4	2	4	28	2	32
6 千曲城消防本部	1	1	1	1	1	1	2	4	2	4	12	2	16
計	3	11	3	14	3	15	1	3	1	3	85	22	159

合計 590 人
職員定数割合 23.2% (令和2年版消防現勢勢より算出)

第2 航空部隊訓練概要

1 訓練目的

- (1) 長野県災害対策本部、消防応援活動調整本部、指揮本部、指揮支援本部、航空指揮本部及び航空指揮支援本部の訓練において、Web会議システムを効果的に活用し、情報の正確性及び迅速性向上を図る。
- (2) 航空指揮本部と航空指揮支援本部は複数の航空小隊を効率的に配置するための調整力向上、地上隊と航空小隊は安全かつ円滑に活動するための機体誘導及び連携強化を図る。

2 訓練日時

令和3年10月11日(月) 8時00分から16時30分まで

3 訓練項目及び実施要領等

- (1) 本部運営訓練
航空指揮本部及び航空指揮支援本部の運営訓練において、各本部の情報収集・伝達活動と指揮・調整能力及び連携能力の向上を図るとともに、Web会議システムを効果的に活用し、情報の正確性及び迅速性の向上を図る。
- (2) 先行調査初動対応訓練
発災初動時に、航空機を活用した広域情報収集活動を実施し、県災害対策本部及びヘリベースに画像伝送を行うとともに航空隊員の召集を行い、航空小隊及び航空後方支援小隊の受入体制の強化を図る。
- (3) 指揮支援隊輸送訓練
緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画(以下「基本計画」という)及び要請要綱に基づき、航空部隊による指揮支援隊輸送を実施するとともに、進出ルートを検証及び受援消防機関の受入体制等の確認を行う。
- (4) 航空小隊参集訓練
航空小隊基地から航空機又は自隊保有車両でヘリベースに出動し、出動体制の確認と進出ルートを検証及び受援消防機関の受入体制等の確認を行う。
- (5) 情報収集共有訓練
各訓練会場の状況や緊急消防援助隊の活動状況をヘリサット等で記録し、緊急消防援助隊、消防庁、調整本部、消防本部が情報を共有することで連絡体制の強化を図る。
- (6) 負傷者搬送訓練
緊急搬送が必要な負傷者を広域搬送拠点臨時医療施設に地域医療搬送するとともに、信州ドクターヘリ及び航空小隊で負傷者搬送することで、場外離着陸場での地上隊や関係機関との連携強化と通信体制の確認を行う。
- (7) 孤立集落救助火災訓練
孤立集落において発生した要救助者を航空機で救出搬送するとともに、地上隊との連携及び通信連絡体制を確認する。
- (8) 中高層建物救助火災訓練
中高層建物の倒壊により屋上に孤立した要救助者を航空機で救助し、地上隊との連携及び通信連絡体制を確認することで災害対応能力の強化を図る。
- (9) 座屈建物救助救出訓練
地震により付近の建物が倒壊し、消防車両が接近できない建物屋根上に孤立した要救助者を航空機で救助し、地上隊との連携及び通信連絡体制を確認することで災害対応能力の強化を図る。
- (10) 噴火災害救助訓練
浅間山の中規模噴火により噴石等で負傷した要救助者を航空機で救助し、地上隊との連携及び通信連絡体制を確認することで、災害対応能力の強化を図る。
- (11) 山林火災救助訓練
地上隊が接近困難な環境で発生した林野火災現場で、消防防災ヘリコプターによる消火活動を実施し、災害対応の能力の向上、統制機による地上隊との交信及び航空機間の交信による連携活動を行い、通信体制の向上を図る。

(12) 航空後方支援活動訓練

基本計画及び要請要綱に基づき、ヘリベース等において航空指揮支援隊及び航空小隊が長期間の活動を可能とするため必要な輸送、補給等支援体制等の受入れ体制の構築を図るとともに、応援航空隊の自己完結能力向上及び効果的な後方支援活動を行う。

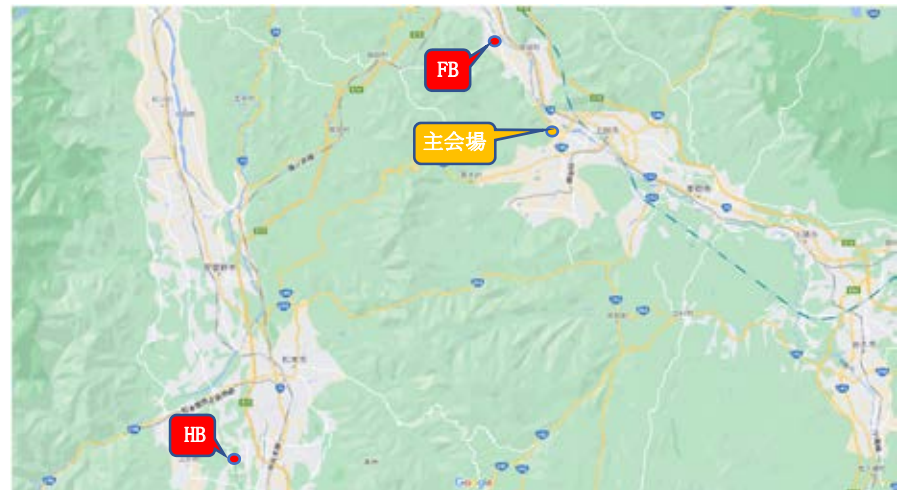
(13) 燃料補給訓練

各航空機は飛行ルートや活動時間から燃料消費量を計算し、ヘリベースとフォワードベースにおいて必要な燃料調達を行い、地上隊と協力した円滑な給油を行う。

4 参加機関

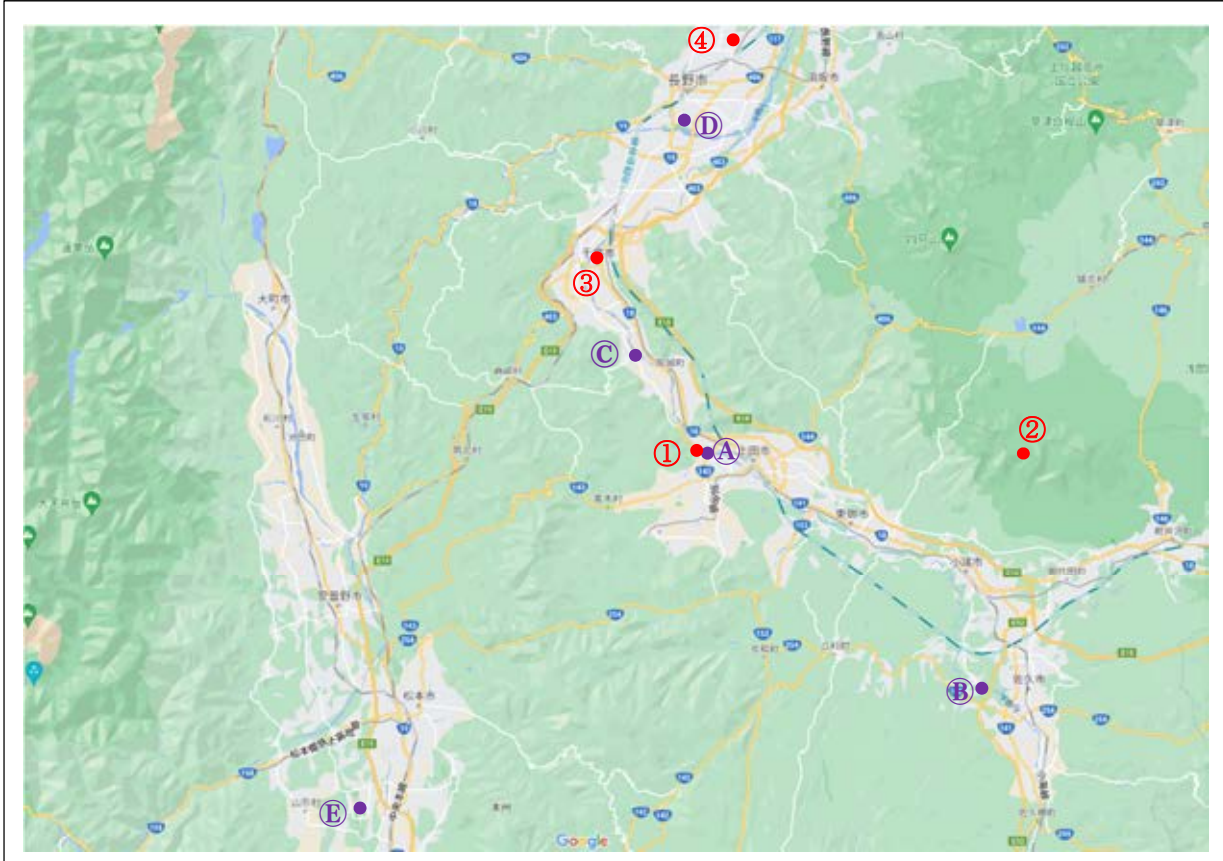
機 関 名	小 隊	任 務
東京消防庁装備部航空隊	統括指揮支援隊輸送小隊	指揮支援隊輸送・上空観閲・上空偵察情報収集
横浜市消防局航空消防隊	指揮支援隊輸送小隊	指揮支援隊輸送・広域航空搬送・救助
埼玉県防災航空隊	指揮支援隊輸送小隊	指揮支援隊輸送・救助・情報収集
静岡県消防防災航空隊	指揮支援隊輸送小隊	指揮支援隊輸送
新潟県消防防災航空隊	指揮支援隊輸送小隊	指揮支援隊輸送・救助
群馬県防災航空隊	航空指揮支援隊	航空指揮支援隊輸送・上空偵察
岐阜県防災航空隊	航空後方支援隊	航空後方支援
栃木県消防防災航空隊	航空小隊	消火
千葉県消防航空隊	航空小隊	消火
茨城県防災航空隊	航空小隊	救助
山梨県消防防災航空隊	航空小隊	救助
長野県警察航空隊		上空偵察情報収集・救助
信州ドクターヘリ佐久		傷病者搬送
陸上自衛隊 (第12ヘリコプター隊)		隊員搬送 (先行投入)
海上保安庁 (第九管区)		救助

5 ヘリベースとフォワードベース

	<p>ヘリベース (HB) 松本空港 松本市大字空港東 9030 北緯：36度10分00秒 東経：137度55分22秒 最大駐機数 15機</p>
	<p>フォワードベース (FB) 萬葉の里 スポーツエリア 千曲市上山田 北緯：36度28分23秒 東経：138度09分05秒 最大駐機数 8機</p>



6 航空機訓練会場



(1) 指揮支援隊輸送訓練・航空後方支援活動訓練

④ 半過ヘリポート
指揮支援隊輸送訓練
横浜市消防局（はまちどり1）



③ 千曲川スポーツ交流広場
指揮支援隊輸送訓練
埼玉県防災航空隊（あらかわ4）



② 萬葉の里スポーツエリア
指揮支援隊輸送訓練
静岡県消防防災航空隊（オレンジアロー）



① 長野犀川第二緑地公園
指揮支援隊輸送訓練
東京消防庁（おおたか）
新潟県消防防災航空隊（はくちょう）



⑤ 信州まつもと空港
指揮支援隊輸送訓練（航空）：群馬県防災航空隊（はるな）
航空後方支援活動訓練：岐阜県防災航空隊



(2) 実動訓練

① おとぎの里一帯
ア 情報収集共有訓練
東京消防庁航空隊（おおたか）
イ 負傷者搬送訓練
横浜市消防局航空隊（はまちどり1）
ウ 孤立集落救助火災訓練
海上保安庁
エ 山林火災救助訓練
千葉県消防局航空隊（おおとり）
栃木県消防防災航空隊（おおり）
茨城県防災航空隊（つくば）



② アサマ 2000 パーク・高峰山
噴火災害救助訓練
埼玉県防災航空隊（あらかわ4）
横浜市消防局（はまちどり1）
山梨県消防防災航空隊（あかふじ）
長野県警察航空隊（やまびこ）
信州ドクターヘリ佐久
陸上自衛隊



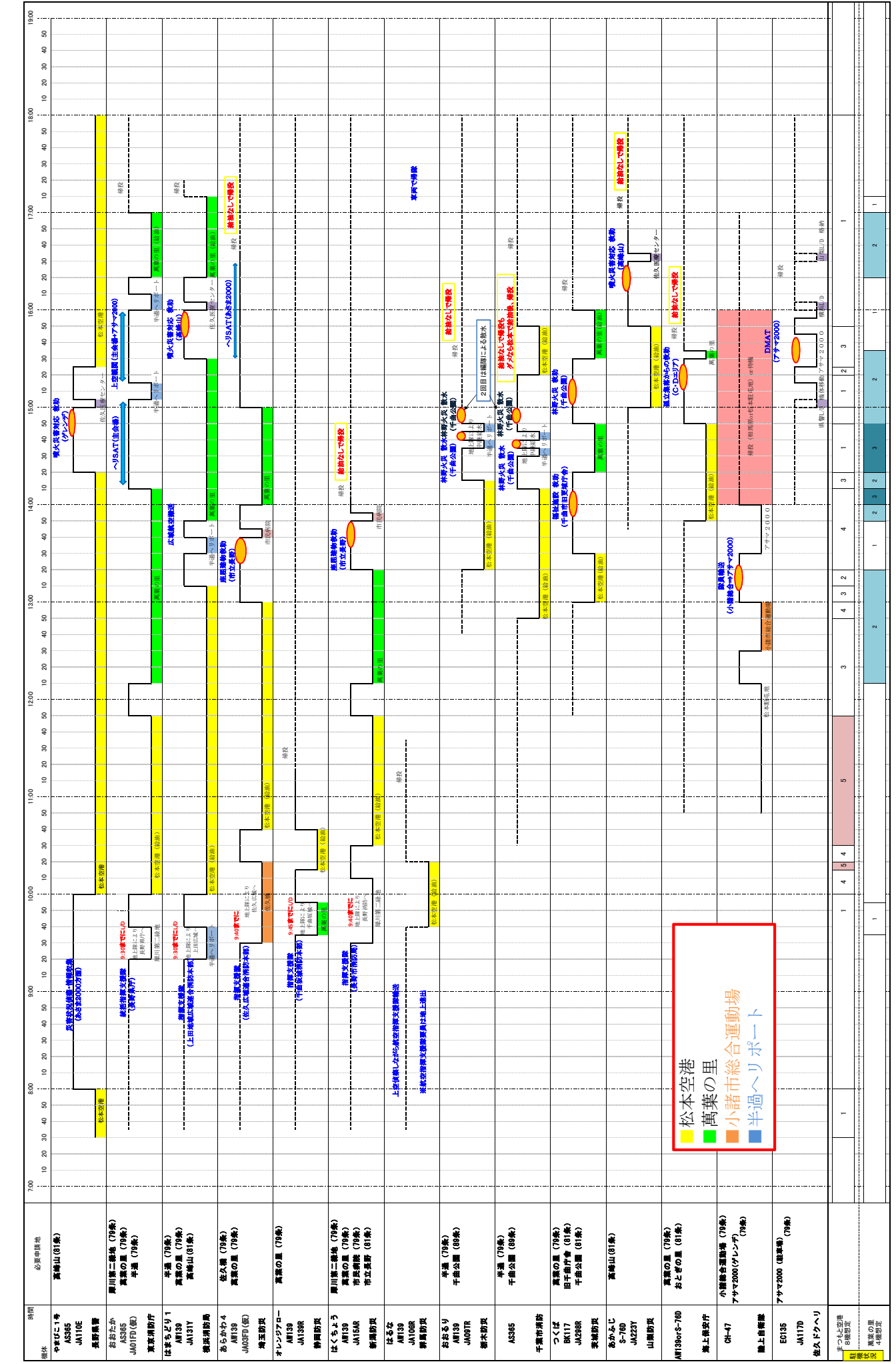
③ 千曲市旧更埴庁舎
中高層建物救助火災訓練
茨城県防災航空隊（つくば）



④ 長野市立長野高等学校
座屈建物救助訓練
埼玉県防災航空隊（あらかわ4）
新潟県消防防災航空隊（はくちょう）



訓練実施計画上の航空小隊運輸予定表 令和3年6月22日段階 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、各参加航空小隊と調整を図る前の計画



事務局員紹介



事務局員紹介



総務担当班長 豊森 孝弘（危機管理部消防課）

担当：予算・各種会議関係 消防庁・関係機関等調整業務

これまでの勤務ではほとんど接することのなかった消防の同僚との勤務は目から鱗の連続で、楽しくかつ貴重な、あっという間の2年間となりました。感謝です！

訓練担当班長 渡辺 勉（長野市消防局）

担当：訓練要綱・要領関係、消防本部・関係機関等調整業務

素晴らしい経験をさせていただきました。多くの皆様に御協力いただき感謝申し上げます。

総務・訓練担当副班長 大久保 篤（上田地域広域連合消防本部）

担当：主会場関係機関調整・女性消防吏員活躍推進ディスカッション・部隊進出訓練・後方支援活動訓練
本訓練に関係された全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

訓練担当 小山 圭一（佐久広域連合消防本部）

担当：噴火災害救助訓練・倒壊建物救助訓練・NBC 毒劇物事故対応救助訓練・Web 図上訓練・ソロテント宿営提案

この1年半で様々な事を勉強することができました。ありがとうございました。10年後の事務局員の皆さん頑張ってください。

訓練担当 小松 健人（上伊那広域消防本部）

担当：座居建物救助訓練・列車横転事故救助訓練・浸水地域救助訓練・Web 図上訓練・ソロテント宿営提案

次回以降のブロック訓練が災害等に左右されずに無事開催出来ることを願っています。

訓練担当 春原 智一（千曲坂城消防本部）

担当：中高層建物救助火災訓練・屋外タンク火災救助訓練・夜間新幹線救助訓練・情報収集共有訓練・Web 図上訓練

事務局での出来事全てが最高の経験でした、その経験を糧として精進し邁進してまいります。ありがとうございました。

訓練担当 瀬脇 新（木曾広域消防本部）

担当：トンネル内多重衝突事故救助訓練・土砂崩落救助訓練・孤立集落救助火災訓練・山林火災救助訓練

事務局員として貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

参考資料



緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 長野県実行委員会設置要綱

(目的)

第1条 緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画（平成16年2月6日付け消防震第9号）、緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱（平成27年3月31日付け消防広第74号）、緊急消防援助隊の運用に関する要綱（平成16年3月26日付け消防震第19号）及び緊急消防援助隊関東ブロック連絡会議設置要綱第5条に基づく令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（以下「訓練」という。）を円滑に実施するため、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会（以下「実行委員会」という。）を設置する。

(業務)

第2条 実行委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 訓練の企画立案及び実施に関すること。
- (2) 国、関係都県、関係消防機関及び関係防災機関との連絡調整に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) その他必要な業務に関すること。

(組織)

第3条 実行委員会は、長野県、長野県内の各消防本部（局）及び長野県消防長会をもって組織する。

- 2 実行委員会に委員長を置き、長野県危機管理部長をもって充てる。
- 3 実行委員会に副委員長を置き、長野県緊急消防援助隊代表消防機関及び代表消防機関代行消防（局）長をもって充てる。
- 4 実行委員会の委員は、前項以外の長野県内の各消防本部消防（局）長、長野県危機管理部消防課長及び長野県消防防災航空センター所長をもって充てる。
- 5 実行委員会に監事を2名置き、長野県消防長会監事をもって充てる。
- 6 実行委員会に作業部会を置き、作業部会に必要な事項は、委員長が別に定める。

(職務)

第4条 委員長は、実行委員会を代表し、会議を掌理する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは職務を代行する。
- 3 監事は、会計を監査し、その結果を実行委員会に報告する。

(会議)

第5条 実行委員会の会議は、委員長が招集して開催する。

- 2 会議の議長は、委員長がこれにあたる。

(経費)

第6条 実行委員会の経費は、国、長野県及び長野県内の各消防本部（局）の負担金並びにその他の収入をもって充てる。

(任期)

第7条 実行委員会委員の任期は、実行委員会設置の日から訓練及び全ての事務処理が終了し、実行委員会の承認をもって解散するまでの間とする。

(事務局)

第8条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局の構成は、事務局長及び事務局員とし、委員長が指名するものとする。
- 3 事務局に必要な事項は、委員長が別に定める。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、令和2年6月2日から施行する。

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 長野県実行委員会名簿

令和2年6月2日現在

役 職	所 属 職 名	氏 名
委 員 長	長野県危機管理部長	竹 内 善 彦
副 委 員 長	長野市消防局消防局長	佐 伯 英 則
	松本広域消防局消防局長	塩 原 久 典
委 員	上田地域広域連合消防本部消防長	越 浩 司
	飯田広域消防本部消防長	赤 羽 目 金 利
	佐久広域連合消防本部消防長	黒 岩 亨
	諏訪広域消防本部消防長	宮 坂 浩 一
	上伊那広域消防本部消防長	田 畑 公 徳
	岳南広域消防本部消防長	三 井 浩 一
	千曲坂城消防本部消防長	横 林 伸 一
	北アルプス広域消防本部消防長	勝 野 一 徳
	須坂市消防本部消防長	飯 塚 俊 樹
	岳北消防本部消防長	本 山 栄 二
	木曾広域消防本部消防長	谷 口 利 則
	長野県危機管理部消防課長	前 沢 直 隆
	長野県消防防災航空センター所長	石 坂 秀 彦
監 事	須坂市消防本部消防長	飯 塚 俊 樹
	木曾広域消防本部消防長	谷 口 利 則

令和3年4月1日現在

役 職	所 属 職 名	氏 名
委 員 長	長野県危機管理部長	中 村 宏 平
副 委 員 長	長野市消防局消防局長	佐 伯 英 則
	松本広域消防局消防局長	島 田 宏 光
委 員	上田地域広域連合消防本部消防長	堀 池 正 博
	飯田広域消防本部消防長	有 賀 達 広
	佐久広域連合消防本部消防長	黒 岩 亨
	諏訪広域消防本部消防長	花 岡 則 秀
	上伊那広域消防本部消防長	柿 木 淳 一
	岳南広域消防本部消防長	池 田 悦 智
	千曲坂城消防本部消防長	横 林 伸 一
	北アルプス広域消防本部消防長	山 本 智 通
	須坂市消防本部消防長	飯 塚 俊 樹
	岳北消防本部消防長	本 山 栄 二
	木曾広域消防本部消防長	谷 口 利 則
	長野県危機管理部消防課長	柳 沢 剛
	長野県消防防災航空センター所長	石 坂 秀 彦
監 事	岳南広域消防本部消防長	池 田 悦 智
	岳北消防本部消防長	本 山 栄 二

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県作業部会設置要領

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の実施にあたり、長野県実行委員会が設置されるまでの間、必要な事務を執り行う作業部会の設置について、次のとおり定める。

(目的)

第1条 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会（以下「実行委員会」という。）が設置されるまでの間、必要な業務を円滑に推進するため、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県作業部会（以下「作業部会」という。）を設置するものとする。

(業務)

第2条 作業部会は、部会長の指示に基づき、次の事項について審議するものとする。

- (1) 訓練の企画立案に関すること（予算に関することを含む）。
- (2) 訓練の実施に関すること。
- (3) その他訓練に必要な業務に関すること。

(構成員)

第3条 作業部会に部会長を置き、長野県危機管理部消防課長をもって充てる。

2 作業部会に副部会長を置き、長野市消防局（代表消防機関）の警防課長をもって充てる。

3 作業部会員は、部会長が指名する消防本部（局）の警防課長（又は同等職の者）、長野県消防防災航空センター消防航空隊長及び長野県健康福祉部医療政策課長とする。

(会議)

第4条 作業部会の会議は、部会長が招集して開催することとし、会議の議長は部会長が当たる。また、会議は代理出席を認めるものとする。

(事務局)

第5条 作業部会の事務を円滑に処理するため、長野県危機管理部消防課に事務局を置く。

2 事務局員は、長野市消防局、上田地域広域連合消防本部及び長野県危機管理部消防課の担当職員各1名をもって充てる。

(その他)

第6条 実行委員会設置後、当作業部会は、「実行委員会作業部会」に、作業部会事務局は「実行委員会事務局」に移行するものとする。

2 この要領に定めるもののほか、作業部会の運営に必要な事項は、部会長が別に定める。

附 則

この要領は、令和2年4月14日から施行する。

長野県作業部会名簿

令和2年4月27日現在

部会役職	所 属	所属職名	氏 名
部 会 長	長野県危機管理部	消防課長	前 沢 直 隆
副 部 会 長	長野市消防局	次長兼警防課長	宮 沢 英 夫
部 会 員	上田地域広域消防本部	警防課長	石 井 重 男
	松本広域消防局	消防局次長兼警防課長	大久保 壽幸
	佐久広域連合消防本部	消防次長兼警防課長	小 林 透
	飯田広域消防本部	警防課専門幹	宮 澤 徳 生
	千曲坂城消防本部	警防課長	中 村 賢 吾
	長野県消防防災航空センター	消防航空隊長	水 崎 厚 史
	長野県健康福祉部	医療政策課長	小 林 真 人

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 長野県実行委員会作業部会設置要領

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会設置要綱第3条第6項の規定により、作業部会の設置について次のとおり定める。

(目的)

第1条 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会（以下「実行委員会」という。）の業務を円滑に推進するため、実行委員会作業部会（以下「作業部会」という。）を設置するものとする。

(業務)

第2条 作業部会は、実行委員会委員長の指示に基づき、次の事項について審議するものとする。

- (1) 訓練の企画立案に関すること（予算に関することを含む）。
- (2) 訓練の実施に関すること。
- (3) その他訓練に必要な業務に関すること。

(構成員)

第3条 作業部会に部会長を置き、長野県危機管理部消防課長をもって充てる。

2 作業部会に副部会長を置き、長野市消防局（代表消防機関）の警防課長をもって充てる。

3 作業部会員は、部会長が指名する消防本部（局）の警防課長（又は同等職の者）、長野県消防防災航空センター消防航空隊長及び長野県健康福祉部医療政策課長とする。

(会議)

第4条 作業部会の会議は、部会長が招集して開催することとし、会議の議長は部会長が当たる。また、会議は代理出席を認めるものとする。

(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか、作業部会の運営に必要な事項は、実行委員会委員長が別に定める。

附 則

この要領は、令和2年4月14日から施行する。

この要領は、令和2年6月2日から施行する。

長野県実行委員会作業部会名簿

令和2年6月2日現在

部会役職	所 属	所属職名	氏 名
部 会 長	長野県危機管理部	消防課長	前 沢 直 隆
副 部 会 長	長野市消防局	次長兼警防課長	宮 沢 英 夫
部 会 員	上田地域広域消防本部	警防課長	石 井 重 男
	松本広域消防局	消防局次長兼警防課長	大久保 壽幸
	佐久広域連合消防本部	消防次長兼警防課長	小 林 透
	飯田広域消防本部	警防課専門幹	宮 澤 徳 生
	千曲坂城消防本部	警防課長	中 村 賢 吾
	長野県消防防災航空センター	消防航空隊長	水 崎 厚 史
	長野県健康福祉部	医療政策課長	小 林 真 人

令和3年4月1日現在

部会役職	所 属	所属職名	氏 名
部 会 長	長野県危機管理部	消防課長	柳 沢 剛
副 部 会 長	長野市消防局	消防局次長兼警防課長	宮 沢 英 夫
部 会 員	上田地域広域連合消防本部	警防課長	石 井 重 男
	松本広域消防局	警防課長	小 島 康 幸
	佐久広域連合消防本部	消防次長兼警防課長	小 林 透
	諏訪広域消防本部	消防課長	上 原 昭 司
	千曲坂城消防本部	警防課長	中 村 賢 吾
	長野県消防防災航空センター	消防航空隊長	水 崎 厚 史
	長野県健康福祉部	医療政策課長	小 林 真 人

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会事務局設置要領

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会設置要綱第8条第3項の規定による事務局に必要な事項について、次のとおり定める。

(業 務)

第1条 事務局は、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会（以下「実行委員会」という。）に関する事務を行う。

(事務局の位置)

第2条 事務局は長野市内に置く。

(構 成)

第3条 事務局員は、長野県及び長野県内消防本部（局）の職員をもって充て、構成は別表1のとおりとする。

(職 務)

第4条 事務局長は、事務局の事務を統括し、職員を指揮する。

2 事務局に事務局長を補佐する者として、総務担当班長及び訓練担当班長をそれぞれ1名置く。
また、総務担当班長及び訓練担当班長を補佐する者として、総務担当・訓練担当兼任副班長1名を置く。

3 事務局の分掌事務は、別表2のとおりとする。

(専 決)

第5条 事務局長は、実行委員会委員長の権限に属する事務のうち、別表3に掲げる事項を専決することができる。

2 事務局長は、前項の規定により専決したときは、その内容について、適宜実行委員会に報告する。

(文書の取扱い)

第6条 文書の発信者名は、原則として実行委員会委員長名を用いる。ただし、作業部会に関する文書については作業部会長名を、簡易な文書については事務局長名を用いることができる。

(公 印)

第7条 事務局で使用する公印は、別表4のとおりとする。

2 前項で使用する公印は、事務局長が保管する。

(会計事務の委任)

第8条 実行委員会委員長は、会計に関する事務について、これを事務局長に委任する。

(出納員及び現金出納)

第9条 事務局に出納員を置き、事務局長をもって充てる。

2 現金の出納は、原則として八十二銀行県庁内支店を通して行うものとする。

(補 足)

第10条 この要領に定めるもののほか、事務局の運営に関し必要な事項は長野県の例によるほか、事務局長が別に定める。

附 則

この要領は、令和2年6月2日から施行する。

附 則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

別表1 (第3条関係)

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会事務局名簿 (令和2年6月2日現在)

役 職 名	団 体 名 ・ 職 名 等 ・ 氏 名
事務局長	長野県危機管理部消防課 課長 前沢直隆
総務担当班長 訓練担当班長	長野県危機管理部消防課 課長補佐(緊急消防援助隊訓練担当) 豊森 孝弘 長 野 市 消 防 局 消防司令 渡辺 勉
総務担当・訓練担当 兼任副班長	上田地域広域連合消防本部 消防司令補 大久保 篤
総務担当事務局員 訓練担当事務局員	長野県危機管理部消防課 課長補佐兼消防係長 田川 秀和
〃	佐久広域連合消防本部 消防士長 小山 圭一
〃	上伊那広域消防本部 消防士長 小松 健人
〃	千曲坂城消防本部 消防司令補 春原 智一
〃	木曾広域消防本部 消防士長 瀬脇 新
〃	長野県危機管理部消防課 主任 竹内 幸一
〃	〃 主任 池上 駿

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会事務局名簿 (令和3年4月1日現在)

役 職 名	団 体 名 ・ 職 名 等 ・ 氏 名
事務局長	長野県危機管理部消防課 課長 柳沢 剛
総務担当班長 訓練担当班長	長野県危機管理部消防課 課長補佐(緊急消防援助隊訓練担当) 豊森 孝弘 長 野 市 消 防 局 消防司令 渡辺 勉
総務担当・訓練 担当兼任副班長	上田地域広域連合消防本部 消防司令補 大久保 篤
総務担当事務局員 訓練担当事務局員	長野県危機管理部消防課 課長補佐兼消防係長 田川 秀和
〃	佐久広域連合消防本部 消防司令補 小山 圭一
〃	上伊那広域消防本部 消防士長 小松 健人
〃	千曲坂城消防本部 消防司令補 春原 智一
〃	木曾広域消防本部 消防士長 瀬脇 新
〃	長野県危機管理部消防課 主任 池上 駿
〃	〃 主任 小橋 遼

別表2 (第4条第3項関係)

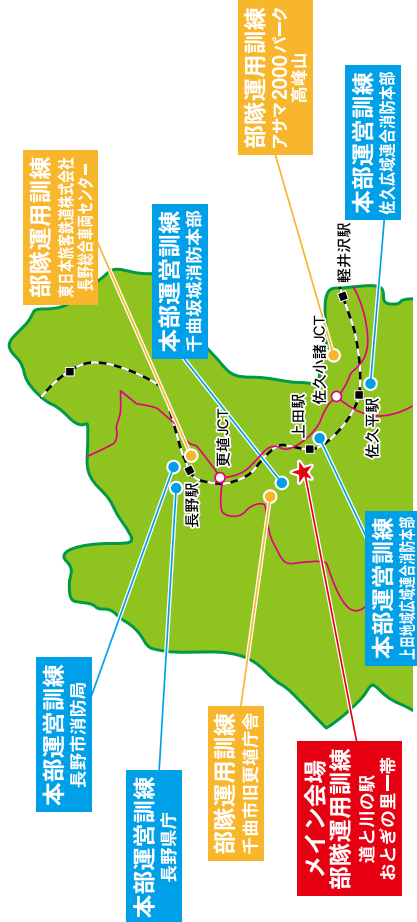
事務分担	分 掌 事 務
総務担当	1 予算の執行に関する事 2 予算書及び決算書の作成に関する事 3 各種会議の開催に関する事 4 国及びブロック内都県との連絡調整に関する事 5 式典の運営及び招待者等の取りまとめに関する事 6 作業部会との調整に関する事 7 その他訓練担当の分掌に属さない事項に関する事
訓練担当	1 訓練の企画立案に関する事 2 訓練会場との調整及び運営に関する事 3 訓練の実施に関する事 4 ブロック内各都県の訓練参加部隊の取りまとめ及び連絡調整に関する事 5 作業部会との調整に関する事

別表3 (第5条第1項関係)

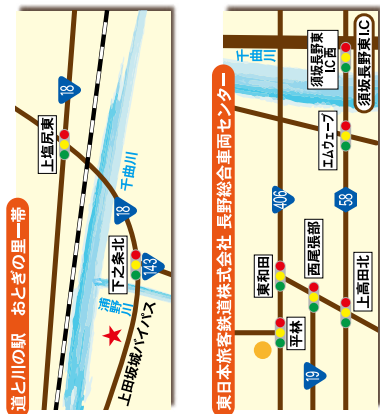
決裁権者	専 決 事 項
事務局長	1 予算の執行に関する事 2 各種届出、通知、照会、回答等に関する事 3 委託料、補助金、負担金等に関する諸手続きに関する事 4 会議等の開催に関する事 5 その他委員長が必要と認める事項

別表4 (第7条第1項関係)

公印の種類	公印の書体	公印の形式	公印の寸法					
職 印 (委員長印)	明 朝 体	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>実 訓 口 助 緊</td> </tr> <tr> <td>行 練 ッ 隊 急</td> </tr> <tr> <td>委 長 ク 関 消</td> </tr> <tr> <td>員 野 合 東 防</td> </tr> <tr> <td>長 印 県 同 ブ 援</td> </tr> </table>	実 訓 口 助 緊	行 練 ッ 隊 急	委 長 ク 関 消	員 野 合 東 防	長 印 県 同 ブ 援	23mm× 23mm
実 訓 口 助 緊								
行 練 ッ 隊 急								
委 長 ク 関 消								
員 野 合 東 防								
長 印 県 同 ブ 援								



部隊運用訓練案内図



令和3年度

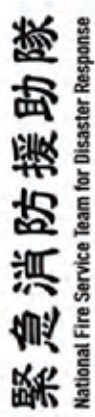
緊急消防援助隊
関東ブロック合同訓練

日時 令和3年10月11日(月) 部隊運用訓練 12:30開始

場所 メイン会場
道と川の駅 おとぎの里一帯 (上田市小泉字塩田川原 2575 番地 2)

サブ会場
アサマ2000パーク (小諸市) 東日本旅客鉄道株式会社 長野総合車両センター (長野市)
千曲市旧更道庁舎 (千曲市)

主催 総務省消防庁・緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会



緊急消防援助隊
関東ブロック合同訓練
長野県実行委員会



緊急消防援助隊
PR動画

緊急消防援助隊とは

緊急消防援助隊は、平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害の発生時に、被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から人命救助活動を効果的かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するため、平成7年6月に創設されました。被災地からの要請を受け、各都道府県の消防本部や航空隊が、空から陸から応援に駆けつけます。この応援部隊こそが、「緊急消防援助隊」なのです。

部隊運用訓練

メイン会場 上田市 道と川の駅 おとぎの里一帯

● 里山集落複合



地震による土砂崩落が発生。トンネル内多重事故、里山火災救助事業が同時に発生した想定。長野県には里山集落が多数あり、今後起こりうる災害です。

● 孤立集落救助火災



山間の集落を多数抱える長野県では、災害により主要道路が被害を受けると、集落が孤立してしまう可能性が高く、いかに、安全・確実・迅速に住民を救出するかが課題です。

サブ会場 小諸市・長野市・千曲市

● 噴火災害 小諸市(アサマ2000パーク・高峰山)



2014年(平成26年)に発生した、長野県と岐阜県の県境に位置する御嶽山での噴火災害(死者58名、行方不明者5名)を教訓とした訓練です。

● 列車横転 長野市(東日本旅客鉄道株式会社 長野総合車両センター)



列車は欠かせない移動手段ですが、過去には地震発生時に横転事故が起きています。大人数を運ぶ列車での災害が発生した際の社会的影響は計り知れません。

● 中高層建物 千曲市(千曲市旧更庁舎)



現在、国内では建築物の高層化が進んでいます。さらに「超高齢社会」で介護施設の需要が増える中、災害が発生した際の対応を検証する複合的な災害想定です。

訓練想定

令和3年9月末から長野県東部を震源とする震度1から3程度の地震活動が続き、10月10日13時現在で震度1以上となる地震を52回観測。長野県東信地方と群馬県を跨ぐ浅間山での噴煙量及び火山性ガスの放出量に目立った変化はなく噴火警戒レベル1を維持していた。

令和3年10月11日未明から長野県東部を震源とする震度3程度の地震活動が続き、7時30分、上田市付近を震源とする堰浅発地震が発生し、震度6強を観測した。地震による家屋の倒壊や土砂崩落が各地で発生し、被害は東北信地域におよんだ。8時15分には浅間山において中規模な噴火が発生し、下山中の登山者が負傷した。地震と噴火が連続して発生し甚大な被害が広域に拡大、負傷者が多数発生した。



● 宿営訓練(展示) ~長野県実行委員会モデル~



宿営時の課題解決のために関東ブロック合同訓練長野県実行委員会がモデル展示を行います。
通常、宿営は大型エアテントで複数人が就寝したり、着替えを行ったりしていますが、この方法では新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策や隊員のプライバシー確保等の観点から解決すべき課題があり、長野県実行委員会、これらの課題の解決の糸口になるよう提案させていただきます。

宿営モデル「5つの柱」

- 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策
- 女性隊員の緊急消防援助隊でのプライバシー確保 → 女性活躍推進
- 宿営設備のコスト削減
- 後方支援活動スベースのコンパクト化
- 設営の負担軽減

本来は実際に宿営で使いたいだけ検証を行う予定でしたが、訓練規模縮小に伴い宿営を中止せざるを得ない状況となってしまいましたので、展示のみを行います。

おわりに

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練における訓練計画作成に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、度重なる計画変更を余儀なくされ、最終的に実動訓練を中止するという苦渋の決断をせざるを得ない状況となりましたが、本業務に携われたことは大変貴重な経験となりました。

計画した訓練が実施できなかったことは本当に残念でしたが、これまでのブロック訓練では行われていなかった「Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練」や「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験」の実施により、今後の緊急消防援助隊の活動における選択肢を増やすことができたものと考えています。

「Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練」では、Web会議システムがそれぞれの機関に居ながら災害の状況を映像で確認し、対面で情報共有できる有効なツールであると評価いただきました。すでに消防本部や都道府県単位でWeb会議システム等を活用し、消防機関との迅速な連携や消防機関の初動対応のスピードアップに繋げている事例も見受けられ、今後一層の拡大が期待されます。

近年、緊急消防援助隊の出動が増加し、今後も地震、豪雨、噴火、テロなど様々な災害の発生が予想されています。大規模災害時の通信インフラの被災は、Web会議システムだけでなくDJSやSJKなどの多くのシステムに影響する課題であり、応受援の規模に関わらず災害の状況を迅速に分かりやすく伝え、円滑な調整を実施するためには、全国的に統一されたシステムの構築や災害に強い通信環境も重要であると考えます。

「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験」では、特に新型コロナウイルスの感染防止と女性消防吏員が緊急消防援助隊に派遣される際の課題を踏まえ、ソロテントによる宿営を提案し、密状態の回避による感染防止やプライベート空間の確保等の効果とともに、設営負担の軽減や体育館等の広い屋内での使用も有効との御意見もいただきました。

県内消防本部の御協力をいただき、気温がマイナス（最高気温 -1°C 、最低気温 -10°C ）の極寒の中で実証試験を行うことで、適切なテントのサイズや疲労回復度合い等について確認することができました。気象や宿営場所によって条件は異なりますが、隊員が安全に最大限能力を発揮して活動をするためには、宿営環境の改善を図ることも必要です。

利便性の高い有効なツールの導入や宿営環境の改善は、関係機関や隊員の対応力の向上と被災地での迅速で安全な消防活動に繋がります。今後も訓練や実災害を通じて継続した検証と連携を図り、緊急消防援助隊の体制強化が進むことを願います。

最後に、令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の実施と、この実施報告書の作成に当たり、多大な御支援と御協力をいただきました各都県関係機関、長野県内外消防機関の皆様方に感謝申し上げます。

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
長野県実行委員会事務局



「令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 実施結果報告書」

発行年月 令和4年3月

発行者 令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会
<事務局>

〒380-0917 長野県長野市大字稲葉字八幡田沖 2413-11
長野県南俣庁舎3階

